

Copyright 日本建築学会

渡獨記

上

自昭和十九年十一月
至昭和二十一年三月
三十日

東京市本郷区西片町一〇二人
(小石川一〇五〇)

所有者

伊東忠太

木原

Mr. Chita Tada
Tokyo University
Fukuhara-cho 13

Mr. Chita Tada

Tada

Chita

Chita

13

Besitzer dieses Notizbuches:

Prof. Dr. Chuta Ito
Harnack-Haus
Berlin-Dahlem
Deutschland.

Hongō-Nishikatamachi 10.
TOKYO
JAPAN

渡獨雜記

昭和二十一年十一月入函電を以て承り。丁度日本を
脱出後、そこにはたゞおはなとおもふ事無くお子とし
かれた。子供第一回の食事は亥子年正月二日で
ニ内もきささしこづされ返事同三月二日。子ニ
子供が出来ぬ事不思議ある。子供三ヶ月未満かやと云ひ
在し。四月十四日を五歳と算被。故少は頬筋にツツ
テキサ一筋の赤き筋が立ち上る。此財、已じい
入函電は他アマタスヨリ、またノモ高麗王主婦に
てナラニ支給したと云ふ。又シテ日本へはアマタ
御子、子供第一回の食事は亥子年正月二日で
承り。丁度日本を

昭和十二年正月二十日立候。未だ未だ
ハド見付は申布調し、イソウの小枝葉々々々
セハヘンシト御前。色ロソシテ御身。未シムタタル
ミヤ麻糸御前。セヒルヒテ御身。御身
御身。丁度日本へはアマタスヨリ、またノモ高麗王主婦に
てナラニ支給したと云ふ。此財、已じい
入函電は他アマタスヨリ、またノモ高麗王主婦に

未だ見付は申布調し、イソウの小枝葉々々々
セハヘンシト御前。色ロソシテ御身。未シムタタル
ミヤ麻糸御前。セヒルヒテ御身。御身
御身。丁度日本へはアマタスヨリ、またノモ高麗王主婦に
てナラニ支給したと云ふ。此財、已じい
入函電は他アマタスヨリ、またノモ高麗王主婦に

二月に入ると大忙所で、ひきシト子引手附玉
来た。モツコヘアーテルもあたたかうと心地よいと
確信を深む。山で木は初めて四ヶ月間が常
例と想出る。若山の木もやれかれた時に既
に木がよき御手まへシといふの印象がついた。

- ① 木手まへシは往復四ヶ月のじと
- ② 正定は日暮渡と山浦渡を前にした

さて更のこと

③ 木手まへシは伊豆かこと

蓋費用に不足たゞ一石をもつてこと
にて。このイド下ターラーで、酒井の木手まへシが採
りすぐく、皆山のあらわれば、モツコ自下附玉を
各方面々交渉レミツク大詔さし算。おほびに
御用度をひきあひて、安全の保障を得た。
ヒヨニギフ。木手まへシをニちべしと申したつ。

こういふ下ターラーは、Suzan すよか
ークを御用度と申して、四ヶ月は掛も一シ月
とつを想みたり。是れなく六ヶ月として木手を
預心。アニハ下体屋友五郎の答にて。次に
又は下体屋友五郎の信函より、是れ
日本化粧合会側よりハシタラム元三にて、
現金の支拂いに足りぬ時は、泉と之北十九ヶ所、或然
可也。又ハヒキ井戸の貯金、十六月の賃、八月の
シテの貯金等、泉と上池区
の賃金等を附せしものと予ライ退便に六ヶ月の
木手を付すが如レヒつま變せば入り、急速スナフ
ト搭き促し奉る。

予は大物商の事、向て莫を以て貰を以て。文部省と云々^{ハシタラム}
度外視す。こゝモハアトモアトアト對はせざる。尚ほ
早大工工業大学堂モアトアトアトアトアトアト
シテ、出づ方のイリカキ字自手セラレバノア、アリ
所處の内宮中無くあれ。

3
三月に入り。予は内心都城を遊くぐみだ。予到
たるところ。後が具体的行動を管へ。在松原
と秋田打ち合せ、湯浅、油津川在せば北山の木手
民と交渉し確實の取扱を得らる。事も通り、木手
筋もとして、既出の木手を改め、木手の木手に
木手長と内宮に承認を得、使用可とされたので
既に預託して置いた。

翌日、点検して、アは最初打ひる點を取。岩田
山手の木手大詔度を基礎とし又入度を
一人一石まで一万五千円換算され算と申す。木手
木手加算と二人五石半と算。木手一万八千円を參
する範囲をセコロ木手付半と通す子面半もべきの
分共、既より下ることと申して置いた。

これにて大津の木手は既まくシ由る四月日暮渡を候
う御前と正式会見。正式度度の吉送音に饗食と
早速方舟へ進路ヤク。但此出度期程度未だある
木手を自下付木手と申露ヤク。ニ此度度中付
繩を利用して、底度の準備を圖へ又ナル木手
中の用件を片付くるるあり。

行駛はためシベリア鐵道を横りに万サリ度と
申。木手ソツ開拓標示度化へ使向みニシベリアモ木手
は或は木手以ハハ千石とあらべことの既あり。既ち
海路子由々こと。これより、既が里川野次西野川
モの支配す。國際汽船の便坐ラクニ申御み難め
たり。そり理由は① 貨物の安さと② 船中留め
て安易と簡便あること。③ 速力大め。とて荷物
大の轟びて之從ふこと。又木手シベリア鐵道モ
移転至計上セコロ海路ス要來したる積累荷揚を被
受シ大の難運を主する。船貨の收率ハモウ
好御合御狀度あり。

斯くて予の海路の事務官附上子事度さん
お車内伊答一子と申候と申と申得て向ひ
既度付御事務上御相談。既度ハ既度の公事にて出張す。

（五）便り京か支那かさき山じうる。或人は子の活潑
と大變成みて子を激励し、或人は子變成みて
是欣懃。止まう玉へて云ひ、或人は場に不變成
み詮するも固、止むが安全ありと云ひ、或人は
既に變成と詮どりゆ、式子行く可あらんなど
因々として一々うる。併し會議は既に多數体決
致り既とう意のつる。既に由本體。決意を堅
め、暮々準備を進めた。

こう間手は手の涼御すむ御せ書簡をそつて、
歌う可否の判決を詮ねたるも、頗るは否と詮
あり。オニ次は可、第三次に可を得たり。即ちその
美示半端で決行せらば次手ふう。

遂よりいよいよ準備に入り、先づ個別大會
にて成ひべき六四互換、議成の數目を決定。
その原稿正副二部の作成を急ぐ傍、之を原
稿もアドバイス、審査、監査の7回繰み居手し、國
見えを書らし。自らや大量みて當局うら一方
手は、今まで、山木高セラ各方面の仕事う片附サ
み波頭ひ、同時に船交社、外務省、報社、
大蔵省、各大学等々西洋東洋寸時の餘暇を
得て、子生れて煙めりと夢むと見れこととしめじ
て居じた。

この中便りハ之が為に富されず、十数次に通
じて食事・出張の上り腹痛を授けるに至らず。殆に
病院か邊りに通わせり。差別会を催され
て、主人は？

6. 横濱	2. 本邦内	3. 早駆走
7. 大阪	4. 工業化・道筋	5. 市場大通路
8. 五ヶ谷	7. 大合文	9. 田舎風山野
10. 朝鮮新羅島	10. 入洋文	11. 美術手本

1. 文化政策 13日開文化公会

（六）印鑑の取扱、銀鑄造工芸館、國立大正美術館、舊中華銀行本館の移設、新日本銀行本館の移設

便りは開催地の前天未が九月二十四日本
午後三時、[REDACTED]定められし。且ち
予慶安樂こと同席は、望より御免されと詮め、
同会社の香椎丸と十一月十四日横濱港、ハーバー
ワード、横濱、ハンドルゲート直航なることあり。また
大け早揚の食事日を得たらも、とれだけ御用出張
を第一優先とせらる。所幸アコロは是時わざなし。

六月廿四日午後二時半、[REDACTED]御用は、
ふつら金輪に遣使手く7回へらる。屬をよみ
御用者と並る者等の野まり衣服を一式、日本
室装束添拂品、參考書類、筆記一冊(コレ
入深見し心身の)、溝通用至敷、寄題用墨及
御用局、軍々、直幅、ふくす御こじら、御用の
子登り櫻め、復用うつて持と十一月十二日
先づ横濱う音稚先に送り。いたく十四日出發を
テラスヒト、アリタリットとより是き。

然る事無く、十二月廿四日、[REDACTED]に
次第手渡を先渡せ。

（七）相ひてけり算段面譯の費用は、丁度支拂ひ未だ
ノリ。但書よりの金額はさへも、且ゆの振替の甲より
金額と日本金額とざれど。

（八）行方を失ひ、且つ久々。因ゆる一泊吉野行にて宮古
龍門山城(人馬三三連れり)、又別トナル旅つて吉野森林
にて宿泊をとる事(十日程)。

以上トナルモ一チマード(以降)とておならん
事は主の既の行先とお車チャリ路づらか今更無基なん
ば思ひ難すれど。

（九）伊豆山、伊豆山の御用は、一月廿日御用
主機の運び十日間のうち萬葉ツ森厚耕は一月三十日
に主機の運びと日本御用にて現れりとぞ。日本文化
文庫本に記入し御著手とぞ。子の文庫/ヨリヨリ所
持の本を少く、其の後又、16日、22日、25日御用御用
にて、此の文庫本を三つ(内二)御持とぞ。又、25日
16日、22日、25日御用御用にて、御用日本文化文庫の御用御用
にて、此の文庫本を三つ(内二)御持とぞ。又、25日
16日、22日、25日御用御用にて、御用日本文化文庫の御用御用

種は全國の子の漫遊を大いに懸念するに因る。申すべし手の一生の心の次第の最後の一環は即ちこれをもべし。予や生れと年月あれども幼少よりニテ特徴性を失したるが如く、而してその特徴は卓として世間の風潮と同様に実際の通用されたるといふ事なり。之に申す所ある運命ぶりと想ふ。心の力によつて是が如く思ひ立つて漫遊に比して去きたり。幼少より文部省を経ては、其後して陸軍及び警備として役を立つたり。又おこして手藝を女房として長じて匪賊家として突きを廢せり。假令大國志、大太極、大足智、大足智へたる筋ハザリシニキセキ。幼少の趣味を長く失はずに之を活用することを圖るるは幸運至りと思ふ。外国ノ旅は勿論、陸上漫遊より既往十六年より五年で日本を経てヨーロッパ、学術上大なる益を得たるゝ。本筋筋を機として漫遊に乗り假令ヨーロッパにて満喫すること能ハざるみせよ、之の利便は甚だ少しきをす。今や夢志だらしそシ先驅者授業奉參され、異邦ノ日本文化を宣傳する本懐と云ふ本懐ある。自出しく使命を置くことを得ば即ち僕等ある。即ち幼時跡かへたらう擅子は始と終て不充、点がうち實を高めよと重ねりと思ひは。予は之に満足せざるべからず。予や乍古御を想え、前金あれ、志さんと歎するゆう少くありませぬ。算今後あり、今多くを望むべからず。全国の使命を終じには、子の成すべき事は大体られて済むべく頑張ること頗るできか。

早朝起きて、當覺の準備をあら正好である。重装手袋の墨かすを被せる。一窓、全部、手袋の人の身と手袋を共にして這出る私しの四手が頭を出て手足を暖め同か。此時二十九歳と立ちよきれど、本校小武島兩君先遣人の手筋の準備して居る。見送人は院内若干の者と來る。予やお預けを交換しては、山田大二郎、室百瀬さん、先輩、阿波、石友、門形、脚、等の中に相川、大庭、南良、田中義大、近藤、西原義道、佐久一、佐野、大庭等の足利家、松浦家、近江、入野兄弟、西野、内藤正敏等の御成家めう子羽一派や他所、提供國の上杉謙信、三ツ矢親王、子毛り、舟岡丸子搭乗すれば、寛永寺、和泉、淀川高砂、大阪、伏口、堺、近畿、京都、之等一處。日本水田大二郎、子供の歌人歌道の模範南無へて来る。宇喜多主膳より子宮は甲辰の、近藤信重、船橋主在り。例のターブ引きり行司ある御室室小首と官車と御手を浮きこげ手すて地獄されば手は塵と答ふるに相成。やがて御手すて御手出せばアーッ! は笑ひにかからん。主客處へ御手を取るハルカーブを被ら手を取て別れを惜れ。生と別れ思ひ入らずふるまで立ち去り。

船の上に上り、スタート。九十九里の宮から芦葉二十九八重美乃、船名に以て人之意、大庭、南、近江、丹波、河内九十九里の船人。

やがて船に入りて食堂に入る。第一舟へ子一行と大庭、歌謡、御歌、御歌長の五人、御車へ四人（日向と大庭）と上、御車へ二人、御車へ四人、近江、近畿、御向島外一人と計五名。一足田知れぬと御歌は叶う様に平穏。御晴の音速の天機を祝して安らかに船を脱ぐ。△船がハングル篇で、船中約一書信八千葉、日本、無原題紙の題する由、さて便利あり。

十一月十五日(火)

晴 気温 15度 (気温は直射、以下同じ)
 船の集団移動を、食事規定を朝八時、午十時、
 午六時、船主幹会に以て、食事不足を、只手十時より
 運営運送をレギュラにす。
 外食獲物は豊富に與あり、大島氏常、昇官して感激
 せんせつあり。

被服・行燈、四日目

七五三、ニヤマヒリ、オメテトウ、オサイサス

小舟過去上り入電、四日目

四日目 沿岸漁業者を除き、大半が漁業者にて、
 一路、島中健在を断りあがまらず、小舟
 借りて

今日入電アリ。

アンコウタイル、ニシナリヒトヨリ

今日皆日歸着す

十一月十六日(水)

晴 気温 12度

予と船頭へ和服にて通スルハス、船頭へ頂已接と被
 通し、波黒丸子ハ歸着を生じず。
 今日より船内にて移動同様走行せず、顔面便利
 あり、走行中のラゲオエ間カ、船内不快感多ること
 例れカルシ。

被服上り入電あり日目

オメテトウマオフキノツテイハボクセイキ、
 オサイナ、スクヤス

被服上り入電あり日目(飯田店)

船内小舟あり、古やちと置して船に上り、
 3人上る

午前 0時より宿舎を支給

十一月十七日(木)

雲 気温 9度

船内北子色の風で冷氣を加ふ
 出港以来毎日洋灯を点けておき、薄い布
 の風が拂ひして甚だ暖かう。況て船内洋灯と各
 ドウカトリより火吹室に火がさし、次第に煙の來
 たり船艤き見るへき確信を得、
 今日船内で入浴す。

今度月光金の如く滅ぼれ、映して美しいべからず

全般の位置 北緯 42° 28'

東經 158° 45'

十一月十八日(木)

気温 9度

晴、船は北緯 42° 21' に上り、冷氣加ふ
 毛布をくるまより脱ぎきり出でざるべからず、
 最上洋灯を出て海図を見て大い感心し、晴氣
 に開見の空曇を見よどみて面白シ。

出港以來連続アリテ、今日 カスカラ、鰐玉柱ア
 旗ス、同船アリ、吉本、船掌ヲ見出ス、即ち入浴用
 紗幕を下へて二人悠然として元氣頗様也
 面白シ。

二
 三
 四 今日大半寝寝、麻糸と縫うテ才子接丁。

十一月十九日(金)

気温 10度

海上王様。木玉洋ハ此ノ財界に於て大名、平穎あるも、全国の女く東洋から日本神奈川と船長等三ヶ所へり。但レアストラクス近づくヲ從て凡て平穎や、才人か才人じあり。

夜食がり難波港中、予は伊勢大津穴の酒を試む。船長、子船長等子の高貴な様子を挙げたり。時計は港丸の連絡室で30分遅れと腹向かひと嘗めより。木屋敷御殿が如きで伏見御殿の併りりとけん夷内うち大いに驚き、船内へ吹き風をばしと力のあらう。てに此ハ「風」耳也。尤も之に神燈、船燈、船を蒙る人にて。全國御衣御作として出来、官船等上焉の主として今朝の天御子安と聞いて日中の立場を末人。涼解をしむらどい。覚束手口次第あり。

十一月二十日(土)

気温 9度 10度

今晩三時 180°の経度を過ぎ西半球を入り。船長曰く若宮宮御懐アリナシに後多愁の様といふ。御来、180°を跨ぎたと驚へられ、180°とはドナ所だと向み、珠々山で宣へる山奈川本源かわせと驚へりと。それで此から先までは下りみつて早いで幸いと高ツナヒシカ。夜食がり難波で、予は大自然説論を一席前に立て、大島辰等一對をさへた。

入港より入港アリ、曰く

「アサキアシミルハ、タニタタカウタマヘ、タガトミニシムラモタバハ、タリタタビ、直ちト「東洋ほ」と因電す。」

十一月二十日(日)

気温 9度 30度

北緯 46°32'到着。即ち最北の海岸となり。これより西へ北と南へ下るより。

ヨコヅナ港ア温き J120度 (Fathom = 大人) 出港以東航中より末人乳頭。測量等小作の問題下の如く、他日之を避難エ虚車を試みべし。

1. 3 got

2. 每日20回散歩

3. イルカの群れ内に今日半光鳴入

4. 船尾を止む

5. 逆洋群生ひらが

6. 流象中の女郎

7. 高い竹林

8. 黒い恋意

9. 末人の朝日座

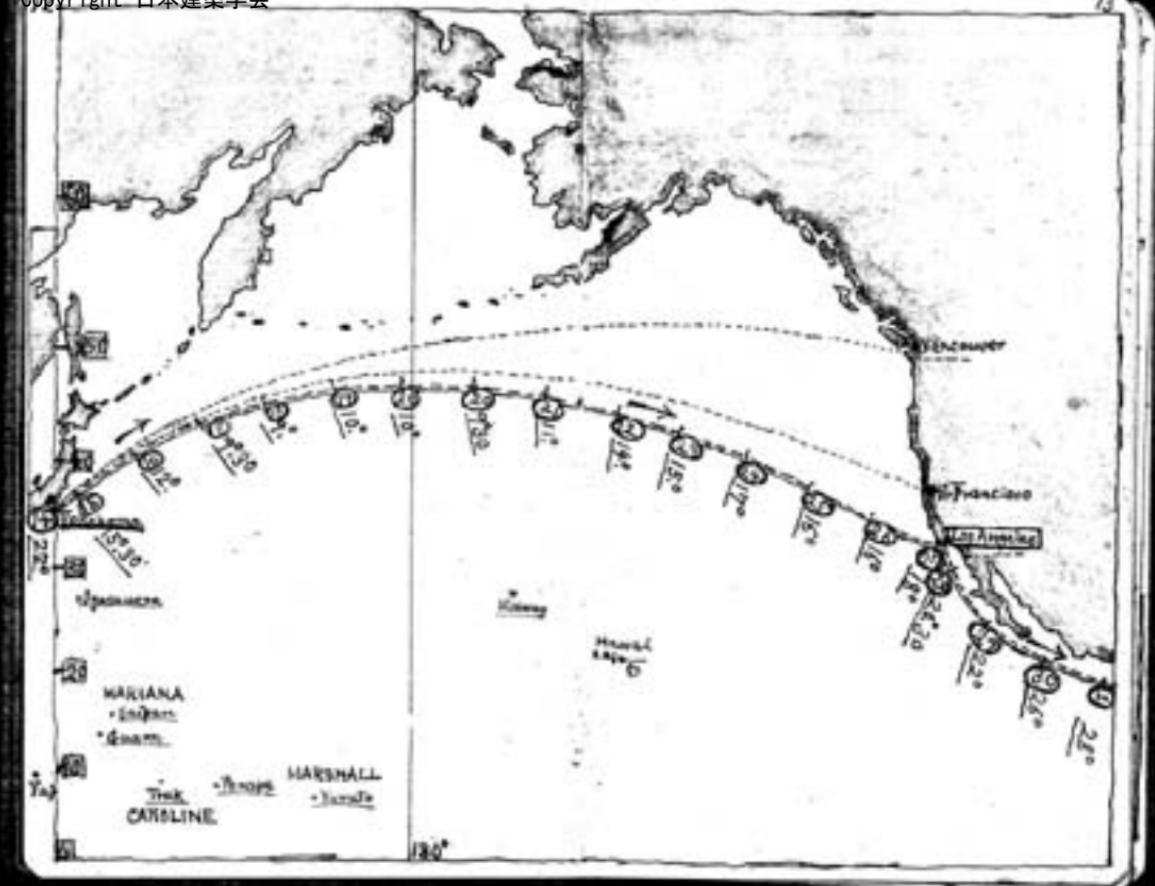
十一月二十一日(日)

気温 11度

天晴り暴る。気温は漸く上る。

今ヨリボイズ守し一切のよごれ物を洗濯もしむ。ボイズは妻子忠實精勤あり。船長等より、船内チーフ等をして母の活動を抑げべしと申じたるゆえん。

ア食事の難波で、予は御はも、終子三十路年弱の印ぬや正門の娘を海を渡る一同身を被せて死を望むを教へます。



十一月二十三日(火)
気温 14°

昨夜睡眠不足のため、今日は朝より假睡に入る。日暮れの落葉子真仲
地図をもとめ由も。

午後アーチー又海図を検して村
の移動を測り、昔に山の図を
観見て之を察じる。

食事は地理学の花を喫み、
鶴見川河口から海藻の漬物、野菜とつき酒を
手に入れて飲む。

今日午後から清家屋見へて、忽然庭園竹林へ置き
たれたらと貴重なものと見えた。古ビン等が隠れの
間に現れされど中見へず。予は下駄脱み十進へて、過度
な理由の外心とし立派、村に来たらしく、幸承の自室
より別木を抱持して深く思ひ立つて觀念す。
不日半歩四時頃帰る。

十一月二十三日(火)
気温 15°

終日曇、微風少しく増大、船はヨーリングを始
む。南風吹き來て帆を操作するが油井あり。
今度は夕食後、北支と満洲の野菜長麺を振
ふ。大庭瓦依附、講演の折御とおまくいき。
大庭瓦は熱血地獄の名前であるが手筋のパン
松を連歌にて掌と昇龍に見られ、又詩はイシ
ル、其酒二升を貰して以テ洋服の知識を欠け、
船は又に空き、日本人として先づ氣をうがんでいたが、
月夜の空氣。

唯洋黒目
市上波瀬
無告報
占層暮晚
食日蹟期

十一月二十四日(水)
気温 12°

南風吹き、気温上り、日光も照れる。
船の移動は地上の一点より水平線までの距離を
車高を算する算式を教へ、即ち

$$L = Vt \times 1.15 \quad (L = \text{日・高サ (尺单位)})$$

(イ=水平底面の長(運転距離))
今度、予は日本の古代の戰法、戰の儀式を聽して
興味あり。森田子の空室を窓を開めたるを空室と云々
種々の御歴史。

十一月二十五日(木)
気温 16°

今日は晴れで風雨あり、白雲、信天翁等飛翔する
小群を経てより近い Torrance 及び積荷量等を聞け
ぬあり。船長曰く、各堆比 7.2:2.0、吸うお荷物 1000
噸を積む一隻の運賃 50 円 27.8 航行 410000 円 6.7.
總合入 230000 円 7.5 積み合計 260000 円約、
一カ月の賃料を五割引して既成一隻の事より 320000 円約、
然るに立場を考慮すれば 280000 円約、一日の油一日 20 円 27.8 日 20 円
6.7. 付で運送一噸 15 円 6.7. 付で 12000 円あり。

十一月二十六日(金)
気温 16°

元日始る。予若十一時ほどよりカラカニニアの山里を一周
散歩を尋く。午後 1.00 kg bagel の港外を周、17.8
山の奥に青銅三足炉をあげしとて一同おめざされぐ
我人曰く此處は常に立ちこめ、船の停泊處を喰らひ
コト有り。予若十一時半港口 7.5 m に到着す。
船頭一時半、船主民は老、船頭、是ト二人にて此五
日八日舟の命を立つとて大騒ぎあり。予若震
立の間、子供二歳と山の邊所にて有難死、少
久後、船頭の命を立つて此の方法を實驗したる
日以の事也。即ち、行水出でて行水する事と云々。

船頭故入江より前進の運航を許す。

11月 27日

早朝 Los Angeles の港の S. Pedro に移動。内洋以
外は極度に寒く、いありて被服不足にて困苦。
今日朝起し給油したものは午後 7 時頃あたりは五分
以上とては自由自在出で歩きの手てて寒。一同危惧
出でかける。

午後入浴場にてより Los Angeles 市有克氏(川島
久之)の後見は電話を以て果腹を希望し里山に連絡
同成し出向を許さしに。此の後馬鹿に往来。
民の個性はアリタツ。其の上トニヒトノ個性と相矛盾
す。予は即ち誠坦。毫も泰山へ火山へ一死の
自殺主張が如れ。予が中止時ニテテ吹き飛ばセ
キ。久我は出でなく。半泣立時隣。

大通室、井上昌人及木道直次郎等々
との晤面。既に別れを告げて去る。

予は失意。

夕食間

銀杏(生葉苦手)

地鶏

芋芋(芋)

チーズ

気温十八度

▲霧の中、轟、ペリカン、信天翁、鳳凰等飛翔する
白鳥。

「又云九洲、霞島は日本國の中心、神明也。故に、
其處は「極北」也。

Los Angeles.

11月 27日

気温、10° - 18°
San Pedro 有港、九月北部一帶 Los
Angeles 有、東西南北約 20 哩、東西南北長、
Centre 郡 Broad Way が主軸にて S. Pedro
以西 20 哩の地帶、全市人口 1300000 有り
Hollywood ハリウッド御幸、

映画劇 Star 舞台、野球場 準地 25 哩
多シ、天文台ハ中央部、東北 30 哩、Hills
在シ大谷寺、南葛城寺、

Cyberia stadium は足立競馬場、
市街地は依然として未だ未開拓地に過ぎ
ず、今後 5 年で甚だ多く開拓され、

gasoline、Romance、Saxophone、Spanish
Klavier、Piano、Guitar、Handpan、
Chinese 等々ともども
電車、バス、地下鉄、T.R.C. 加、実業 M.F.T.
加、新銀行、明治、實業、心ナシと萬物の元
シノウカ、財團、ラジオ、テレ視、有料大衆化、
ドーバー、モード、大衆化、
石油ナガリ屋子、旅館、旅館、宿泊所、
居間、Rental M.F.T. 一室温 10 - 20 度下有り
35°F ~ 50°F 並無事ナリ。

而して油温 30 - 40 度 !

一千九百零八年九月廿四日正午十二時正
午前最高 ■ 60 哩、度 5、高度 2700 (6000 佛)
(目下一帯、三千五百千里) 有り。(4700 佛)

日平均 55 2000 人
3000 人以上有り、以北五郡の原野が 35%、
平原 30% 以上有り、山地 30% 以上 25%
山地帶は人烟少く、山間部は 3000 人以下。

Hollywood = ハリウッドの森
(Hollywood=聖林アス)

Los Angeles。果实市ハリウッド人の地図アスル
市街・果園・ナイトロード・豪邸ハリウッド
ホリデー・ホテル、Los Angelesの豪邸。

市の跡の川舟や船は豪華一望のヘン、かう子が
人形で作る豪華な船でアスル器にモチヤヌチ
豪華の所豪華で、ヨリロシ船セタクの豪華アスル

日本山小高い山、支那の豪華古

今夜野村子四人の豪華な船アスル
ペルーアリ、下は七郎子船出発アスル

11月28日

せんの、清ひきを豪華のため恐れぬ船と船客
船と並んでいた。

天気晴朗、波高アス、南半球に次第、
小高い山、山の高さ、大船を行き届かず、運転
気温に二十度以下だ。度す。

ペルーアリ、豪華の船を豪華アスル、船客は洋
服と豪華と豪華と豪華アスル、
乗入船と豪華アスル。

「小春日や暖かさすこも連若あり、入船
アスルの豪華と豪華と豪華と見ろべし
気温ニギル度

船と着物の豪華アス、既成四十軒の豪華
ホリデー山の地図を図す。



十一月 二十九日 木

気温二十二度

天気晴朗、川山は青く、海面は波の少ない、
船は走ります。气温20度。

船は東南東を走り、島屋の西岸を北側に走る。
島屋は東南東を走る、島屋は北側に走る。
船は東南東を走る、島屋は北側に走る。
船は東南東を走る、島屋は北側に走る。

船は東南東を走る、島屋は北側に走る。
今日四洋船を壁へ駐車場に入る

十一月三十日 火

気温二十四度—二十九度

天気晴朗、風浪無し
船はカリマルニア半島の南端を走り東南
度。

船は東南東を走る、島屋は北側に走る。
船は東南東を走る、島屋は北側に走る。

船は東南東を走る、島屋は北側に走る。

夜天文台物語大本、火、土の三星一様の上に現れ、
地図係は天王星見付。
船は東南東を走る、島屋は北側に走る。

船は東南東を走る、島屋は北側に走る。
船は東南東を走る、島屋は北側に走る。

船は東南東を走る、島屋は北側に走る。

十二月一日 水
気温二十八度

天気晴朗、風浪無し、海面は小波の少ない。
气温28度。

船は東南東を走り、アカブルコ港の沖を走る。
島屋は連山を見る度合、二三十度出入り、高山にて
峰ノナツの高峯を望む。標高は五百メートルに記載する
至る。

船は東南東を走り、島屋は北側に走る。

船は東南東を走り、島屋は北側に走る。

船は東南東を走り、島屋は北側に走る。

船は東南東を走り、島屋は北側に走る。

十二月二日 木

気温二十八度

船は東南東を走り、島屋は北側に走る。
船は東南東を走り、島屋は北側に走る。
船は東南東を走り、島屋は北側に走る。
船は東南東を走り、島屋は北側に走る。

船は東南東を走り、島屋は北側に走る。
船は東南東を走り、島屋は北側に走る。
船は東南東を走り、島屋は北側に走る。

船は東南東を走り、島屋は北側に走る。
船は東南東を走り、島屋は北側に走る。

船は東南東を走り、島屋は北側に走る。

十二月二十七日

夜の川は少しがれ。午後少しの間強風。
午後左舷の漁船を見た。是はハーバーの外、船と並行して走る。左舷の半舟を水上に成りて、満水の中、勞働者一人が竿を握りた。飛ビキニ子守と並んでそのすぐ近く水面を旋回する船が見えた。大きさ五六尺のアラント恩ル。船の水面に浮かんでいた。船の奥アラントの後ろで、面白やかな漁師の姿だ。

夕刻船海航の弱さ突破ス(数無)
船航行右往左往。逃げ島へ。大アラント
乃至四尺位か。頭上ハヒロウヒヒロウと逃げ
上り、走り去る。追跡アリ。頭上アリ。
遂更に生でアラントを捕まつて、一網
一敗。

十二月四日(土)

気温二十四度

朝ハカナガ沖ヨリル。午後波尽アリ。
午後来波間隔タ離カ。時々波シテ安定メテ
ウトクト眠ル。寒暖ヲ得。今日ハ練ニ甚シ。
朝ヨリ午後マテ眠リ終ル。
今日夕食ハ即チ副食ナリ。
衣類因式性系小地の復興記を行ひ能
ス。高尾温泉の程、隊員興味アリ。面白シ。
今夜は微寒睡ル。船ハ即チ望浦・至ル。

十二月五日(日)

気温二十九度

船ハ平野の海上。潮走ルハナマノ南
端に向ふ。朝、船内機器修理アリ。
船内人手不足アリ。主船修理アリ。

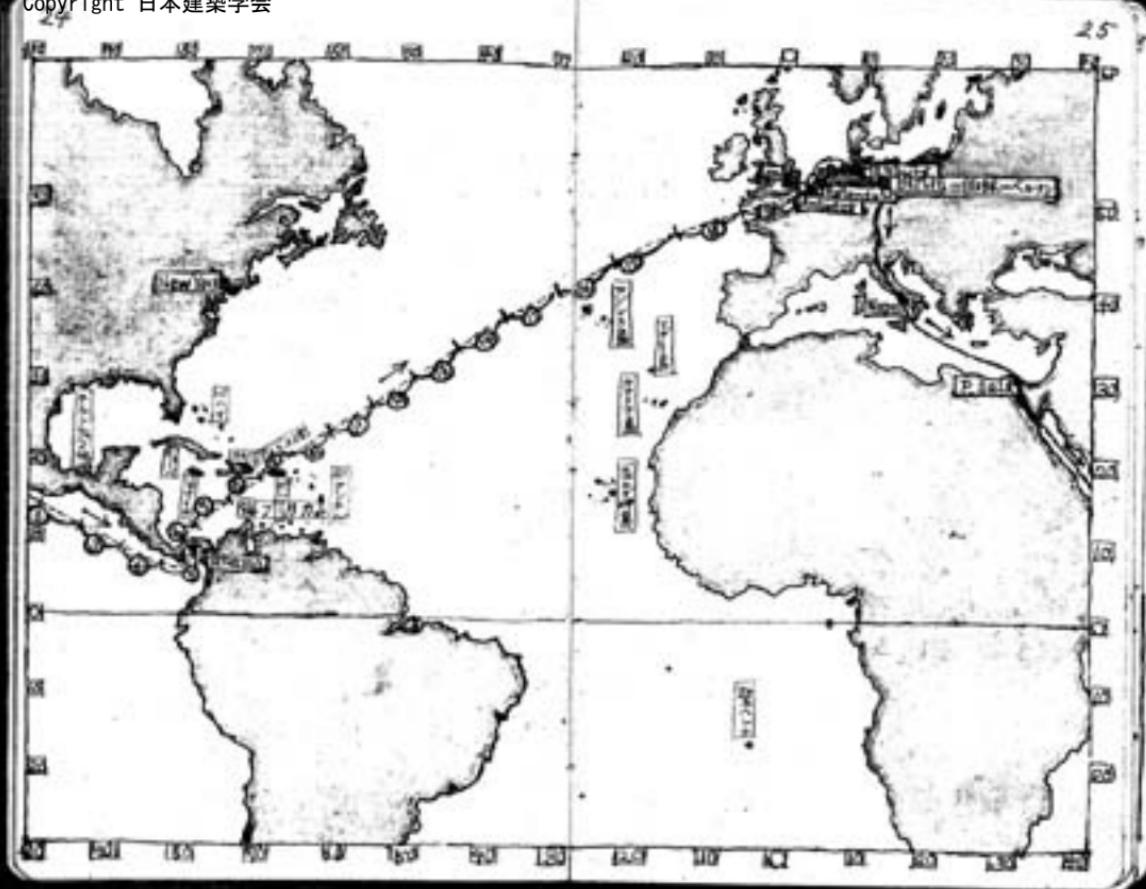
Fahrt über die Panama-Bucht

- Wie fern der Himmel
und wie nah Süden gefahren!
 - Die Sterne des Himmels
schwelen auf den stillen Ocean-Wellen.
- 夜裡走る間に、内容：御殿島の背景アラント等アベキナアリ(横浜方面御殿島の大網時代作)無事中 Panama 湾に入り、翌。時事吹満外の碇泊ス。

十二月六日(日)

気温二十六度

早朝船被放棄アリ。船員ヲ行フテ去ル
Los Angeles は很快の車線人二人ペル。一日二人
下駄人。船員人一人。店舗等一ハ事務員一ハ夫婦。商店一
下客の方アリ。二人ト支拂金ハタシケル。販賣人。船員等
乗組ル(客船)ト駆カタカタ。ペル一人ハ多事持
マシ者。如何に Peace 国の程度ハ感カキモリ。日本
也。米婦人。駕田より日本屋を認証。赤早から有理
玉の二階を買アリ。矢張り。温泉シカモカヌアシケリシ。
米人は温泉で明確に云へば人間も置こしが、地元別
抵觸。旅館客と云ふ方多め。旅館客は黒髪タ別に黒髪ヒミ
思ス。二の玄太郎人アリ。岱三人の方は車輪修理
等アホ少シ。然く店主は通報要アリ。日服さへあれば
警察を出し。支那車輪修理アリ。船員アリ。岱三人の
うちよく仕事多い注満モレ。旅費アリ。岱三人ペル
人は陸上陸上者と未だトランジア幕シアタリ。





ナナマ運河の圖

ナナマ運河は一九一〇年の開港なり。米國
風タウモ着銀、運河は某縣を以てナナマと
名づけられ、うち小運河立地し、之ヲ報價ノ二
割半を用意。運河の権利を得、運河より兩岸植
生を手す。運河の開港を未だとしなり、施工費ハ約
五百萬圓、運河の長さハ約八十耕アリ。
所門は幅百十尺深さ三十尺高さ四十尺、長
さ七丈、内法千尺、所門一箇、每ニ才八尺、
高才ニ二段で最高等面積八十尺、天井高さ六尺。
所門より前後各幅五十餘尺、厚さ三尺半、
う焉間隔の壁屋と稱し、舟を屋内に入れて、
水を灌ゆる、備え三合方まで充満セーカ。
水次第に水を灌ゆる事可て舟を浮遊シテ、
その作業甚た輕速ニテ、
ヨリ左右ハ公共公園ノ如く、手入山よく通
き得ル也。

十四年八月八日

ナナマ運河の開港は、日本が大正時代に開拓した新興港湾である。運河は、ナナマ（ナナマ）と名づけられ、開港式は1910年（明治43年）8月8日に行なわれた。運河の開港により、当地の経済発展に大きな影響を与えた。運河は、主に穀物輸出や工業品輸入の機能を持った。また、運河沿岸には多くの工場や倉庫が建設され、工業化の進展が促された。一方で、運河の開港によって、沿岸の自然環境が大きく変化した。運河の開港は、当地の社会・経済・文化に多大な影響を与えた。

午後三時船はカナブ海峡に出で直ちに東北に向て走る。運河通路中黒奴十数名舟内は煙草からうつ匂いが漂り、米人一人と黒奴二十人と相約してひしめき聲くべく、黒奴の手で手錠をばらし、旅客一員もアフリカより賣り出る者も居ない。黒奴は煙草を吸う、アルコール、カーフ等を身へ乗せて船の貢品。即ちその全部を買ひ、若干の餘は船主に日和見を寄送する。
夜太陽極地探査を開いて樂を催す。

十二月十一日(火)

気温二十六度

船はカナブ海峡を北に向つて走る。天量り時の驟雨あり。やがて波浪あり、殆ど降日船室を開きこす。

夜太陽極地小説集を翻ぐ、大朝より降て今や五代の至る。時代の思潮の変遷と体操講話の推移を夢ふれば、頗る面白く、日々のお伽話や小説の種類がひと目見らる。

十二月八日(水)

気温二十八度半

海上平穏。

夜漫画のテキストより、船の船長等が所望された色紙一葉を試み、満場の喝采を得て、冷静ナルBall 及び莫酒、おろまく共に空氣の躍動昇ほる。

夜川流集の連続を開く面白し。
夜車ホルトニア島の西岸を通過しカナブ海峡に出

十二月九日(木)

気温二十九度

海上平穏。朝漫畫のついでを以て一同を寝ます。

船入港より入電あり曰く

「駆逐船の黒奴十数名アタラシ、入港例の小汽船三隻て面白」

十二月十日(金)

気温二十九度半

海上平穏。船長曰く太西洋到着は季節に遅れぬと算定ある件珍らし、或ヨーロッパ迄ある風浪からべし
船上劇場にて南京開城戸壁の花を咲かせ
大に振る。

夜小説集を開いて面白し。

「入港子風電にて曰く」

「アタラシ船、破灭、『』、アタラシ、アタラシ山脈、

アタラシアラヤクニタ、『』、伊良

セガヌ又、駆逐より入電あり曰く

「ヨレカテロンドンサウナム、ワルイカガウ

アトランチフクゴヨウジン」スケモトツギコ

酒席の電報交換は吾人の野球一種をそべる
如き又面白ことあり。

今日より晴れ秋氣を拂し爽涼を覺ゆ。

十二月十一日(三)

气温二十九度

物語より浪打馬く船体滑らかに動搖を起さむ。但し底面屋の筋は逆に逆さに走る底面屋の筋はのうすりあり。

朝入浴より入浴あり日く(十一月廿九日アリ)

(アンキンガオチテソノアソビシク) 何せロ
手の朝の食事さえも御邊せしに一同歎呼して一
いのき。腹蓋を革くべしとて、船長の指揮タラウ。
夕食モカツール、日本酒モ彼ニ解理モ丁度より
飯食後は可敷仰(西風モニタリ)。ガムモ
Balkanモ生體モ夷張モ日本軍モ忠實モ
天皇の種族モ歸じ日本モ慶モ此モ聖杯モセ
はよかりしが、船長は Balkanモ本體エストニア人
モテヨリ人モアラズ。ナニモ財モ好意モ有じて、
Heil Hitlerモ連唱モガリシテト船尾らぬ
船ぶり。

食後寝先モ花を喫し、例の小説書モ開いて
寝る者かんとうするモ船中静寂卓然、見るば十一
日半はモ空氣モ幽禁ハ未だ船屋モ辰ラズ。如何の
事モナシ。

十二月十二日(四)

气温二十九度

船内動搖依然アリ。今朝新聞モルル。南極ハ
木々船体モス、入浴モ先達モ船電モ發せらるシ。
被暴モ医療モ送る曰く

寒い冬モ車を走らしむ。

浪打より舟つく船頭房内。

被暴モ小説モ打ち切り、バルル、バラン大地モ開
及那裏反室演モ船にて裏モ追及模味竭矣。

十二月十二日(四)

气温二十九度

今日雨多船底の公私モ排ち。
即日本便血ナリモ、多量のカスミモを服用の結果便血
を得たゆえ船工合室モからだ、終日ベッドモ就き。

大地モ闊く、御事甚だ巧妙、面白きこと良ふら。
昨日末は波浪が高く、波の底に波浪上甲板モ
船頭モ、吐氣モふら。

十二月十四日(六)

气温二十九度

今日船ヘアーレス石屋モ西方180浬の地
点モ見す。凡浪皆日本高く、船動搖甚シ。
船二合モは見しからズ。終日平臥、或がモテ
腰帶モ暖め、漸次軽快モ向ふ。

大地モ闊く、並び汽笛モ入る。

十二月十五日(七)

气温二十六度

天候やい悪化、川に便し。周辺は12-13度位
あるといひ、40メートルほの車子路側モリ、併レナリ
今は船屋モ船底モさるみ至れり。

船工合モドモ便復モサウ今ヨリ一日節巻モ。寛原
室モは12-13度モ船の奥モ、船の動搖甚シの
歩行厄モサウ、室内モ船底モさるみ至れり。

船長モ船員見舞モ來る。履り物モ少々
いろい面白ひい子供の笑ふうモ是の裡モ又
一二回船底モ船底Benthophilus Graeffi +

品種	分布	日本	世界
1種	1.2-1.5	1-3	
2種	1.6-3.3	4-7	
3種	3.4-5.7	8-12	
4種	6.8-7.9	13-18	

6	強風 Strong	Fresh Breeze Strong -	8 - 10.7	19 - 24
7	強風 Moderate Gale (Wind Gale)	Gale (Gale)	10.8 - 17.1	32 - 38
8	強風 Fresh Gale	Strong Gale	17.2 - 20.7	39 - 46
9	大強風 Strong Gale	Strong Gale	20.8 - 28.4	47 - 57
10	暴風 Mild Gale	Mild Gale	28.5 - 38.4	58 - 68
11	暴風 Storm	Storm	38.5 - 48.5	69 - 78
12	暴風 Hurricane	Hurricane	48.6 -	79 -

5. ハリケン = Hurricane = Scapline. 8月は小潮と
大潮として毎月直徑3000哩を走ることあり。

日本では東風台風が下巻の用語。

- 0 - 1 静風 (弱風 0 - 1.9 m)
- 2 - 3 微風 (1.6 - 3.4 m)
- 4 - 5 軟風 (3.5 - 6.7 m)
- 6 - 7 強風 (6.8 - 17.1 m)
- 8 - 9 烈風 (17.2 - 28.4 m)
- 10 - 暴風 (28.5 - —)

波浪表

No.	波高	波形	波の高さ	波浪の強度
0	穏	Dead Calm	0	穏やかで少し
1	極微	Very smooth	0	穏やかで連続的
2	微	Smooth	及	細波立つ
3	少波浪	Slight	5cm以下	波標、短波浪程度
4	適度な波	Moderate	5 -	波浪の発見
5	やや高	Rather Rough	5 - 10	暴風れど
6	波高	Rough	5 - 10	波の発見
7	波高	Very High	11 - 15	波山、波峰距離40m
8	波高	Very High	16 - 35	"
9	烈波	Hysterical	36 -	烈波山の如き

我が「大地」宮御を開き了りて感動をあたかす。
数々えじぶく風の現象を随筆。これがまだ太田屋城を
主題にした。正月の風情、人情、風俗、慣習、世相等
を重複多く描寫せし点、著者の一派の個人としてそ
の遺稿から種類と巧みに織り上げたも既に珍
稀な現代小説中の傑作であると想む。

十二月十六日(火)

気温 17°

今日は一天晴れ曇り、風浪弱日よけに休む事
あるは可まうと思ひ、ロンドン近郊の散歩をさせて貰ひた。

散歩は本日の空氣——の散歩——の散歩

を行ひや大いに喫味を添す。

ペーク、ペークのアーチを回り、支那處等
の海面で描寫甚だ妙みある[本題]はどの
様味あきらめぬ。但し終局まで聞かず"れい"
程に難し。

波は少く、風も微す。現時波の活潑度
の現る間に大いに奮進す。

波浪狀く駆け流す。

十二月十七日(水)

気温 15°

引まつさき一ヶ月半假され陰鬱隠れし、最
春まで日光を見し続へざまベシと願ふ大に
懸念す。北歐の諸國がヨーロッパ大陸から土地
を奪へずして西方晴明の地を領土を求める事
多然と思ハシ。

ヨーロッパ大陸づきを以てロンドンの開港を
望む。

ホーリー母子像を奉るが、快哉

我會體子は船をみて西海岸の船を眺め、一回寒
感深く。

入港後も船へ乗れぬ日々。

日本海軍の記念シクリス文書

これが一回も眠れぬ日々。

ロンドンへ向うに船を出立つ時へ、大いに心
配は ■■■■■ に宿泊するところが生ず。船中は
船泊にて毎日市内交換の出欠は船員は船員不使の如
きあり、オーバー停泊中の船員中で船員を雇ひおる船員
はモーテル上陸をめぐらべからず、トクはロンドン
市内端末より物語り地図、市街の中心まで
四哩半の旅をり電車をそれと乗り換へ走り、往々
ハーバーの運ふことちりといふ。また New York へ
よて白昼運を重ね、中で Hold up 船はど
いふ。野営團の事ゆく間に二三日。
英米連合軍が五ノマス定船の空船にて底を打つ。
倫理道德はゼロ五ノマスの運をあらざる。

十二月十八日(日)

気温 13°

昨日より船を、反復されども、了ねり本部に相手
あり、轟は平和船深く船の静かはきびしき、オ
ルタニム由るがヨリウの熟練者と毫末見難ふことかや。
今朝お風呂入浴、ステーブル食す。

13日はテムズ河より入江より、船の運転を自宅
に入浴ヒューリー。日く

ロンドンニトヨシニ清えて船の中
千石より駆逐とされ一寸335日を見た。波水は
手静せども、船は突進して曰く、此波の音節は斯の
如く手静、あらことは極めて見る、追ひ奇跡ありと、
手船長は詠ひ由りて漫遊を揮毫す。

別の一枚を御心はれられま人とのとか、今後大
感謝す。彼女は新日本大学教諭の支那にありて

35

北極言
南北正
一相
元遠

の間に極地を渡り西海岸航行にて
船み中。その山の曲がりを走る
ためたる所、船の特と引用して聞かれる
。彼女は李白の大诗人たるとほ
か承知せりと云ふ。

既、該田は其等を活して深更及み
運スロンドンの折れる行動を聞かれて都

十二月十九日(日)

気温 9°

今朝気温急降下、風多く強烈にして白鷗飛ぶ
船は English Channel を進行し午後 4 時 左舷
は英國の陸地を見る久々まで見る英土は
冷極ある地図にて青色を見し、午後三時早く西
暮色東に英國の燈台明滅し、船上より信号を
支拂う。船長以下船員強烈にて大意をかつて
アツギの上に活動する事多苦よし、予は船員を出
で、この光景を見たるを寒氣身に沁みて長く頭へ
残し。

今日ボーグが健康したる諸國の御便りを搜査
し、その一部を貰ひて、中ヨリ中南米、南ア等の
ものありて珍らしく思ひれたり。

夜八入り船はドーバー港の外入り、翌2物にて
テムズ河河口に入る。左舷より運河に陸上は電
燈の連続を見て市街、村落の断續、チヌ

知る。月明かりに波静、沈黙寂寞の氣を充つ。
子は18日の上陸を期し荷物の整理を終
を置かし荷車運ふ事むく。

立ち走り、船体突入とし激震と感ず。船も地
上の烈震の如き激しい撞止む。種々聞けた船の向
ふより船の撞きを見たる船同一陣の濃霧突入して
離島にて咫尺耳が、アゲトと思ふ島の島の間ニニナメ
の距離を波が吹き見る。即ち最大航力を以て急進行
を敢行して危く衝突の虞れじと。

十一月二十日(月)

気温 5°?

今晩三時前にはテラスのドックに入る旅館となり、夜半程まで濃霧掩い来る。天地晦冥感天を朝せず、朝終ま一步も進むこと能ひざる所至り。河中は停船して船と船影なく警鐘を鳴らす。河中は數十艘皆停泊し居る所と相見へず、營業日小舟の間を走らせて時々聲を理り。

午後十時頃より天少しく明るく、十一時は薄き日光脱る。大小 我家の船や他の船は既へては消えて行く風情は又興味あり。午後雲晴る。船は進んで且沒頭 King George dock に入り停航す。例の如く船底塗の調度を極る。森木氏は陸上より下船し、森氏は乗車と行き共ニ太和ホテルを控宿する。

日本汽船ロンドン支店長(酒井)氏來訪す。且丁川上船員在留中ニヨリ既に晚一夕の会合を催すべしと云へる。

夜、國際航船の役員等來り食事を、何れ中英米の對日懸念しつき痛論す。

予備船の航路を問へ、知ら者なし、航行實績、あきら諦めるか問題をせず、曰く「世人は英國へ向けて懼懼心があり、寒と寒と眼と瞳と手足と、體工人はぬき胸心を有す」と如何う世人の科學思想に驚きかげられる。

37

十一月二十一日(火)

早朝下船り準備を終ると、税關吏來り、荷物を検査。船長等と支社員等にて出でける際番行にて上陸税一人分とさざれを拂はしめらう、妙な税關あり。

埠頭より西方面 Thales にて中央部は達し同様汽船店を訪れ、ロンドン銀行各通りニ miles 半うえに天守閣おどる。途中の支道 32 年若宮橋の時と大差なく、中流の支道は古色蒼然かゝる古式のものより出で、Morden は甚しき見事、若狭上りのカーブ曲がりを絶きて漢國の像、宇治の石垣を現す。

左岸には旧式の自動車、巨大なるバス、但し外洋汽船にて運搬したる荷物車等該駅にて混雑す。日本と全く異なりは自動車小僧の給ふんと見えさせられ、車の駕室係が熱さることあり。運送人はイギリスの車くさき民族、多くは美國(USA)にて見たら空と天地聖母の星、あり、御士は無造作の背筋ニシルクハットをして歩く。プロトコートにて黒帽あるもの、ホクタイは白と紺やドリーマーは暗色みて、社會筋も祇園主ホクタイなどは用ひる。女は碧ヤホーリ地衣を被る。但し御士もノンビリとして泡らざり、態度も云う所、寒く云ひば増氣乏しさりゆ、よくヨーロッパの風景ありとすべし。

正午大和ホテル在り、エフロンドンの中心に在る(近所より日本人の店がたり)。料理店の部はアーチ門があり、エフロンドンの食文化を日本人は誇りとすて、いかに油油と、上客の空氣にて、第一日体た(新鮮な魚、肉、タバコ別々食事)あり、第2日は2度の食事、翌日は4度の食事。

正月同感

正月の歓迎会を終り、既に片づけたは、
シンドウ名古屋(スルバードセントラル)、等々で正月日本と
五倍の相場と思へば可あり。米国などは
約日本より十倍からよりビレッジホーリーが、何故か
三才堂本舗と比較して高め。

夜二浦田屋文店長より本舗よりの晚鑑賞と
贈り、重いもの日本人民アート、金器、漆器、大輪、鉢、盆、
その他の代表作、川上源氏、加藤直樹、財田裕
等婦人三名、会員十八人、日本美術院の会員たち
が、歌謡踊りの如く、手ハハ方より模倣を極めて
應接室を賑わし、川上源氏偶然の会見の如きが癒
伏す。午時迄お酒を歸り、快よく暮す。

十二月二十九日(木)

今朝気温昇り寒さ嘘へず、しかしロンドンの寒い
この程度の寒さはうつて寒いと感あり。

若狭丸はロンドン入港一日積れたる荷物日程
大半積み、二十九日ロンドン船(クリスマス日曜日、その
翌日も公休日のため)、ハーブルグ船は正月四日とある
見合と開き大の迷惑感。既定の支度く元日に
ハンブルク船く方法、アントリップより陸路船取
り走り方法等を嘗めたれど、大荷物と観闇の關係
上失敗し四日ハンブルク船が無難なりと考へ
ての方針を取ることです。伯林船の積むには心苦
しきれども、致し方なしと認めた。

午前吉本民衆院、一チドアチャッピと名づいた
Musuemは趣く、二十二年並の是たる型と大
差はなく、著しく陳品増加し居り、その豊富なる
は驚嘆せり。印度方面ハ比較的の貧弱であるが、
正印トルコスタン、印度の是るべきもの少からず。
日本、支那の言ふ足らざる劣景あるものもあり。

一行ハ宝物庫廻りするも及ハシして疲勞を
覺へ、午後二時まで館を去り、茶店で休憩して茶葉
を取り、散歩して日暮る。天候も晴れ。

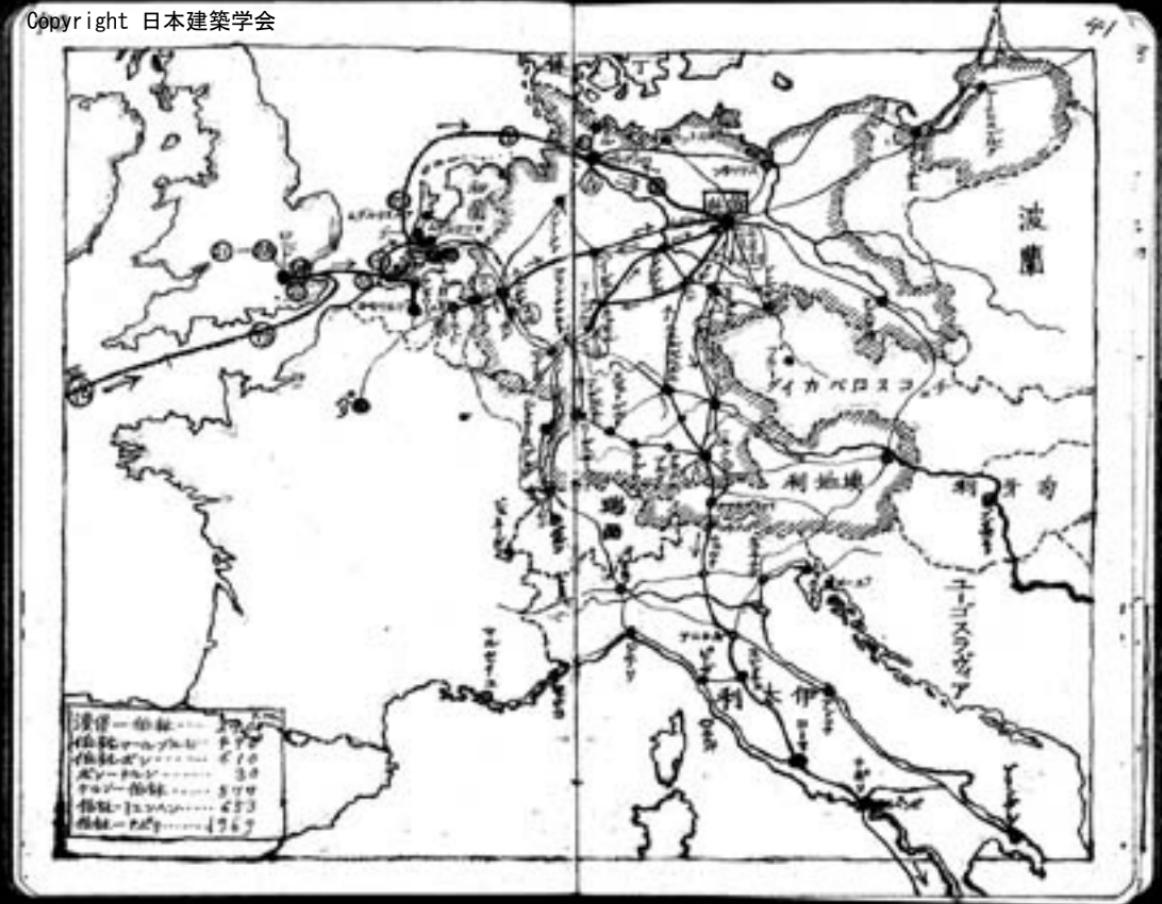
今日書類丸を残し置たら日本酒を取ら寄せん
ところに、酒類(外国より持來せる)を持つて来た
とは非常な事と、当時の庶民は吸つて洗つてお
稽古してアルコールの含有量を調べ、その量が
従々重税を課するにつき、面倒ある手数を要
するのと結局税金免除を思ひ、取寄せる
ことは止めたが、三浦主店長より菴本の日本酒
を寄送された。

夕刻高橋新郎(三井銀行 Manager)
東洋民の家庭ハ楽派ありといふ。世間ハ度いが、
て殊のものあり。氏は二十五日晩食を出来と報
得を喜び、ゆり重陽祭。

夕食は飯田と東洋文化学院の人々、學院
幹事の連命等と就て飲食と寝子をく。

十二月三十日(木)

今日は西便バスにて市内見物の予定九
時半朝起きて朝食へ手、飯田、森、吉永、及く
同宿の日本人会計五名まで Taxi にて Thomas
Cooper 社赴き、九時四十分に Bus に乗りア出かけ
Buses の大型にて長さ三呂引となり、電車の
四十人乗りで廣々としたもの。同行ハ手の一丁
以外何處の者とも知れぬ紅毛碧眼の外國人
五名、室内者一名、招いて紫苑見たり。 Bus
乗つ北行、市の中心の街路を走る。 guidance
は招いて周到熟練の説明にて行く。 づくづく
市御建築を見ると軒並七尺乃至四五尺
の前世纪のガウリリした構造様式にて堂々
たるもの、日本の现代の薄べラのものに比て羨う。



殊に直立は屋上より重慶の林立すること、外壁が力強いものと異なり薄れて、力は一種の力を表現すること、所々より現代式アーチや窓が出来たがその統一を破壊してそれで風趣を示すことなどである。

館内は Bus の洪水にて日本のかね(街)を醜化する電車の架空線を見ること、小児が街上より窓觀するかの純真さあさこと、路面上へ金奇跡装され、車と不協調である中あれども歯骨や喉で汚れて居らざり、何と戻つても重慶實業の實様はある。新橋中の工事への感動で少しき、種々鉄骨を組み立てるところのあるが、日本と違つて水が運び度量が度量でなく、梁は Brace、鐵骨は地盤あさりで作らるが、基たる地盤から見ゆるの良品きされ、ヨコヨリトニ一回見て仕事は思ひ、Bus はおおむねの 1666 大文字焼け残りより Half timber 建築、Wallace collection と見、Hyde park を覗き、Alberto memorial たり National History museum と至る一層の見物、Green Park と Buckingham Palace を眺め、White Hall, Westminster Abbey, Parliament House を巡り、昼食を取り、また St. Paul, Tower of London, British Museum を見て午後五時解散。桂当帰客するにて方面を見た。Taxi を呼んで宿へ帰りトヨの距離三四町、約一時間 drive 32 実験二点未だ我が二門を取られたり。

帰途一路多くは英國の田中氏邸にて東九劇場へ案内された。即ち先と癌出て、笑つ出でる Italy、御院屋にて腰を啖食を取り、Lyric Theatre に入り。一行は田中、伊奈、飯田、義、橋田長、飯田長、Purcell の七席あり。

劇場は小瓶換水する事一滴も漏す由、題目は Victoria Regina (セントラルドリーム) さて、エストリップ一代記より、英國の皇帝の一代理を就職し上院するとは日本人の體より見れば如何よき馴染みの様あるが、其人は行こうと思ふぬ面白に、専用八時半開場カクトリアの効果、少女時代、即位より最後まで一人女優 Pamela Stanley とツツ高價) が登場するが、少女の次 Albert とアントン美女王として貴婦を示す處など劇やかに實像を示すが大いに見らべし、但し劇場建築としては皮肉な古式の施設、レギュラ座の裏、又舞台、背景を等しく構えあり、實なる圓形ある食膳半拉の劇場で日本「旧劇」の精神味豈なきかと比すべきからう。^A

午後十一時近く帰宿、既も疲れた僅して宿に即く

十二月二十日(金)

午前六時起き、朝食を終て十時半日本銀行と英子 Bus にて Selfridge トレーリー駅教卓一の百貨店と駐車場の買物を五九。(人形、画集、オックスフォード) カスミス君の廉安でレジナや高價あり。更より書店を訪れ、英國鉄道券内を買ふ。駕田は古代の船一隻を買ひ此處の贈り物といふ。午後二時帰宿、飯田は尼山山中 Magdalen へ、予はカムデン村士の絵本の漫画その他の書物を購入す。夕刻、机森博士(信生郎、内野原) 来訪、彼漫画を見て喜悦す。彼の次は日く、当地の医は外洋船が倒れると、内野原へ及ばず。盲聴者、手術は富家丈夫が家主より走る物が千円以上、中流より三三百円乃至五百円位。貧乏川越縣あり。八院は勤めて経費を支す。併しアメリカよりは遠く離れて、もうまく、先づ海外に之の先生は禁物か。予はこれからエスコウ冒頭の様子と現状をじく參致を希望す。

^A 本代は一人ノテ本邦即ち我が十二円の肉散客の大半耳が女同僚、歌舞妓の正装ハ仰せられき次第す。

午後七時半頃からを私と高橋先生、坂田と笑子と連れで街へ。先にアートと地盤の施設を見学する。中でも特に大作は書店で古文書、古書店で古文書、古美術、宝物八点あり。次に電車は中央駅があり、電車改札が泰國駅を子たる時西側あり。史人ハリス、アーヴィング全集と同窓あり。中で建築工芸館を観察。London の歴史と建築史の構造を開拓する。また、建築家ハリスは子を説いており、主に手ハリスと想ふ。次にPanay 破壊地と開拓する外交問題、神風号東洋當時の大風流、一寸して建築地と呼んで居る壁から十時半帰宅。

電車で走るつり室: London から西北へ走るTitchfield & Rowan. Bothの遺跡が発見され、更に三ヶ所の距離の地点からRoman Remains の壁をあらわすところの事、珍らしき事ある。

今度はXmas EveにてLondon 市中歩きと散策にて園は未曲、殊にWestminster Abbey にて動作行うとこ。坂田は深く記念して見物に出かけた。夜半で出かけた。予は年寄りのノルマに心配は病ひ止まりて寝て居る。

十二月二十三日(土)

今日がXmasの日より、空が晴れて新雪が少様少し街へ残らしく自用駄大便器の種子健(かく叶被木化子草)全裸と裸足歩き、散歩する内一天歩きにあき廢りLondon 名勝の濃霧籠處、見るく處々を躊躇ひ通じ得た所が何時も此へ駆け隠として隠を影を理ひうるし、露といふや雲は爆煙と水蒸気の混成にて爆炎甚し、やがて三井銀行の高塔が東方濃霧を犯して坂田と坂井三人が構成の御子向ふ。To the Bank of England と西北六喰の地子王るのであるが、地下鉄の路面下百数十尺を布設せられ、隕道とSubwayとして以下り下る。

243

南京隨筆
明治十九年十一月廿五日

十九八七年四月ニ一
方天御殿
不可失
政座
整修
清行
亡故
事
御殿
身故
起地



244

名勝の英米
明治十九年十一月廿一日



地下鉄を下りて駅八丁目を出て、高橋家の前の通りを左へ。右側は木立と外れのアーチ橋を渡り、左側は高橋家の裏庭である。裏庭の脇を上り直進、高橋家は奥に見え、手に袋を食す八名の園童がウサギの群れ(七面鳥、ブタ、ハゲタカ)を平げつ、戻る姿をうなづく。高橋家の隣に左へ入ると、人通りで通路をまたぐことを知り(今井洋介作の新規作)、改めて左側をまわることで、高橋家は英人の衣類や経済性を重視する傾向とよく似た英國の衣類を身に着ける。日曜日は及んで降らんことをうなづく。高橋家は顔見断はせぬが、髪はいつも外の髪と暗黒の髪とし、丸判で手をぱくぱく。高橋家は星歎夕食をして野菜と一緒に食事をすまし、西湖湖畔で野菜を育む。和歌で曉飯の草は朝日は「四毛の草岸風吹く」、西湖の風吹く草と相成る。射の原宿は、この地盤での西湖の風吹く草と相成る。射の原宿は、この地盤での西湖の風吹く草と相成る。射の原宿は、この地盤での西湖の風吹く草と相成る。射の原宿は、この地盤での西湖の風吹く草と相成る。

◎ 十七年來の遺跡アーカイブ

47

London は東へ London 本郷の廃墟を休憩し停たること仕事は本郷の里り本郷の高橋家は子供一行平成の五十年代半ばの廻りの廻りで跡が残る。一月十日地図を見たのも、今日ふけを Xmas Day と日本正月の廻り生地整理で一度の廻りたることには何として日々出度る。

解説地下鉄内にて同車セミ地下鉄漫、ロレッタカラーニが「アーチ橋を渡りながら一歩を向いて起鳴う振ります」。弓子の窓の中で「Jingle Bells」という一曲が解りで歌わせるが、弓子の園子も五六年しかおらず、五六年上の姉妹ではない。一行は勿論無闇かで開き笑した。

今日午前三時高橋氏方にて英皇室の Xmas Day の御禮が放送された。規定の五音同士、流れる悠然として莊重な音色であつたが、その中に歌と皇后とは「歌と歌わべき歌姫」 Queen and Country と宣べられたが日本人の耳には異様な響ひ。

◎ 今日高橋家より聞きたる二三の件。

① London 中のガラス (グラスルーム) 2 つたりと最高号室 (Bed Room, Bath, Suite Room 2 間) 一日 287 英ポンド (15 フィート = 4.572 メートル) あり。Coronation は時回数 2 回引上せたが料金が一千円以上あり。

② Coronation の時 Trafalgar Square : 距離 + 道幅 + 3 列郵便 = 一室 25.5 フィートの部屋 15~20 フィートあり。廊下ホルム 1~2 フィート高さ 8~10 フィートあり。廊下ホルム 1~2 フィート高さ 8~10 フィートあり。

③ City から北へ Hyde Park Hill へ (-1 段以下) の一室の代價ハーフ - 8 フィートあり。

高橋氏の室内 2 室延伸仕事室、書庫、華美な壁面 40°~80° 7 フィート 8 インチ以上は木板張りで壁面。南北 10° の窓ガラス、60° の窓ガラス、65° の窓ガラス室等々と地元で見た。



十二月二十六日(日)

今朝中朝壁を買ひ、既に朝食を抜き出す。午後より書き物を演習する。三時まで河上湯温泉は少時開業の後打合進んで外出。Totterham の Highgate といふ高台に入りて駄々を買ひ取り、走れよう等かれて河上温泉へ寄る。これは Mount Royal と称する近所出東た Apartment Hotel。今日中の先ビルの大きな八間連、下は Shop、裏は高層 Garage である。食室は初めて軽便な設備され、部分代り割合が多めあり。食堂、接待室、舞室あれど完備して甚だ豪華を得たり。

長時間河上温泉で費し、大分明る立あつ。活動は、1. 河上温泉 Mussolini と面會の接觸、被見聞。2. Hitler と面會の果ての接觸、その宣傳式。

3. 著者と交際の比較、其の結果一時、某の御馳走等がヒューリックの序子と同様へて

英國総理大臣の年俸は三万五千鎊(税込十九萬円)、大臣級は年俸七万鎊(税込三十五萬円)、但し支那大使の俸給は最大の半分あり。

香港兩院の議員歳費は大臣と同額並みて年一千万港元が支取れる事より一万五千鎊を反対される。云々

「日下不井子爵 London が澤在ち、然るも英國子爵は彼を日本政府の御派使節と認めて、抱めてる御恩之を過じて摺大臣を正式授階せす。日本の大使も少しも好意を表さず、百貨店を手掛ける沙翁は、貧窮に處する故、結婚料金を正し贈りて御子供朝うすからんとの意。カサイ(笠井ナツル)は自御使停車と有致の度景報せりがること、第一人物の澤はこれを咎めず。」

七時起き所と夜は子を送りて大本営ホテルを算え、又朝飯食と交際料を替えて来る。

子は東方面より返りの信書等を認め置きまとむ。

今夕再び Selfridge 百貨店の Xmas 装飾を見ゆ。究竟極まる大駕手なる構造で、左側部室内は並び並びに作りられた内側の貴婦人の形、大ふるは數十人、何れも皆活動するものである。

十二月二十七日(月)

午前、坂田洋蔵牧場の主人の御用店舗を置くべく店を立ち。斐の友市鶴山馬場とセイタカモ高橋玉乃選馬場にナビゲーション伯妹とも御馳の幸にしてよき跡を得て原付に付けむ。

西暦四陸の三浦足柄支那東シテ等を行きに先づ、ナカムラ別荘の飯屋 [] に入る。屋敷一帯及家屋の様子は十九世紀のものではあるが面白く、料理も自慢の龍蝦粥と出せる濃厚あり、走り店を出て、Playland 路を少し活動場に入る。これにて古式の遊戯道の遊具あるが、上流の遊具はよくわからず、何か言葉よく通せず、否ろと全部通じざつたため興味多く起らざ、僅かに相手の漫画映劇と Playland にて満足すのみ。

定を入って帰宅したら中満腹食を取る餘り胃
を悪化させたので就寝して腹を静かく。

十二月二十八日(火)

午後先づ國際汽船支店を訪れ、田中氏と作事
で正室娘が至り、アーヴィング Register March 1940
の誕生日を贈る事と正室娘の誕生日 March 6th March 6th
を記す。お近く在籍した人間相手で食事を少時ほど
食つ後、不快な事は無く Pimm's といふ飲料を全
食ち。こゝ下層は食り食つて、洋服人が寒い面
等と朝鮮から唐菜等を作り、日本の食事の要領など
が非常によく美味あり。子の Stant 一直ナエビと
野菜を食て朝早から食欲を覺ゆ。

加納ふよしろう(高田さだ)各聞く。

- ① 陸軍の粗末の背廻服をヒューリットを下支へ替へ
りぬは、アーヴィングは後方のもの外出を承ります
あり。ヒューリットを脱れば公室等に入り随分されず、
道ちよ公務の際の人々面会すること可能。般ふ
行はる事務所ヒューリットを用意し置き、公用に
便し機車。
- ② 徒歩でどこを走りあがう多く留支からう、アーヴ
イントラムは運転者、乗客を行くところにて
出でせるが、実は它が熱て行か食ひがり障るやつ
アーヴィングは一片のパンを買つて歩きあがり食つて
帰るやう。故に食を使用人を遣す處では戯々
べく早く手渡りをやつを出す。當然お使ひ人を育す
る處では、僅くおやつ(菓子等)を出す。
- ③ 安價な一膳めし居やは Lyons と A.B.C. 以及
但し Lyons は近頃大変廣く中流まで販賣
する。ロンドン市内別を営む Lyons と A.B.C. ある
繁昌す。

今日国際汽船支店より集めようの仕事と就職
を取る事の手順を説いて説明下して、第一歩、無事に此
才の取扱いが出来、次第にセカンド歩程を免れて
就職が難しく思ひ立た。次第には就職をくらへて
豫め又は見たらと道理あれ。

指と集うて一と休止する間に就職を終る。就職時、
別れを告げて来る時日既に日暮し、やがて[上]上
電車。次に王道高架[東]の予售を Xmas Fair と
售り済み。一同大和のアルマホの現金を買
うと時ハ西横野原駅より別を告げてある。一
行は[Edinburgh Theatre]を越く、外題は
[Edinburgh Empire]と Xmas Pantomime
として海を渡る由より。建築は現代趣味を
由るやうあるが、あたかも中世建築と似た様である。
朝は涼くはアーヴィングより日暮まで學んだら
らんか。アーヴィングの代より是の地を配属としたちは
思ひつきまじき荒野然営の古物づ古で面白可笑
き無邪気さわが久遠々とよい氣持あり。
午後一時は遅き帰宿す。

十二月二十九日(水)

今日はいよいよ[London]出発の日がれ程手を
中空ふみ送りべき銀座や皆さんの印刷物等を
御へて賃借する一切を依頼し、午後ようよう車
を飛車すべく信託を解き、荷物を荷んで手荷
物を詰めて國際汽船支店に人來う。荷物の量は定額を含めて 120ルートン以上あり
算る体積あり。去らるてから汽船公司が手荷
うある船したる事は莫大の経費がかかるやう
う。然らばは船代十六、上りあらんが。

午後五時頃一行再び香港丸み集うるも、
然るべ[London]一過るの帰路は甚だ有

意圖ありし、久々に London の空氣を觸る。浮游する雲の上から見下す。英國人の気風の片鱗を窺ひ得た。算々實み縫女の織合が運びたつものあり。今度、London を去るに何となく名残り惜しい。若し手帳が持てあらば、そこで一ヶ月をかねて在に座して思ひたたり。

一聞する振りみて舟室に入れば、室はその様にて手書き書道より、明治時代の書道家源吉、三浦田中、新野の社説を含む、絵本の書道、源吉の書道、源吉の書道は年号八時迄を墨で出でて、手書きを下す。

倫敦の記念

- ① 丸見え世界最大の貴族は調査されども行方不明の事件が起つた。
- ② 建築と装饰の現代的進歩を見よ。如 Kineema の如きは英國で実現されたつあり。英文化、歌と文化を中心としたものだ。
- ③ こちと一方には、悠久の古風ある宮殿有り財政外洋仕事も盛りだす。如ナショナル・ガーデンズ等である。
- ④ 丸見え、点とれて豪華なる British Museum は、世界で、數量は甚大であるが、資料充実館やかな、陳列方法など鮮やかな所あり。博物館の特質は充実せしむる無窮である點か、或は物の選別がく、或は不足あるが當然か。
- ⑤ 運河を見よに、英國のどうな氣候、風土、民族性等より見て元来 Gothic 系建築が極めて多い。Tudor と Elizabeth は互て一派セモ。偶然英國精神を發揮す。
- ⑥ 三百七十世紀と長い歴史。Charles Wren が、伊カルトリ、フランスの古典主義建築。

船輸入の港として直角横浜工場には那須石炭坑があり。十八世纪より之を開拓して英國船主は Modify する。十九世纪は金く混じて時代にて意味味の Yacht と無意味の Cliffs が並立。二十世纪の现代化を感想する様サは英國がまだ表面甚しきざざがかかる。前述放火事件すべく、古ヘ堅牢性が失く失へれんとする。英國の技術的優秀性は、

- ⑦ 受け取る莫大な英國精神を代表する遺産は中西のヨット帆船と遊艇あり。史より以降一品下り度て、大筋み承認へまどか。今までの精力を以て健脚である。今後百年よこに或は豪勢状態が続るべし。
- ⑧ 文部と英旧とはよく似たる点あり。支那の六朝より唐へ至る間、秦朝より最大の危機を示す。不安定く以下に今日全く亡國と云ふ。とく漢一千五百。是以ヨルムの危機を突き度り八百年、一文化の寿命は平均一千年以上出人するとの見らる。即ちは英の寿命は今程百年乃至二百年と見て可き理由あり。

日本は如何。第一文化は太古より仙鷲の棲息より一千五百年前に一段落か。第二文化ヒカルが出来たり既流傳迄まで一千三百年にして一段落を終ぐ。今や日本文化が入る、少くとも今後十数千年の寿命を保つ。否承久に際へざるべからず。

十一月三十日 (E)

朝は静かに北向へ乗り出す。朝来寒氣駆除せしむべから。ケビンへとよて外出せず。正午迄ぐの暇暇はアントワードを観る。

London の東、河原へ大て庭園あり。Freightwood へと接して居宅を有する。河の別邸を電気仕掛けにてござり、犬と子供達と馬にありてカサリあり寝室を構む。Ling London と名づけ。

アントワープは上陸時に市中を出かけたが、餘りの寒さでは船内に戻り、雪の路の從事者と日暮れに到着。アントワープの近郊では、雪と光景と手の伸びた野原、湖沼、雪深い、地獄等と見えた。街へ寄り道したが、雪原を歩く事で早く来た。

今日の寒さは尋ねて来た気温位と異なれば、恐らくはまだマサニシ中温地であることをう。

十二月二十一日(2)

船の荷役は午後三時頃で完了する。港には開港場にて夜の解説会、運河平、Rotterdam が見えていた。即ち會社の出入りの「八面屋」といふ日本人の店の男を室内に取せて Bruxelles 見物をすることがある。午後九時までは自転車を乗じて停車場へ赴く。度々ながら Antwerp の市街を見た人は六十歳の御年位は比較的よく無い。家並みより荷物の積荷は少く車の荷物が多めで、頭とおでこはサンス(仏式)にて或時代の遺産が無い。教会堂は Gothic の大塔にてて、教会堂はやはり堅実ある感じで、門子外れり手洗いある Renaissance を以て構造然す。要するに活気ある都市といふべからず。

現地(ニギリ)は終じて Bruxelles に向かひ、一深呼吸後、村色れぬうち、船を下りてヨーロッパを二十五分間おこなう。

Bruxelles は人口百三十万といふ、汽車は大都市の像あり、街路は割合狭く、ビルが曲折して古風な街はしきこと London が似る。街は古風で古式のルネサンス風で堅より規模は London の盛大にして威風がある。

比して運河の運河がある。Antwerp は地下の排水管として地下溝あり、自動車を走らせて市中を走らせる見ゆ。

主教エルム Hotel de Ville (Gothic の華麗なるものも歴史上有名なり)、13世紀の小便池(大さ一人足らず小便)、Cathedral (Church of Michael & Gudule)、S. Maria (Romanesque の最も古いCentral dome 頂)、王宮、九つ指輪を戴こうたら ■色室、国王座の御殿、Synagogue、Paris は第三回より運河セントラル支那洋服及日用品(其の販賣)、帽子や羽根の形、五毛錢(日本へ輸入)、大門の宝塔を廻り等々を巡り見て火薬を Count of Justice たり、一小型館みて軽き食飯を取り、書店にて酒店、喫茶店、Card, 地圖等、これを買へて帰る(金はなく)、Bruxelles の印象は、ふん図の都の如きと云ふ實感あるども、将来大いに進むべしと生氣に覺られる。建築は野たゞ興味づけるもの無し。要するに大國の如きが存在し、大國の是が子孫として生存する小国として、渾く活けるのみとするものある。

午後二時半を過ぎて Antwerp に降居す。Antwerp の Cathedral の有るエルムは一門の門で、中へは窓と柱、へら窓と骨組みのものあり、最上層は塔頂にてて一大画面で窓あり、壁は白い瓦葺き。内部は複数の内容の Van Eyck, Rubens などの名画ありと隨處に古美術の品々置かれ、天井はシテ横の絵画で之を鑑賞し、三時十九分を以て退室。

今日の Bruxelles 見物は成功したが、もう少しの間は船で遊んでから帰る所があらう。

Palais des Académies

久遠子は廣木の就立（船の本原豆、筋豆、玉豆、毛豆等）を詰酒を販売して日出夜く販賣十二年を経つた。

在 Antwerp 及い Brussels の紀念印刷局を
事務所造らべく準備を終へて西航を終脱す。

船は十二月廿五日より翌年一月は横濱にて宿泊した。

1. 航空 政治小作の趣合を甚だ簡單ぶり。非事づれくが中
野向かう土産と洋菓子とてニシ。Xmas又ハ
誕生日と華少の贈品とある。中流にてXmas
は二歳以内児童一歳以上二才十才、ぞひる
豪は土地、風物、人情、文化、宗教などあり。Land
の新聞及び文庫の士の立たるXmasの慶祝会
を視てやうが信頗り客室に現れたもの五つ。

2. 直見。富春から直見へ大船で一晩船泊まる。英シ
直見村の上に死んだれば就人道として社會の
内壁を刷る。海賊は多くは就人道の慣習。
寺の跡にして窮乏すること五。

3. 草壁村。新車販賣は冷溝から Xmas と其の
御軍と公理さん。Xmas Carol の實家を高
價の London にて一社一志は主張するが
教志より教ナ志ビテヨリと云ふに至る。質狀
ハ旧瓶新ふ。中流にて就職別居、同母で
半独立、積み重ね放りあり。日本へ來て後四年
又八千枚以上余過アヨリ大量ヒニタシルヒトヒ
矢物昌也。一枚ナ甚だ價値あり。蓮花は神靈堂では
大金儲けて Pantry 仕事。蓮花曰若より積み附して大
勝利として墨下事へ暮を取る。當日は女工は壁紙と
壁面の下部を洗して壁紙を壁上に貼ること

ハハ不思議也。荷物あるが Edmund 王弟あり石井さす、
浮行法を覺えし。世界ヨーロッパ王國と云ひが見ゆる所
カリシは遺憾カラシ。當時の國々世界第一位エリヤウ。

日出夜十三年一月一日

57

3

昨夜東船は大雪にて食堂の席付子没頭をか
今朝起きて見れば窓子見事あり。天井から圓
鏡を斜めアーチバルス上スル各々眼の下一定設すヲ
大鏡つたる、鏡の丸鏡等（何れも日本よりおもよろて
冷凍し二日前より開運せる由）を見へ、卓子等への
鏡、星鏡、月鏡、三組の卓の鏡あと、全般日本製
例を残らず、卓子卓にて體鏡を拂いて日出夜く元日
を迎へ。

今朝は珍らしく一天晴れ渡り、日光輝お浴
み申する天氣あり。櫻は現ニ北桜よりライシ
つかぬを留める。青々と優游する田野、遠く見ゆる
低木丘に生る森、三ヶ月の風景、何のKeph
行きかう人馬、實みんびりとこたむし聲あり。

正午飯後は客頭より食堂の持つた是より院探
して一同乾蒸、又より一同鍋を引て食と散声堂
を満喫。手は焼めて熱中外国人と打ち交うて
元日の宣上とよこして居み、中和煙草子よりジ
タル配達には立派手料理に重んじ色々アラ
は容易あらぬルカ煙草子に驚く感付セダ。近
づけ、船は正午少し遅く吹ロウタルダムス着了。

室より同一通路、龜田は市街見ゆる皆か
たる、先せきに室を和蘭貨物陳列にて施ルモ
得ル。一ギルダー（銀ギニ西）を借りて出かけ
夕刻御室にて第一報矣。手は青り食レシ、今日岸
外出セサ。尚元度一同に引まつてテニ龜田の室ニ
来テ即ちて歎レ、和魯飲膳にて頃め且つ
語り、遂ニ入てあは止す。御室まで歸國ラ。

百四頃のうちに大雪あがむ。同様ミルノニモ
覺ゆシシム長大木アヨリと申聞せハシリハ大雪
久松島の河口へ走る。Piscesオダヒヘ等は雪うち
止ま、速かアリシキ定めて不ト守候カラシ。

きたる有様あり、船等ハ大通じて或は水没して船
を家として使ひき凶徴の程を飛んで、一年一ならず
正月より他の骨付めは自然の事共あり。今日は
食堂を御宿又開放し、御宿客は伊丸ゆきビン
内み新築を食し、樂ひくよくつらぎてすんなり。

世界六地の寒氣温(-下限=)表			
サンクスノウヌー	33.0	巴黎	12.00
西欧	27.0	北京	11.00
リオデジタウロ	22.0	倫敦	10.00
カイロ	22.0	柏林	8.00
ロス・アンゼルス	20.0	モントリオール	5.00
並ビンス	17.00	オスロ	5.00
雁尾	17.00	ホルト	5.00
コニシタナーフル	14.00	レニングラード	4.00
東京	14.0	新羅星北極	0.00
温泉	12.0	イルカータク	0.00

「Antwerpは宜被支を率いて開きたり。
彼女ハ五十二不徳而略化徒刑にて三十日才半
死也。愚者半生の高慢淫童みて宿泊を既とせ
相合ひて客三千人、甚大の空を擡ぎ上げ
ト、与りといひ、失贅也。」

正留人千人
Antwerp: 十四人! おも然そり也
Antwerp: 十四人! おも然そり也
Rotterdam: 四人 (此は既に亡命人)
Heng: 五人! (公使館、正留所)

一月三旦(日)

支那は種種にて起れば寒えかく猿も(日本は雪が降
はしならう)水温下限度? Antwerp 11.00度
で今日 Rotterdam 乃至 Haag は室内をとて 10.00
脚ちぬるの外場見て飯田とびげん、一行四人子と Heng
がを決し、午後一時出かけたり。

埠頭は巨大木造たれ木造大木柱は五尺小木柱も三
尺と及ぶ事(高さ七八間!)山の谷にくずれ立、イギリス
と向へは窓へてへて北洋を大見心うソングーマリス
う集うシラー、これより西まで横道も、75m+に
ベニニア木へて造る。サババ、シーラー、アシカ木等
といふ。

自室にて Rotterdam がみ立る。100mの北洋船
と大きくなりざりてお宝しけたり。鐵の煙突と馬鹿附
添は更夫仙此度、船(Ships, Harbour, Mainland)を
落おり支流を走る船、此を走る船を通じ、船の内は船
と船と通じ、Ferryにて之に接する船の船頭は足を
を拂はれこむ。船頭は三脚の木棒にて船の左側から
見る子供達がに田舎者、乳児小供を浮かせてヨリヨリ
日暮れ傾たり、運木々でいく小舟を家めぐる船と
大木要らうと飛す。機関車は die Lok
die Lok (有馬二ノ浦の港) は Heng
よりも、Rotterdam-Heng 100m、蓋ひた船の
七八隻、二十五個船艤り立る。

Heng は首筋 40m×5m、全體五層の脚柱の上
に塊像 貢の木と、人口二十萬位云。ミン、モガ
クノンビリヒンた玉田寺町々に日本、大阪、京都
十箇には然く、牛若江上に大貿易、アーレン庄主の
経営。一店へへうこよりシテ、小舟の海、玉川、船の
港、港の手を駆けたり、天王寺道等。予ういたれ
内空を一見す。荷物 50 t と云ひ、多くを出荷
の Rotterdam を輸送とシテセイの二種を立く。うちシテ
シカシタマ。荷物 200t の船の二種を立す。船の

は日本作の脚三倍倍歩み。

平テル宮は建築として世界を第一にす。相撲は立派な
あり、各国より賛美ありて各空を賛美した。一、日本宮。
は屋内を窓も入り口も立派ふと称する。ハ空に手で
手から手を出されぐれ。吹きこづかたう。日本代表の手
手は壁面の筋の大きさナリ。壁面空の陽生手は
安達拳一郎氏。壁面空の筋を見ら手ナニモ此の
手。手エ骨は容質調査を含めて二百五百万 mm^2 ある
ト云ふ。王宮は薄壁鉄板はモルタルあり。王室の種類ありと云ふ。

日本と同様に同じく手作業の内装を施して手作
業者手作業者、三字は空室と咖啡を飲む事ある。
併し手作業者空室によく手作業者ヨシニ。然ニ手作業者
手作業者。手作業者ヨシは手作業者ヨシアリ。般人で空
室を手作業者と見ること多くて嘆る様ある。手作業者
手作業者かへん。時刻は六時半とす。

夕食は正月の食事より前段が手作業者にシカ次第
食ふら。Pork and beans 人は甚だ明快にして厨房手
る男ふる。豆と肉と更に三チトボンと定め手
ひやぐりまくり。一同を喜びせたりて笑ひあつた。

英人氣質小説

個性人性一大学院頭脳あり。其の実家はアフリカ。其他を
学生と共に野獣であるが、その実家より「体調を得て父の病院へ
学生で父の病院を見る」二回開手も御見合はるたこと連絡
あり。教授は洋服の音頭者と、一家と用意せら。紳人所頭者
頭者いつ着来さる。向いは教授は「おち」といふ。紳人所頭者
着來る時日を報知。わが子本太婦は豊富にて教授の家
に来る。や一束來て不思議。走帰は二階の一室に入る。彼等
は歴史外出して歌ふ居らす。教授は婦と歌ふ。歌ふ中ある
間々、一行の対話する。教授は自ら 1000 を觀むが如き。
教授「一部や」とさす。しかし紳人所頭者教授は極
極満足みてをニシレキ。實在性無し。もの内ニ二回も日程が



一月三日(月)

今日は天晴れたれども
寒い。外歩き
良き。朝日を車街
で見かけ出す。何う
名画室を入飛地飛
へる。これが隠る面倒
にて数日間隠る用意
せり。

午後よりHamburg
近郊の午前六時半の
車駕みより、行歩
の散歩をす。
ローマンスホーフは
定かに見物せざる事
特の酒目子を軽くす
き様より、但しその港
はHangarには多く
うち人口を少くとも五十万以上あり、アルヌルダムの六十分

た。本太婦は人手を借りず、ササと荷物を机上へ。階下へ
下りた。紳人所頭者は妻と娘を連れて來たが、娘先
高ひかける椅子がある。丈高はそれから帰ると云ふ。腰板の面
を一枚自分で手作りで縫合して一歳の娘を抱き抱きだした。丈高
は喜んで立ち去り茶と飲んで、good bye と現行にて
アフリカへ立ち帰った。娘から聞かねば教授は紳人所頭者
の富を取つたらしくといふ。本太婦は別に娘の手と手を切
らから
上地の紳士人等が所謂の「紳士」で國を治す主君が
世界団体を書いたが、その通り、日本の尼僧人等を標準にして
他國を書することは古事記、何事か正、何とか即ち歴史書
日本は日本である。英米を標榜する文學は多い。或はとも英
米の民族人情が如何に差別的であることに。

ヨーロッパ大陸の風景を見らる。現代の新建築をよく見え導管は、出でたら風更に新建築の「陳英 Van de Venne が出したと聞こえます」。

今夜宿泊一人一人へ宿泊料、自転車修理料、及んで税を支払。次の荷物予定の如く運び、夜半過ぎ行く当社、Hamburg 着は五日の午後二時頃ふと見しそ。

一月四日(日)

朝は北海を主と、波浪や高潮など先づ来船といふ。Hamburg は夕暮江戸時代尼五日未だ着の電報を受取し、直ちに五日午前六時改航を仕立と、速かに表をとつて送りあり。税関を定めて荷卸み通るベシと船員を正す。予ハ大太陽轡の原ハトをす。

入港より電報をうり曰く

「このたゞの改航はユーロンブルグ太候館へ手續を出し置いた」と。

直ちに退避して

「ヨイツはドイツかハンブルグ。アリガトウ」とは成り。昔しいコジケあり。

被基より船平洋契約報來る。

今日は、各日序付テモニヤ交換レ、便みにて荷物の積みへ全く附け、翌朝の上陸を行つ、け林石等の仕事うと、各方面の人々と会見することなど、船便へ附き。

船は二ヶ月を満たすこと約三十日程里、おからい引き返し船頭手みして船便ひとと連く夜半過ぎの朝二時半ハンブルグを離る。

Hamburg 北緯 $53^{\circ} 30'$

四月元日午前四時出 午後 $8:45$ $8:45$ (八時半天明)
日没 午後 $3:45$ $5:00$ (三時半天暮)

一月五日(月)

早朝起き坐て、上り立つ仕度済みと交際の起業して所持金額の調整を行ひ撮影。出来て形式的。斯記録の写真を見て去る。朝食を了りて休息する所へ江戸氏の座を設けて机を張り手と久瀬を寂シ暫一刻。手は御長以下各室全部、Barakudai 恵心懸うは別れを告げて席を下り、手廻り小荷物丈々を提へ、即ち化ヒニモ灰ハ計らいこ大使館宛み寄道を尋ねみ。一行は直ちに空港を起き、予ハ江戸氏の家を應じてこの所有の六駒場の御儀を鑑定あどしたるが、江戸氏へ西地のHagenbeck 駒場園内の日本式庭園へ改修つゝが、現地ヨー見して意見を示されたりと懇切なる。心を博すして之を譲り、即ち現状の現象をうかがう。江戸氏は予事ニ甚衰を馳走し、対て御内を心配せんとはあ。その意見に生きて次第船を出る。市の中止ある湖を過する一橋にて食事焉。此は真正の御江神理にて御慶祝は甚九重富士山が味を意からず、オーラのガビールを嘗んで船を去り、おから施々として降る雪をうけて御機会を decide し江戸氏は驚く汽船さる。心地の体味やアルトナと傳令しこれ人口四四十万の大都市である。客屋は豪華あざやかと先づ醜かうす。既に最近のアパートの豪華な者も、傳し牙膏最勝城と云はる。極端の連鎖は路と是變けられず。一寸面白カワレは某公園内の天文塔、ビスマルクタワー。

ビスマルク記念塔は高さ 122m で、螺旋形塔を有り、アルトナの別荘建築はどうく「ミニチュア面白さ」の見ゆ、豪華な豪華なと云ふ。行進 $\frac{1}{2}$ カロス上り及び日暮中央停車場の隣丘 $\frac{1}{2}$ Reichs Hahn といふホタルは皮膚す。

- 可あり疲労して休息する所へハニフルグ先生の
橋岡氏来り、教授のGunderl氏高先の活用代理
として来るといふ。引起して最初に二つ目は、第一子
だけが早朝到着の状況を聞く、その點見えず曰く、
- ① 日中皆は Sommerlich にて休息するを含めて
研修より日中隔、日本文學、日本歴史等を教ふ
も、學生は教員のよきよくからず、但し歴史は
日本と相互に変化ありし、近頃は植物を書むる
ことを恐れたる者多く傳は是正されんことを。
後 Gundersen & Netter 主義の人等で Holler
も之を説くるるより眞義の發揮を受けるを、
其の學力共々見事にして
 - ② 之等の方は古くより研究され壁畫十五枚充
あり傳し古美術研究えて之を行ひて文學方面より
書評、講評等々行はれ、歴史、宗教等々研究ヨリ
つづいて文部省のモスクヤ、教授 Jäger 氏は
相手の業者として知られる。
 - ③ 等するも Netter の方針は甚だ強めて、眞の
大作を成すに至らざりし、種々甚だ苦しみべし
 - ④ 第二の壁畫は理論的でなく、理論正確なら
ざれば子守歌也。

子守歌を壁画を観たる上、今日の社會の癡情
みあつられて裏端を失ひ、餘事豈か惜うたる
日本は新聞を廻らし廻して讀みだす。
生活は確実、飯田や同様食慾を失ひ、暮
る晚食を取らずして寝て就く。
今日ハ Hamburg の氣温、水点、下火度位、
沙通寒の如き。

△ 壁畫は、飯田や同様筆の運びを失ひ
て暗然たり 「鶴田鉄一」

一月六日 (木) 晴

65

今朝薄雪止し、気温慢む。早起朝食を摂
るパンと咖啡だけを壹 muesli 50 P. 即ち油あ
ニコニチモ、高粱といふへし。但し Hotel にて食事は
貰ひ直し併し豫約を當てて御食ハ只朝食のみ
なり。預託書きの如くハ廣大ある Saloon にて
あり、支那の如きの Saloon あり。即ち高貴な
廣大な Hotel の全部を使用し得、即ち公
美術館を豫め書き食ふ達し、只寝を付けて個人的
に此る次第あり。やがて給食予定より客を遅
れて西北郊外ある Hagenbeck の動物園内に
到る。園の廣き十萬坪位はあらん。その正門より
既、その他の動物の籠引き施し、政界の精英あり、
門脇に園主大字三ツの旗出て迎む。導かれて園内
に入り、立々散在する各種の動物籠を巡回
して直ちに中央部の日本庭園を見る。池、中島、
鳥居、楓、燈籠、仙人像、塔、狹い谷を穿めて東西
峰々と対立し、子一走り出でまし。園主は昨晩
セサミを作らんといふ。子は之を傳記するがゆ
て丁寧にヨリヨリ第一回を愛して日本庭園の改
修及建築の圖案をアゲルにてある。園主大ニ喜び
是より園主の案内にて動物の一郭を見る。ベンガル
は貰はぬが、兎の鳴ぐや聲が聞かれて以歌つれく風を
以て水を撒く。モリ松甚か奇あり。海馬の足をみて甚
く珍らしく思ひながら、更に海馬は之が身の巨腹
より、園主正門の前でクロスカウの風体で陸上を駆くと
道上子供たちが嬉ぶり、その他の海獣、海馬、海豚、鯨等
事を見て園を辞し、市内の某館にて江戸式等の
豪華な接待となる。暮入は洋芋と同様の正倉の湯水
正即恩賜もあり、例の禮學ある料理も満願して
御食後直に牌室場へ赴き、午後二時十八刻御酒
抹せ御食と並り Hamburg を覗く。
食事は湯を流す形横衝舟を喫つたが、やがて

走り出でや割一列車速度を加へ、最高時速155km/hに達し、二時半と九時まで午後五時三十三分285軒を撤除され、伯林Ludwig Eichendorff通りを走る。途中は煙突から田野、浅雪山體の樹林、駕籠たる中で民衆神の見ゆるのし、都車うこまは見へず、先づ南側めにノンビリした風走る。

伯林市長室 (Japanische Botschaft) はようやうなアーチ式(北山氏) 大使館上り梯田二重螺旋階段第一段、二重螺旋階段。東洋風亭子と庭へらる。Ramenberg 北山画院は手書き自筆草書用紙上に、Hannover Hauseとある。この会館は日本学者会館と33年同じ性質で学者、藝術家等が提携するものといふ。設備方面よく開け、手の室は手書きの壁紙、扇室、浴室など、を備へられて、部屋代は一ヶ月200マルクあり。窓囲の室は別々に被せられたが、狭き一室と Bed で選り小さき机を備へたうつて一ヶ月70マルクあり。壁紙はホーリーと北洋の花と、尼尾北洋の花と價あふ。手の書道は13.5メートル四方の小字のあたりは設備よく開け、Sofa、床、床、床、椅子、小床あり。Kasten 室と称し、Kasten の小腰檻と背面像があり、この会館の各室は既視の学者の名を取って命名し、Gotha 室、Heimholz 室、... わかぬ面白き趣向より、落泊者一連の形容語の中の二つ。

Ramming 氏は早く御立し。北山氏は手書きの壁紙を取つて、裏たぐる庭へ走りして来る。北山氏の庭園は二層、手書きで芸術家を取つたる人へてびと語は實に堂み入つかるが人跡希立故で空寂む少し、子はよき遊伏者を得て、胸に拳頭ふつ。北山氏といへ是れ知りやれり歌う者もか、或ひを胸中抱據するやうの大凡下の火燐。

Hilchen は算する国へ恩于酒は大学の本業なり。a. 漢文を讀む事で國を處て直したる漢文教化也に通じる。b. 德性政治と強ふ者もとて機知を發して難く迷惑おき。c. 他の民族に對するに善い利害を覺えてゐる。大學同僚の新。

②種の生成は既存へ文化を破壊して歴史化を創成せんとする主張とは定理空論を地獄にして實際國家の實利を失ふる。

③之が如き打撃を蒙れるは既存空論、既存學系の弊害である。

月曜の國は滅ぼされ、即候現は廢帝され、帝位は廢帝され。

④南北戦の追宮は甚ひ、被宮は官庫に封を置く、民家に移す費用され、國を守らる場合財産の三分の二を没収され、財産没収が出来られれば死刑に處せらる。

嘗て某外國の華人、アラウド當局大臣、御心も國の外に歸るを願じたる。大臣曰く、「彼はほん國の政事と取りざなべからざらず、倒さる歴史を研究されな」とて多く言ひ乍。

西服節の立場は墨を著し。キリストは猶太人であるが故に我の空論は猶太教並にバカの空論、キリストは猶太人であるが故に我の空論は猶太教並に空論であるといふ。

⑤御心の儀事は有る無事あり。さきの漢皇帝と大父を生じたちは放火あり。諸侯は率一國廟、Hilchen の漢心あり、諸侯と諸侯は將軍。漢帝へ一日廟食矣。以て諸侯は國民を放逐し由て開けた戰勝あり。受刑極を帶びざる豪族へ強制解雇場へさせらる。日暮の火燐す半ば七時半前後す五時半、若し之を半も以て野を守る。

⑥暴食社の Typus は美濃色を身に附せる日本人よりとの理由より、体を立てて脚を引きしむるが如き、明治會の如き全部を追放され追放される。同様苦難にて体を立てる事なく、其の後誠實な生存手段を失ふ。

才70度44度44度

一月七日(金)

伯母長四の一夜を既にして, Hamelich house の朝食を残り一と通り会館の建屋、玻璃、雀餅等と模倣す。やがて二見秀雄君来付し、歓待一割。やがて打ち連れて、一二町先の停留所より地下鉄で東へ Niedersachsen Platz (東北) へ (口) 停留所の降りた。その傍に東洋館と書板セイホウ、不辦理店あり。一丁目に入りて見る。日本商人の店舗を残りつ。あるが店主は日本人。

多くはオランダ人ニニヨリありと云ふ。

多くは東洋の旗を掲げて、陳列品が見え、殊に是味と服ぞれども實ふる是も。葛底定は一軒。50坪。チワード屋がひいて、二軒を構え、即ち船形船二艘あり。高さは何れか計上かを得ず。即ち日本商店壁上は目下五十枚位。その他各方面の日本商人(通称又西人以上)、四百名余す及び外人がと食へる。これ等の人々は飲食が顧客たらしくて、相當の賛美と云ふ聲あり。

食を終つて宿を拂ふ。今日夜は大使館へ往スル。旅程を述べて上、予客の荷物を取扱ふ事と御を同承せめたが、暮由エアモロは停頓して未だ到着せず、ウシムラサキ、荷物は大使館へ向うと載す。伊東個人の手札あれど、清脆な聲つきに載せられかねずと云ふ事あり。手は運び困惑したるす。往日自ら大使館宿を訪みて荷物を手にいしなり。

翌の日午前四時半は、朝うちと後に入ると飯田と同居する夕食を残り、各自の面ハサ付食事など、残らず飛ばせば。

一月八日(土)

今日改めてよりヨーロッパの旅を終る。散漫に聞き見るに足らず一家無事の報、重慶暴行の件、ヨーロッパの反対、非常財政の実景、政府の消息あり、くり返へし重じて聞こむ。

午前北山氏來訪。打ち連れて走づ大使館を訪ひ、柳井良吉、高松、赤田兩君が麻雀の面会、荷物つけてお詫び候。荷物は Hamburg にて江戸此の駅頭まで大便観光はヨーロッパ民せしも未だ到着せず、現況開港に成る種々の被災者を覺ゆる様子あれは、何とか便話を講ぜられ且して候頼しかり。

走より Ingolstadt に赴き Rammerting 氏、女婿共、その地の听完と食見、市内遍歴と一里、施設の整備を過観し、構成日割は就き相序多。元老院の議院は多。日本側に贈呈の御冠御目を持ち合せ、Berlin University にて大回廊復興前院。その他五六十町の大塔廻廊成の模様。Ludwigsburg にては金城ニア Prag にて、あたかもその魔院したるか、少くも陰鬱を極度に底らず、予々不少驚きし中更如カラマツヤと雖く、既う行きみ素せでノルバタリの體感を被感せしものと感心せり。

Juridical を去りて北山氏と都電とじふ日守、飯田と起坐食す。柳庵は京河軒よりナ、美味うききやうの席踏めて賓客あり、北山氏と心ゆく許う接待をつゝけたるが故に、Juratit と呼稱する。柳庵は、その子雲晏を視てて慨慨也。聞けば弟の私心たりし人々は一年足は一年半ナモ夢想し、その間三四回は回国位の機会を失し、その他は難用文は山本のやうに貴重業の開拓に力をもつて全く効果あれりしといひ。

走より北山氏とベルリン第一の百貨店を赴き、多少の買物と食み入ること宿を拂り、例の如く荷を書き一剖、マクシタ食と略く遣す。

[一月九日(日) ③]

今日は日曜おれは朝早くに朝薬を起るとき日三竿。即ち十一時まで起き(日中あらべ十時までの起き)、窓外雪が満天白壁となり。飯田と笑み宿を出づる。Philadelphia 在停留所より郊外散策の客そろくに出で来る。多くは家族連れみて犬を伴ひ、小供客は積を担へ、スキーを駆け縦々として活躍する野原と木立裏の小旅客喧声を耳でてスキー遊ぶる有様。向うは朝から見て見らるべい地よし、可笑しき雪人が日中の雪うらやとて又別個の雪球あつてよし。

例の郵便を入れば二度見外留学生數人有り、數

枚の禮物手せんと思ひしが、日曜でこのまゝ店を開じたまゝ、降雪止まず寒氣も強められ予は日暮近く宿へ歸る。飯田は屢々かたは、足、才面を見ゆ

出かけたり。

[宿入りて飯田屋へ観音して日本]

10. どき修理して道を走る因幡セレブ館、若き有二人の達人道筋開拓者位は指めて深如子院へ安ら、茶を喫し至へて、どうも基路を仰せ、ひくび由牛の事情など同じ、互に住む者を詫ねし。廻りを詰して別れたいふ。面白を詫ねあり。面交大の子曰極て有矣。

講義の休憩も層重し 12時頃宿泊する
午前11時迄、またまたTulipへ見うち。

[アーヴィング]

7. 有る天正幕府の社主が別荘を建てたりと、生の門は「彼はこの別荘を造る金を何より惜だらぬ」と大臣に聞かれて貯金を貯めに走り、大臣大怒、「誰が作へ」警察へ下人を捕まえしむらう。下人に見付かれて報告セレブ館へチークをさむべくと街上と廣場したる、道を又「そのチークは何處より得るや」と點検して餘波となり者あり。

[一月十日(月) ④]

午前十時頃まではまだ雪が降り出でかず、女郎舞会にて暖の薄着する内北山氏主、講演へ出て金の絨掛懸かれて、又第一回の講演を渠の十九日と二月二日と Berlin 大学にてやう事は決定す。更より飯田と飯倉銀古が其の馬車にて同日開會と代り、席は事務員在り、次は来次叶市施設財政の急患ありて名前から、伊五郎夫人在りとからぬせりより、正室と同居の中に身を出で無事あり。立ち寄りて荷物のことを10ドル、鹿谷のほん難事み日本語をよくす。少くとも 8 morning 以上ある。

走る京都と駅は尼長寧と藤ち合ひて食食しながらと休息して大使館を訪ね、ここでモスコウの御子さんと吉山氏は医師を盛れたり、これにて最早大使館なるべし。金と東洋大使使り、予み食ふべしといふ。併ち大使を遣し入るべ。在近司中等の職者と聞かし小島中佐も用意して大便と小时毎に洗して吉れり、漢堡の江戸松坂屋でハヤシラーメンの日々在園と聞かうる園をばり乗つて丁度晏起れ、朝一時まで寝て行ひを残す。やや疲れて七時半頃宿へ帰り食事も取つたる後、マサル君と北川君の摩訶なううかるニギニギと日本由来の以來始めての本格の仕事あり。

十二時頃お出く

7. 何乞之紀事大殿と御座、上坐ありて御官官吏立てて御坐たるところ思ひる。和室の奥間
8. 大殿と御室に内へ一ヶト向こに通されざりしこと
9. 聖像のガラガラ追御をめぐらと宣示して承認を得させ
10. 何乞の御事は内侍として金を贈る事の不チニ
11. 10ドルにて御事大殿は此の御事は送り御警衛に之、松崎君と藤村君

十一日(火) 雨 雪空

Instituteに行く。Rammung 氏より電話で来
信を読む。Rammung 氏は手書きにて英子贈り
信を長の Admiral Foerster へと持た。Admiral
は函の立派な筆者の人から。手と見えて懇意にかかれて
お祝し、手の筆跡や仕事の模様などと同様に。
「貴下は是非おいで下さい」とて講義をされた。原稿を
お読みして御禮を述べばよい。それだけ発音が正しければ
結構わかる。三月末は深夜まで荷物を多くあるうちある
是れ昌野が講義までお手伝いするが宜しい。
と言ふ。先で書いた通り試験をされと度も様々まで
頗る驚嘆した。

より一旦 Institute へ向うと食事の後、宿して
原稿の改題を。

飯田は荷物の事で北山荘へ出立せず、御前省
社を訪れ、更に税關を越え、荷物と手渡をせしめ
更に要領を得ず、荷物は一塵、賄賂をばらして、
漏洩されは税關を免れざらべとか、荷が何
だか要領を得ずして空しく帰る事多き事。
手も少からず劫を免やしかつ。

夜は原稿を練つたり、難用を修理して
十一時程お寝く

11. 武術人の空手と日本刀

豈乙の立派人が相手多いが、何れも口を閉めて自己宣
仰と日本と對する態、罵をやる。日本人が正面から之
對抗されば必ず屈ける。いつも辨明、發大刀と聞か
れうて笑ふ。

十一日(火)

Institute は好く、窓はあり、その荷物は一軒
車と通路すらなく、子供三時半は一半は宿泊、
一半は Institute で宿泊といふ。大小の部屋
を除じ、壁は北山と近くで新築を行く、窓の
主人は「何より第一等」とおもひ即ち壁を口にして宿泊

流水不居

衣柜不盡

と記してある。
町は北山の宿泊あり。手の荷物は全部税關
と税關通路ビリとの報をうり、手全くあらず。これ
は大便籠の脛脛のこぶらぎ、Institute と
税關通路とは東をとおしめありとぞ、何をして
中泊せば好都合ぶりき。

子供三時迄と Institute は拂う児が出来
して荷物(酒一升)全部書き出し、衣被さらは
一ツ所封され居うち、一ツ Zollgeut と賄賂
されたり。所封は毎日ゆく行かべしとし、
走づぎを簡単な壁(壁入りの)を取り出して
て引負一同示す。總て十五枚。子の簡單
な現金と同一は區別をみはりて、税關して取
られた木札をふるが、驚きしは女事務員までが
圓表を對する理解力が強く、一見して之は机ぐら
これが其本業と、急所を指摘して強らぬこととて
ある。且此では半身立つかう間で皆其のものと云ふ。

12. 日本留学の保健計画

何時ど年留学を持つ例はよきものと稱す多くは避暑と
離れて避暑せず、女と關係をつけ、開署を起し手加童で御
済ねのう、金が無いので女を棄て、税關で見るやうに、
各種の不端は極端に數へ切られぬといふ。

13. 中原家の悲哀

中原家は古き経営の苦にして、收入の約三分の一は消耗
が取られ、しかも相当の体調を要するので、誰でも深刻な
不運を感じて居らといふ。

要するに當時の常識化は日本よりは進んでゐる
感あると想ふ。

夜中入りて宿へ帰つて見れば果して荷物全部
届きてあり。子と飯田は大ハサギで取る中の車輿
をあへず荷物を同封し、取り出でたる數々の物
れも少しだけ鐵瓶あるし衣服、食料、土産物、用
廻品等々全部仕切りを終り、早速羽服等
の纏束をつけて壁など食堂を幾度か入らせてある。
食堂には宿泊又は外食の人々もまつて居てあるが、
殆ど人々外、英、仏、米、瑞、支那、印度、香港等
人々からぬのすあるが、子の服装を見て何れ
も不思議もあらず目を惹かしたが、これは、或は
一種の習慣の服装と思ひ、或は奇怪なる醜
裝と思つてゐるらしい。併し瑞国人は日本酒類
門前で日本服を着て居る位で、子の服装は驚かず、
日本人も驚かず、アーティスティックな服装で
すこと。と仰せ跡を云つて笑ひだす。

日本菓子や食品などに、やはり日本の服装から
自動の譲り、やうて食膳を呈ゆかした。

食は例によく難易一としきり。次とく感
わく。

一日十三日

水

四

75

おはなしはよく。和がて西洋の新聞通信
社東京、彼はえ東京の人口由、London.

Society Growth といふ小説あると曰く、因満
老態、明朝の老人あり、彼が見て又一人が年少者
矣。此は後祖の書ニ才あるか曰く、何とか云ひ、
子チチニ下らぬ現象をするので大抵通じ。

独立て昨日暮と運ばれた荷物を開く、全部
纏束圓形から、蓋等々の諸書その他を並べて、ヤ
Ranunculus と北子子種植し、全財寄贈のためあり、
乗れ由吉子共に花と大満悦あり。やがて馬鹿
者權丸と同行した Baldwin 東京店にて一斗桶價
より半斗桶値から思はれす。

走り食時御庵み出でけ口二隻器と会合より
同席の ~~中野~~ 田代を訪ね其の体格など
一見して打ち擰れて直に向ひの器の寒風庵等
入り其基事は文の寒風庵を見る。且つはこのあ
全然者人ばかり、二見既相当高人して自らもコンタ
クスを保持する位である色、安堵、もし由立境よく
道がが雍い面へ手が面の如き標あり、買ふか否かは
詮せざりに立ち、次より帰途、古木香に立ち寄り、地
域的習慣にて東洋藝術施行本部等を買ひて、
宿泊する。入深達主君より使者あり、珍奇の日本
及本國畫の衝立と屏風と漢畫等の物等の
貢官印被を封入あり。罷め若しく。

猪木太

2. 町中の小道は面白(ふしこ)一例を挙げます。高木上に掛
かるやハジケの人の小川沿えよりでは青松、松、木葉等々、
次は東洋のもの、最も多く置かれてあります。

(此段は五十八人)

3. 猪木人は伯叔父で申六百人候る。徳富一詩團隊
シテ外國の *Indiac* と連絡し、使してサヒコ開拓され
の難は打たれ、住みが野人とは被交渉ありと聽し。

難民

1. 國税、或る里番林で難民の一個を賣ひ海賊行く。
現聞にて留良被有りと御られ、無しと想ひ。其難被のガット
を握りテテを見出し語聞けタアルムーと同ふ。モー總て
登る。其難被を身体擁護しこそ、一個を登り、直子被を售
却す。彼の「救日商救世」されたことと助一毫の恩の爲金を索
ねる。彼何と云ひ大金を奢らばか、殊子遊女にて行
く所不明となりたとす。次第に。

十一月十四日(木) 晴

午後はアーチitectとて遊ぶ。前半から電気、後半で漫画を興味といふ。予は之を承諾し、書籍へ出で文章を打て歩む。歩くと音楽セヨと並んである。

午食はInstitutとて遊ぶ。前半から電気、後半で漫画。先より又一と仕事と云ふ。アーチitectより Volker Klemm museum と云ふ氏を訪ね。彼は Berlin の歴史の museum の館長として偉大なる努力を傾じ、房で日本五十体年中近々で日本で活躍するが、頗る天狗の男あり。手に彼の手が Marburg にて講義用であるが、附削絵画のうつ版複数点を借用欲に応じて申し入れた。彼は快諾して一室を室内にし、附削版複数点、うちより予の希望する部類の品を手に取ることなく抜き出して見せたり。日本中の骨董店などに大げき附削版の準備あらず。あうとして影の如く懸念され、驚き、頗る驚き、驚き。予は僅かに一千石大けい附削版を出してこれと交換を要す。

帰宿、夕食は草木より摺取の雲丹とサゲンを出して舌鋒打て應か。

夜 Spranger 定食より来店あり。例の如く講義の原稿を渡めて遡く題を説く。

講義は言語を中心とし、其を點と反転す。西洋文化は歴史と作成の根本を置くし、既存の現代藝術等と對して括縛する意象を放ちつ。又、古文書を破滅せんとする無理ふらぬ点あり。その人へ背を向ける人へ裏あり。頭髪黒髪を学び頭の輪廓堅く強く眉上う。何となく京洋解して準拠ありといふ點が妙子也。

十一月十五日(金) 晴

Institut とゆく。十一時 Technische Hochschule o Borsodamann 論理來訪、此ノ高師造業研究の大本にして表裏有り人となり、實て見れば「風景上から見ちはらじ風体」なり。一旦、旧知より如く、ヨーロッパ建築研究を着手したカントン州立工科大学にて開き合ふ。予はテクニカル中見学者の一人を示したカントンは夢中みうと見入る。彼は高師に在りて若様十九歳にして漢字を讀み、漢字を解せり。再教育に拘して各民族語を別れある。

次モ昨日の新聞を手に見度らどり、原稿をさる。予一陳して誤を訂正し、漫画をさへしつ。Rammung 既往史を見て女事務員(手に額田の被を手にひいてゆどとこした、以下おほくといふ)と相談し、貧窮地帯を交渉して漫画は Institut の施設と多々文を貸す由で権利して新聞を出し、用件に次第高師セヨと詳しく述べたり。午食の頭北山庄東、Marburg 行け行けセヨあり。予は Rammung 氏の朋友をみて元へ入った所を借りて引ひをひした瓦ハ殿ケ引ひの修正を加ふべき点を注意セリ。アーチitect 手が持つらう町と比べて流石内壁の先端は山形の皮はざること影響かうと感心す。

四時頃帰宿、六時まで寝て外出。算て結果セヨ 東久留美(通称名の正義、昭和十年二月出生造業者)と Hünabergen Penny と萬屋会の日本事務からて銀樂鑑といふ高野料理店へ会食す。銀樂料理店がうれちと食ふに足る。房子で歌と食ふ事に思ひ及ぶる福田(五段横切)風を含む、又王置瓦を産す。この高野は日本人の一家で、今タラ非本国の日本人充満セリ。東久留美は近日植林を立ち着け園を遍歷して日本より帰るといふ。

十時位まで宿を歸り、一と仕事して就きまとむ。

快晴一昼夜

早朝一天晴れ後々又は曇り时々太陽輝かせて
爽快あり、街とその周辺はおだやかな生産者として
多く穀本や春の野菜を出し始めたかと思ふが
種あり。

朝食はお達を心掛けて朝歩きのびくと
休養を取る。昼食は復興公兵天皇来訪のため
山の散歩を朝食。食事は程々あたる Vermouth
を出し、洋風のスープから、豚手し、洋風の食事
後は、多忙やう風呂やラジオ放送をし、夜更か
して寝る。

Hitler

5. Hitlerは自ら Berlin の大體張を計画して、宣傳省にて本部の件まで室付せしめつゝあり。
竹博は開画にて Berlin で改選せんとする事の
より、内容の方針は野算を發表されたが、之より
は Bauinspector が重視されられ、Hitler
直属の下第一大機関が設立され、而る。
6. Hitlerへ東方工場に整備あり建築は興味を有
し自ら design せず、自ら Minister は建築
監督を間催せしが、之に對して Hitler 自ら建築
監督を減じ建築文化を力説したり。
7. Nazi の官署は新古典的建築は柏林、Dantreille
Halle や航空省の如きを雄大なる貴賤の
て宣へは貴へるが何の豪華か正と普通の Modern
式と折衷混じり合ひ。
8. 二人在建築が何と國都であるか、これより
は柏林が一色を塗りつぶされたら失ふことを大變
あり、Hitler の眞意は墨にして何事あるか不可知

一月十七日(日) 晴

午前正午詔せしめしの Marx を受取る。便のつ
日本友早福田の連絡手を出たら中尾氏、岡田と
吉田の連絡手と交り且つ空き且つ喜び。是より一チ
三人 Innsbruck へ行さ。昼食を終る。

乃ち Marburg の大学院にて、手の
講義を聞しておもむけ打合せをして帰り、
中尾氏と帰る。

走り子は Marburg 諸君の居所の駅便
を渡過し、岡田として園長の文字の贈り物
うちしだすが使入にて送了せす。即ち洋服
食器等をつき仕子を連携し夜半迄とて
かりに終了し完成す。

参詣する大の時計を購するは減り困るので
これは Innsbruck 在の通商ある参考書を宿へ置
けがとう焉あり。文學、政治、經濟等の用事より
日本の事跡は比較的偏りておらず、文化史
一般歴史、藝術等の方面へ向く文章あり、
深く百科事典の文書を追々さへ調査上甚
く不便あり、之を充実することを願ふより
矣。

考 Institut はハボンく取扱べの品の業
販賣の日本支社が堂々開社あり。才媛や才がし
ぞうあれどり足り難給り而て Institut 奉
事の技術問題の為不振也。

9. Hitler の御下等は今十数の建築を Hitler
を口にしたてその後で有ゆる私語を察エテ。確
か豪傑中均能む。 Hitler は是と見ぬかとて居
るといふ評判あり。要するに Hitler は神の御
預言するものは眞理なる徳能の民よりといふ
ことである。即ち己の前途も既に認。

一月十八日(日) 晴一時雨

午前 Institut は起きて引立つて Marburg
満員の準備は從事、完全と終ります。

此の午後は Rammelkampf も
女子学生 (Fräulein von Schlesien) も欠席を
指摘し、北山先生はさうと解説しなれども、
日本人の心理と日本人の心理の一歩足りざる
かゆることにて、中々大いにきらめく。この心理
と情り危険を見るは面白。

私は Institut を去り、又に機関で理監
督試験 (審査) 漢字にて理監督と書かれて日本
人の理監督者と日本人民を招き等するので
宿泊する。

私は高い立地にコンガル、星の他の道具
を空に来る。今度は風は温潤で予想通り
あり、土瓶あり、これより自在に温泉や酒が
飲めること、もうたう。

既に Marburg にてオーバーラントを渡り、
便りに北山先生より便りあり、我より家
内に贈る御品と終業式の贈り物を贈りと書く

一月十九日(月)

早朝起き出で仕度を済みへ自動車を待てど
き来らず、門面に出勤せず、女中は電線で催促
せしめしに、懶怠上りゆ十八分遅れて来る。到底
八時正十五分の段空への間合ハジと思ひしり、免
り角を車を走らせて Potsdam 駅をカツカツと
ば速江は今出た斗の轍あり、開けた日ヒ山の
見へぐる山自然検定の時を下出発せしむと
思はる。予は遠方を尋ね、次の段空の時を
を調べたる由半ば寄つての両方併じてこじては、
今度の講義を聞き合はず、如何せんこまちたる
結果、飯田と Institut を走り、養性東をあ
座をしめし。やがて彼は Institut のお母さん

と共に歸り来る。お母さんはチーフオーバー
ヘル (Anhalt 駅より) 二度乗り替へて
午後七時十五分 Marburg に着くといふので
直ちに車を飛ばして Anhalt 駅を走り、首尾よく
温泉の趣としてを得たり。お母さんは電線などを
先方へ看附石を直觀し呉めたう。

次室中同室は乗る余地ある一老人専用の氣で
お好み駅にてチラの覚省をつけたるが一急停車
で子の駅頭に日本づ子供を問ひ、彼の名前面
を詰めて Halle にて乗り替へるまで留とすばかり
音と体をばうし。Halle にて老人は食料をもって別
れ Kassel 行きの統領を乗り替へ、車中食券を
入て金貨を減じたるヨバンク酸味あうであるマグ
レ。

この近地園子はあ邊山岳ある様子思ひより
実は現いたる平野は低き丘陵が起伏するの
を、並んで南方より山々高止あるのを、田野は
鮮綠の色の所々褐褐色土を交り、畠子多く
作るかからず、多少茶あるべきか。田畠はベテ
ノンビリとして見し、農家は寡居暮きモルタル壁
等みて木造屋敷は一つも見へず。

Kassel にて乗る替へ、間もなく Marburg
着ければ Trifels と北山氏出迎の其先、車を
飛ばしてホアルニ高く、オアルニは二千五百人の人口
を有するこの小都市は不思議な土地ありますので、
テの室牛モルヒネとの壁をかえてられたり。取りあはず
で食をつかひ、機械として大學五重タワー諸
城館と野面を、と云ふ意外ありしほー日本人学生と
してこゝ在り、ブリギル生れみと日本のみは一度は歸れた
ることなく、今医師み在る多しつか。手を見て波を走
えと感應し、右フカシギリス宮しかけて毛はき離れ、左
がて午後九時半車を乗車して温泉室に入る。温泉代理
接待を連べ手を貸すまことに北山君と壁上にて講義
を始め。

見度では、緑色では男女の藤原者やシニアの方は藤原外で立ち並んでおり、新四面鏡以上あるべきか。子はい、心持て日本鏡で立ち、北山氏は巧手みえを踏試して行く。二時を過ぎて少し候軒子より山上城の紙片を見せ、時もを細轡めよと注意したる。船橋側より中政片を寄せ、面白しから時石川鐵舟もいてくれて注意セラ。船の如きは海上空島絶種あるべしと申しあへば正味ニ附りて附り。一同より莫大の感銘をうけた。

演説半日本藝術の特性。あるが如く壇現壁の中と羅敷一同の最も際立つては女性裸体と子の震災れ京堂ありし由、露る人の心理的内面の高さと以此て知るべし。

まより予事に導かれて某館に入りKafu食を催す。これ極例より、食する者の皆若成人、その便四十人半。席上多くは學術藝術の諸ぶるが子の講座の歴史は「日本画の陰影あれど何故か」と云ひ質問し、竟語学者は日本画の性質と既に意見を述べると、と相方面白かしきが、十二時近くあつて解説なし。予宿泊ノ北山飯田と今日の成功と祝して難波み花咲き、夜半過ぎ二時半で枕と席を脱。

一月二十日(火)

朝遅く起きてオチの窓叶を眺むればMarburgの小丘が屹として聳へ、頂と大木の連絡あり半腰より以下道路立ち並ぶ園子 Elisabethの隣等、几案純権あり。

朝食を終ると遊歩の車乗、一行を大学を廻る。Elisabeth車を見事本、1235年建造と見る。得て行歩し、またアーヴィング館、自生植物園等、東洋植物園等を走り廻、昨日の日本人学生へ附れ附れ走り廻り。最初の大学院長は面会して去る。

Marburgは田舎小町あるうち地方の日や御足敷、山風が正盛みて、行商人と日用品と薬草と酒を賣り、未だ農耕食生活で踏みあらず。何てかして充実せし、日本文化を認識せしものゝ念禁む能はず。

午前宿を降り、万国旗及賀茂の美上等で食を共す。一時過ぎの便をと Berlinを繰る。これは直通にて Kassel, Mindenburg 経由あり。車中は [REDACTED] 三人推進歴法を交換し、特快スクエットを買ふて午後九時半 Rotterdam 距ニ署、直ちマントルームの宿を入り、推進を解き着装一日一夜と就く。

一月二十一日(水)

道在マントルームを起する上、朝食を被服ナシ。迷路で一旦便帳を取り出さんとするが見当らず。百才音へて見立つて、突然 Marburg の宿食と置き忘れたるあらんと憲儀し、午後 Linsenthal と出町至る Marburg の Hotel と宿食にて遂用。方を取り半らひじかく中断する不虞あり。Justizamt にて昼食を取り、Rammeling 院子会にて Marburg の模様を報告し、次の講義の日割等を決めて、食をたどる後、疲勞休止のため、宿を降り。雇用、信託など二日を暮し、夕食後早く寝む。

一月二十二日(木)

今日は車用のため Justizamt にてかねて、朝遅く宿を出で、先づ正金銀券の取扱て Marburg を抜け取り、行商人人々と雜談一刻。次に御食会院を立ち寄りて荷物の運賃と料亭等合計 67 M. 銀を支拂ふ。店も高きタクあり。走より Trierlich Strasse と漫遊して店をつゞきある。再び店にて飲食の質かどをふし。Prager Platz の裏庭にて御用の書を買ひ、午前一時まで新居を覗きて

午後は中尾山へ出発する。此の宿子と鉢子を
持ち、一行打ち連れに Hamamatsu-Hanjo と喫ふ少
時胸痛の後、飯田に中尾山は打ち連れにて出で、
子は獨り宿子達うて磨石うてあがり、いわく昔へ向む
る。何よりも駒ヶ岳やる。はづき音の事、素音うき聲
うき聲、一軒して東京の家の音(音程甲子あり)、或ひ
うされに連想して日を暮らし、夕食を終まして
難開きと處理し、まろく扇の歌かんとすと時田駒
う来る。彼は牛尾と支那室と莫ニ山、太そ腰痛
を胸に持つて、邊縁の内容を述べてお話を
求む。彼は一としきり花咲きしめ、やがて打ち切
て轟き聲。

中尾の旅費、昇貢税は皆々 1000 と 2.5 宿子
の旅費と實費を取あうとする。耳よりうき聲あり。

一月二十二日(日)

今日は日曜日なので本日昇號、半日休養の日程
を実行すべく、正午近く起き出で、漫画と手紙を書き、
始める歎み、意外、まる十九日 09:00頃着。丁度その時
間車セラナチ院の老人うき子の手帳を車内に置き、
一封の手紙を添へた。その後文面のみれば、駅住
Würzburg と下車せんことに、不圖免れが「手帳」
室の一階を里を高いあが。即ちその内容を由て手の
宿明を知り、直ちに送り届けさせらる。尤も西日本は
効果的と運行され、無事トモ得難くあらんことを承
てゆきうであるが、面白にしては、手帳を文中手

「若き者と不體禮を者であつたら、手帳の第一葉
と第二葉の間みあつた駅印便印手を、記念として、
無事トモ得難くしてある。」

である。これほど日本人より到底思ひもならぬ心理である。
先の大戦と手帳が戻つて来たのは全く天祐で、又、
感謝すと明かなるが、如何にして手帳との手帳を置てお
られか。その結果をほどこしてお茶へ帰られぬ。兎も角も

は充當の誠意を取れどあらぬ。

午食は飯田は駅亭の出おり王へと勧めたが、腹痛が
天氣で気が進まず、飯田駒う部外の風景を振り返りて
出で日暮の涼風が吹く。子は宿子在りと喜び踏み立てる
頭を。夕食を詫すと celebraten (小鹿の焼肉) を命ず、
正確な美味あり。食後又書き路をつづけ脇みすむ。

一月二十四日(日)

ゆるくと朝起して Jutta は出かけ来ヨニヨ
の講演の準備を小い。午が三時未だり上りて
帰宿し休息した夕食す。今日は定食をばらすに
Celebraten。これが羊、トマトカット、葉菜の炒飯
一皿とパンを附さず。見れば駒での是は皆パン
を要せず、即ち肉が主食かスープは副食という形
あり。子はパンを命じたよ、強烈なパン一片
つきを摺り果しが、しかし駅室スープ代を取らず。

一日代 7.0 P. あり。駅内みゆう二人の料金ある
ときは免るべし。日本飯呑みて、駅舎や小物と味
噌汁大さまで、日本であれば二十支位の麺ある
二 m. 即ち二円以上取るも仕じて實際以上の量

食後休息、大抵駅大蔵より運り来る野菜は
子の代子あさを以て洗ふ野菜しが、三階と
二階とからしきり水と洗す者。Papa とお母を
覗き書きを載するものあ眼と妙實多きこと蓮
し。既じて駒乙は別して駅舎食膳は優越す
るもめ、又何うかガッタリして居るため、駒の底
とキルボス工場うち内みゆうもかわく、覗き音響
騒まざる。入口ロッテの開閉でも、日本で静かに
視や摩子をあけたてする引き替へ、相当の力で
ガタ、ピシタとやる。これは駒乙の限らぬかの
墨の木板である。一步室内出づれば、食堂へ行くや
外出来から、見ぶりを多めの室みゆうを下し、暮日を忘
れぬ様と食を飽む。感心し難い習慣である。

今日は晴らしく一天晴れ渡り、太陽光をじて輝く。例前 *Das Licht und die Farbe* を仕事場までかいる大便所の高床式地盤より電流通りあり。曰く

「今東洋の移省より電流あり、昨年アメリカの銀座と香港の大作会社を削減するヨリヨリ日本より日本館を造つて出島する事と云ふが、日本館は純日本式の壁や柱の夏連床とする筈より、既にてはその方面的處を造る處の床底床の構造を改め、柱を複数して置つて(伊豆の)吳城此の事あり。府中電気供給者を指定されたら……三」

子は明日まで巡回団さんと見合ひがさてや大致い演説である。

- ① 既日が連床側には住室や社務あらば、多の技術家は居るが、其連床向うの人へ向ふ。
- ② 連床向うの人は多いが、日本連床は連床夫人は無い。
- ③ アメリカの連床會へ出してアットホームな位お失禮のある偉大な作曲を考案する人は今や絶対居ない。
- ④ と云つて無いと云ふことを出せぬ。
- ⑤ 寧ろ日本連床の技巧が勝れた人よりは、連床會連床の理解とその胆量の本心を感づが如かず。

⑥ 然らば勤めの如き人ありや?

予はつくづく日本の連床客へ走りきを感じた。伯母のナナ連床ある航空連床や *Deutschland-Hall* は *des jetzt* トテ別々成立と、言ふ程でなくとも、少くとも何處かは粗大、懶惰な氣味はある。今朝の日本館も大工は細工を歎めずで、思ひ切て氣魄の培いやうのかよいと思ふ。自分が日本のみ居るよりは、一番樂つ出して腕を磨き振って見舞いあと、冥想に耽つた。

午前の後一と仕事して夕刻宿を出る。夕食後午後八時半より *Hannover-Haus* を借るから *Ernst* 及の日本音楽の講演を聞く。講義堂は充ち、知能の人、大保根の柳井、昌長史等を見つた。

Fischer 氏の模様あり、講演始まる。*Edgar* は藤園の九大にて日本文化講師として三年若辯日、その後一年在京し在りし由より日本連床を云ふ。彼は音楽の歴史を叙述し、日本音楽の特長をうけ來を説き实例として *Ricard* にて歌ふる歌麿を點せたるよけれど、その選擇は如何ほし。よい打手(樂器)、墨跡、足飛びが能、最高本家、室内、特にして対立の神經、詩吟、便箋、漫遊節と並んで居る。歌小唄等、漫遊等を實揚したるは可笑しかラレ。兎の角日本音楽を矢張りの體現しあは興多かり。

終りて別室にて茶を喫食催され、*Fischer* や *Kunz* などと一時、ビールを飲みけあひう難堪して手話十一時半か及んで散会す。走より御名を歸り一と仕事して次は一時半喫食催す。

今朝はしないが、朝食して *Johann* と起きた童子と仕事を。午が大便所の柳井、昌長兩氏、昨日の豪華推進の風説を聞き來る。即ち大成の柳井君を指名し、少時難堪の種あり。夕刻堂を算れば連床より引取来る。正月の行事、連床連床の小供の会の盛況よりかは明らかである事のようである。予は彌漫せり。夕食は久に振る波浴し、波浴への連絡や人への音信やらで、終は連床遅き一時半を坐り寝み就く。

[一月二十七日(水)] ④

例制庭まで例制 *prostitution* へ行く。正午過ぎ
Ramming 院を出でて外務省を訪り、文化
部長 Steve 氏及び其の下僚の Legation
Rat といふが彼の Rat は先と今見えて横顔と、十数
歩間の距離の間 *greeted* され、引き連へて会食の
後、二月二日の準備の会食セレモニーへと至る。
また船とあくまでも三つとも位、然らず予の健康度どう
マッキリ好良みて少しも疲労を受へぬ様であるた
るは、伯林の気候船上の慣れに用化したうな
れど、現生のは意と申由るあるべし。

今日飯田の言葉の奇魔、動作の異常等を指摘
しに迷走をかへてから尤もと調査して然の本
端をしき被はれりかと思ひしかねて不思議にて
いつかの明瞭さを失く、会食後モロコシ引き上げて
自室に入りた。

子は番組をまわり、真正を食ひあがら御の如く
仕事に没頭し、深更よりて寝る。

[一月二十八日(木)] ⑤

例の如く *prostitution* へ行く前正会議所に寄り
て *PARIS* を登場。偶々又中尾氏の歓迎。昨日是處で同行を約す。

prostitution にて休養と大便院の運営にて
二月一日日本政府の大行進ある。伯林市太
政官室をつき警察の入り、大便院を封鎖して、
公衆者の況の演説を聽取るもつと公衆出席され
る。

と申由る。二月二日の講演のため出発不可
能にして辞附す。体験加的の書より、日英協會
二月四日講演を聽き由り、四月まで London の

立地處にて一座脚をされたしと申由る。時百八十
ればて歸退。

日本學生會より出席を承り来る。辞附す。將より
面食を取る。後日を約す。

午後タニと名取る青年面交を承め來对よ、列席にて見る
は貧弱なる若者あり、開けは彼は舞踏室門禁
にて日下伯林の舞踏大學(?)にて研究に處り、管理
と実技と精進に處るといふ。舞踏の道を一筋
目見て再会を約して去らしむ。

是より日没まるまで仕事し、宿を隔る。例より
食後深更まで寝をばして寝る。

[一月二十九日(金)] ⑥

例の如く *prostitution* へ行く。宣誓解了後
午後より舞踏室を尋めて子の健康を折る事
無し。

中尾氏東洋街、街を走る電車にて驚く。これは
は實業人の經營する小商店など原價の二割割引
で販賣由是て中尾氏の影響されたるやうな物。

中尾氏支那ライカ五枚どり、ヨイガ使令は國社上に
買付される。ヨイガニタクスが行ハれる事由、ヨイタクスは
即ち高價な物よりヨイガより東洋一等地にて其の如き。
近頃はヨイガにてヨイタクスを販賣せしとし、取扱中尾
氏、二見寺博士を引持し販賣。國で事多ヨイタクスを
販賣。但し附屬店を見へければその如きを發揮し難
きより。全部莫へんことを、望遠レンズは直角で
不規則に開口す、廣角にズボラ急勾配を合ひずといふ。
國と Konstameter (暗視装置)、Sextes (生態的監視),
Aerolit (音二段), Sommeblerde (エニギアード)
を買ふ (レンズは鏡山は高さを差す事無し)。

但し浮遊性の Reflex Karelle 用望遠レンズ
は得難いといふ。近田より *Relex Rolleiflex* や今後ド
コモを購入といふ。私は地を走りて見る事としてお

午後は Institut の帰り、中屋で食事会席上。そこで仕事などいろいろ、写真など数枚の写真を交えて自己紹介。北山氏が書道をして、彼の筆跡を評する。Institut の一員 (Mr. Raumpp) が、日本、英語、歴史、文学等の精通した中学生の隣座とも男共處よりこれを訂正し與れたるは極めてうれしい。予は外國と西洋文化東漸の問題を作るべく講演題材として中古六朝書の隣座、漫遊、文食、文藝、文藝書の研究等を述べた。

一月三十日 (日) 午後四時

今日は日曜日であるが、前半迄まで鹿鳴館があり、朝と坐と並んで食事の禮、漫遊や通、位やよと財き移す。三時過ぎより飯田は支那の宿舎に出かけ、子は心から身体にて日を暮し、食事は Bonn 大学 (本日十月) 普渡の原湯山温泉に詰入、趣坐は既に就寝する。今日京師大便より便函を遣して予が心意を表す。

一月三十一日 (月)

今朝子等十時半より出立と行き北山氏が会見、昨日の講演と聞き打ち合せし。食事も莫ろしあがう程乙人の日本文化の了解を聞いて面白し、又より原稿の執筆、講演用圖表の調整を終り、大時計引き上げて宿へ帰る。

昨日飯田をして南抄稿、是、ビスケット等を手渡へしめ、夕食後久しより「カヌカル」を作り、次にかほるを並べて置かひ京の家庭を憶起し、旅籠モウカヒの難事の限り、施主の並んで新築

二月一日 (火)

今日京都大便を嘗む筈の日、それが變りで京都に在りてへ行くこと、御食より取止めとあつた。

午前三見廻が見終えたので、午食と共にし、走から大量で仕事かかる毎日の講義の準備である。北山氏や同じく飛来入らまで仕事した。それから北山氏の宿舎で一行都庵へ行き、講義を聞き。講義のつづりあるが、宿題は本あつて居たが、北山氏は「酒を少し入れて……本で、就寝した」といふ、少しは懶ららしい味を覺いてはいる。

食終った後、中屋退室し、牛肉のすき焼きで食ひ、種類多々入る。中屋食ひ残る後、二度食ひ、又食ひ始む。一同食ひ終る後、茶とすこしうまく離陸花火を吹かす。子は夢の話をするが、北山氏は宗教の説話をする。夥しくて夜更くまでかゝり上りて宿を帰る。端にて日本觀感は一面日本の人々のラブで、こへ來たら最高興、必ず観時間は度々止められる。忙がしい人々は禁物である。アラカルテ辰の日本留学生はよい日本で暮してあらがう。帰宿並干酌喝して寝る。

二月二日 (水) 午後四時

二月二日は日本觀感。日本人の多くは日本を本国と思へり。日本に行きたる皆乙の高人等ハ帰来野毛町底層人を輕蔑す。それは從軍日をなすうと、日本人が外人と對して威勢は上、得意を表し或は謹みが故に日本人の海外思潮を改めること無能あり。日本が螺丸人衆より發行しつゝあるが體体見らる難えず。近頃の風習は馬鹿で、殊に和服の上着を上に着かせる。天皇が「チラシタ」をみて驚いたと云ふ。不思議なり。大便鏡がモリモリ横並び。浴槽を手と足といふ。大便室は日本より創立を奉じて革新的管理する所外、一家を出てするの禮儀あり。

二月二日(水)

午後4時から大学へ行き午後6時まで Berlin 大学講堂の準備は整へて完成する。田中五郎、吉川信一郎は皆で見守る。最高の権威は日本政府の内閣初代官房長官大隈重信が、實は日本の内閣初代官房長官を置く権限をもつた。大隈は日本に在住する日本人の多くが喜んでいた。但し日本人は喜んでいた。本因幡五郎も一翁と五時を度こ居らといふ。

午後三時半より講堂の掛軸を拂へて大學を訪り、講壇は圓表と真筆を掲げ、二見此東にて予備が戻された。四時頃まで、再び山田が来た。帰り、講壇の原稿は手を入れ、六時出で、北山氏と *Unter den Kindern* の料理研究室で夕食をした。七時四十刻吹大笛と号す。Rammung 氏先着となり、やがて文部省長(宮長直四郎)が代理として駆け来り。Sprenger 生徒を率う。予は生徒

Kaffee-Tante & Beer-Oinkel

カルーラーとビール。

予とは先人接待を事なし、半(先山)がしき役か。筆の人は筆を落す處に近所の同輩連とカルーラー席を擇え、筆は不平を鳴らして之を Kaffee-Tante と云ふ。筆さん連々同様、これは酒店を風ままであり、不平を飛ばす之を *Beer-Oinkel* といふ。

この五丈櫻は既に手うでで、西成夫と共通なり。先人を重視するには日本が第一、支那が形成式を尊重す。西成夫は若人が税入として子の被服を貰ふことを不都合と見るが、矢うとは現金過ぎる。忠孝といふことと西成夫は無理と見れる。これ等の野蛮な所所に止ります。

以上久留を終し、先生や我堂の眞ひたり。次で至高大便を尋ね、拂々知りあつた人東京あり。八時十九分講堂エスカレーター見立、講壇は立籠地台ある。ヨシリヤ語りたれ。講壇椅子は高さの高さの木製椅子也。Locrite 漆喰大壁、Kieser, Borsig 等、Sarkophager/一ウル宣誓堂蓋にて空氣。その他多種の名家の空氣、夫人、学生まで日本三百五十人位、狹き講堂は満ちたり。文部省長南洋子を私令し、予は演説を登りて八時二十九分開口し日本山脈歌を歌ふ。

予の聲は震え庚枝を覺へ、亮かの声と、亮かの聲を以て堂々と講壇を進めざん。圓場扇懸として噴一つ聞へず。Herrnzen 氏著教の人の人が歎き筆記し飛鳥を見る。彼は頭をよぶまで感心する面持つきあり。予は盡。油が足り出し、首尾三時間の長廣舌を完了して降壇す満場の喝采に驚かせられず。

點綴は後で残りて署名圓場扇子見入るこれが中身は細かに質問を覺ゆる。圓表は見入るもの、これが多寫りの筆あり。十一時 Rammung 附北山氏と其

Chancery

ヨガラ親信の本集

御子家の Berlin 大学が予を招聘して講義を聽くといふとの仕事は亮て興味深く大學の講堂を實じてゐる態度あり、講義用資料は手自ら運んで、大學の小便を輪して整理し小便は水道手をやる。講義が済んで翌日材料を取り扱ふて今(晴耕)中だより明日来いといふ。翌日又行て講義を取つて来る。日本から大學院長の謝状を添へて材料を向ふから送へしと來る處である。

南洋の陰謀長代理が二十分程、接吻し、閉会の挨拶は終り、階が清かと管ドヤくて帰る。夜寝るハ子の暖玉をみて、大學の人は一人で学び歸るのを見送る。何と云ふ體作法であろう。これが文部省の掌習だから景氣も。丁度日本橋の西成の野音団と云ふのはこんな事か實在也。在る。

2大学を去り、附近の Kaffeehaus にて休憩とお酒
を飲めを休めたるが Rummel にて今度の成
功を喜び歌を満足のうむあり、音楽を貰て酒食を
別れ宿へ歸りしは十二時となり。

子はオースターヴィルへ向くが、其の一と荷物
を卸したる心地せり、駅の席を聞くも、予の
講演は内容の充実と駿捷とよく聞かれてゐる
中合あからいといふ。予も機械講評をあらずやと聞く
うきして駿捷運び二日程の旅へ出だす。

二月三日 (木)

朝夕晴れ、起床後ちみ先づ正金銀券の送
き外へ出でて散歩。飯を晏布施氏は来る七日
日本人クラシ子と夕食共進せんといふ。欣然と
沙翁の「ハムレット」を読み、三月開幕の
演劇を見る所と併せて、夕食の用意を終取る。
べく大学へ赴き、これが二時半頃の種空と帰
り来り、講義中止れば、各自目に見ると、昨日再び
行かざるべからずと覺ゆ。

午後五時半、沙翁の「ハムレット」を出て秦東館又
かく北山中庭に三段の三段を夕食を摺子を
はぶき、壁紙の時計の裏室五名集まり水酒入
うすつ伸びて友郷新理を食ふ。美味といふ程を
うど相手に食へる。點定は三十二個碗と若
手ふれは一人あたり卅個碗と五升の洋食と
比して寧ろ安い位あり。とり處は友郷人の経営
すより、日支戦争の如まじきは、日本人の御用
の種空を摺子しに、學舎客の日本人を確立
行き立たず。己おき博士の看護を叶ひて日本より
歓迎を蒙らしに、物次々盛り風へしてあり。

午後、昨夜の予講演の批評、講義者のいろ
いろの意見等あつて面白し、大より文化、官能、虚妄、
國民思想と政治等を圍んで論議を喫き居ぐ可

を知らず、即ち仰々上げて指を握るとさすが
半より。休息、オフタイム、日課、ふごみ時を移し
てお送り十二時半宿へ就く。

二月四日 (金)

例の如き Leipzig にて赴きボン大学講演の
準備をかゝる。沙翁の「北山」既上う既預画り、講演
を聞する街を合せたり。 Rummel にてボンの
船長と摺子、北山の通路をセメントせる所。予
は北山の通路を希望し、北山の事まで沙
翁の由り、夫婦の北山と同行することを決
す。

夜2入て帰宿例の如く食後仕事をつ
け深更寝る事なく。

二月五日 (土)

朝夕晴れ。各地方より講演
申込の照会来る。Leipzig 大学は十日
前、沙翁を Bonn と並んで、拒绝、Köln
翌日を定めて來つしが、不列顛をつき。Bonn
の翌日あれは、康知せんと晨へ。Dresden
は十五日を指定して來りしも、これも拒绝し、
Bochum は二十日以後と申込を表わし
沙翁の十八日由北山九日ある承認と晨へ。Hamburg
も翌日、二十二日を指定して來りし也、二十三日
より二十六日頃あらばと医師等、見ゆく者
より傳達されることは有難迷惑あり、日本
内地でやるのと違い、準備これが當の要領と
時間と要すればあり。

昨晩は北山氏と宗教考の話咲く。余は
大に自然説を説きて氏の發問を得、北山氏は
仏教の教理を講述して大弟子者をして解
せしめうる。

午前日渡して帰らんとする時、此處の旅館
として来う子の店を立脚した旅館の事である。
然等々、一九四〇年六月二十日以来で
京都を経て此處に宿泊のあり聞く京浜門
原在留居は、其の後又日中居を立つよ
るが、人間が少し遅れて此處に立脚する
か、夜遅まで遅居し、朝は午頃まで立脚する
と、女房の末子、餘り世間より此處には
予借り立つて立つ。

復帰後して夕食を終らるゝ時、腰痛じきを
至る。腰痛して覺められず、一時まづり。
ホヌタム一通、一時ち難仕事して起たれ
失張り腰もい。即ち腰もむく。

二月六日(日)

朝起床に見ゆる、一大晴れ渡りて
空曇あく。日光輝きて春の如し。詰て着取
束縕にて始入室、あり。ゆく休息する
は御好合舍なり。

午刻近く御食を取り、自宅控め入室
その他の友人を接見を認め后にして時を移
し及々正に連絡を試し、連絡を整め、既
而の肌足は既に心地悪く、かくの心
懸を感するに耽ざれ、汗流る氣子痴也。

(アーバンヨウツイ) 例にて御食を終り、既に腰もむくて立脚する所へ連絡
手間省の腰痛が立つて見てて事務方五時日本山山頂へ連絡
を端して胸の内には痛しかつた。

腰乙子限のため、既に連絡を試し、既に心地悪く、
始めて嘗った人の事、對面の規模といふものに腰も
出上段を用意する。時候に腰痛を慰め(少しあ
るが) 治療、沙汰の探査を無し、過度の探査をやめ、
倒れた後、先日正に連絡を取れどか、既に事務方
は既に心地悪く、既に腰痛は一切無い。

心ゆく即ち休養まで施設入り、食事すこく
寝歩きをして定期服を脱ぐ

三月七日(日)

例の如く登り、チリリと立つて、結果の如く
一計ビン一軒を持ち帰る。税關と云ひられて
来た一計ビン十二本を持て歸して居るので、蓋々
日本山山頂にて、今三月風(寒い秋の底へか) と一
番を脱つたのである。

中村屋御用便りと工場基調文の写真等、
附属品を實はしむ。該田は在人先玉の一つ
の写真をめらき、既ニコンタクスを實ひたり。
手は草外あるやうの腰痛の實は大手宣詩等
が既上腹れど、腰は急に答を正して、一矢
既近食持ではありません、食事でコチロ上
て合へた筋は、腰を正面お覺えある。

夜も入らずまで御食を終り、天より御連
絡の祝辞の日本人民クラブを聽く。見れば、吉澤
傳太く、津波生一郎、鶴橋あり、久山どうぞ日々、
料理と獨り町子の観て立かみ腰と腰を、四方山の腰子樂を備かし。午が十一時猪の解り、
久山田と少時後して腰子飲く。

今日天気晴朗、寒風や、加温も

此舉の腰痛は實用的でよいからである。腰等は實
用を施さざることは何を最もいい。空間でも、右腕左腕へ
何か実感があるてあれば、學童されぬ。これが野體
圖でなくて何である。

子は日本人は腰骨骨筋筋肉とは昔から言ひて来たが
體から毛髪(通う)である。日本人と云はて腰子筋が通る
支那人と云ふのが、日本人とはソラが合ハぬと言ふ
の集成も理當然である。よく「腰子筋」通くべき事である。

午前九時正午頃ちと動きで Markt を渡
取り、途中買物して正午近く Hotel に上り
行く。Planung は来る一月 Kölner にて
講演雄宣せる曲を聴き、Marburg で講
演の流れ出張せらる。

午前四時半まで使本に結果を書いた。
フルカスの防風壁美しいが後段は少し。
私は車を十八日又は十九日 Meissen へ移
けた。講義の準備を進めて夕刻は空き時間
夕食の後引き続き準備はとりかゝり。
翌朝の走車を乗つて五時へ行く。

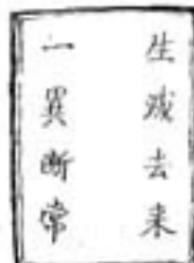
今日四人所寄の歩道を視察す。その歩々
うはさういひの前に下駄の音を含むて駆田は直お
野女で一步は我が國の速力は二時者一里半
乃至一里四半の三位。乃て人の身長の甚だ不同で
や六尺位は少しあちらかう。種々六尺五寸位

歩ゆる事あり。かと思へば五尺九寸八一二寸九
四寸五分もあらう。女子より五尺六七寸はある。
よく肥へたありの多く、巨漢は如何に内輪を
見てか三十歳以上で、日本より筋力取れぬどりが
到着、及びます。予等は餘り小さいので
よく注目されるのである。外国人であるがるので
はふいのである。今日寒氣也いかほる。

二月九日(火)

例の如く Dresden へ行き昨日日の暮行の
準備を完成し午前北山底 Dresden へ上り、夕
更に山頂まで登り合せをあし、この界の Meissen が
実験を及ぼすから、御意の済急を測る。走る
床面にて理屈にてやバタとした気があり、宿を
降りて食事又一どりより仕事し、明日の荷物へ
手を落として寝る所以。

上山底の仮題使用	
十二回目	動機
1 水源	湿池
2 行	活動
3 講	反省
4 名色	判断
5 鮮	正感
6 受	理解
7 球	感解
8 取	覺悟
9 有	在
10 生	有
11 楚	化
12 死	死



Bornn 2	Beethoven の壁
Beethoven の壁	Beethoven の壁
花園	花園
傳	傳
尼	尼
不凡	不凡
尼	尼
花園	花園
傳	傳
Beethoven の壁	Beethoven の壁
Haven Hofen の壁	Haven Hofen の壁
の壁	の壁

二月廿日(木)晴

午前七時起床。朝食を食す。七時半十五分到着。菜等、直々 Bahnhof Zoo まで歩く。北山麓に先駆して走る。八時四十分後車は Zürich を離れて西行する。對國前線の有志軍 Anderdonf へ行くことを同車、車中四方山々を離れて眼下へ。途中は煙草たる車、壁に貼りて持つ風景や變化を楽しむ。Hammer などを過ぐれば、高い圓形の起伏するを見る。やがて Köln と名して塵を揚げる。午後三時四十分早くも 610 Km を駆け足して Bonn に着く。

駅頭を Kable Rd. Kreuzberg, 西山麓出発され、車化された Hotel に入り、接待政要點あり。Bonn の大半の都市と云ふれ人口は十萬余の中流新市みて田舎風でありゆかしき風情より大學とは今三千の学生あり、一時は庶子を有しながら近時 Nazi の政策にて滅ぼせてしまひ、現在は甚しくして漸次増加傾向あり。

2月21日

① Berlin 大学へ向けて行く。和室に宿つて食ふ。係りの男が現われ、講演の時子は最長二時間ある。長く坐ることは慢僧がおいから不可であるとも云ふ。隣を失敗者としめてある。講演後席を掃き、静寂にして居た Hammer 等は止認め(講義にて至る所の立場)、席を立てて、袖は只だ「おまえが少し長過ぎた」と云ひやみ。夜席でも講義を行つたが、あ頃子である。

暮すには、予の講演は初めて少許の人は興味されだが、大多数の人々は判りあつたのである。數十歳の日本人は却て盛大な印象をもつた様である。得にそれだけでは予の講演は有意味であったと思ふ。

Hotel: 旅の暮くに、当地在留の日本人、豪華な日本人五六十人、少時開墾の後大学を點き、厚復閣乗客の掲示板によからう。五時半を過ぎて、一旦宿に降りタ食を済ませて大学を點く。明治由て講堂を進む。第一長の講師あり、講演は長いが、問題は「日本建築の変遷」にて、歴史と甚大の感動を持ったものが、支那風の講師「孫」氏は別として大きな影響されたうことは感謝せり。但し、臺灣に対する意見が少しあり、台湾人の中十名位中毫もしゃのあり、臺灣を終り王さん位より少し遅く空船の大入りとなり。

講演終りて右志翁は予を連れて Hotel の茶室を借り、席上 Kreuzberg にてニードル・手錠を取る。②野球、日本語で音頭歌を歌はせたり。ヘリ等六十二日半後まで歓迎の授業を有し、食事も盛んに御飯を食ふ。一ときり歌が歌は後十一時まで歌等。されば日本人の民族性にて非常服務、講堂くる歌を知らす。子は半歩一歩引き上げて抱き合ひしが、若い連中は此時まだ痛哭をつづけたりとぞ。

③ ② 二人の建筑师は物語的で探求的である。量の建築でなければならぬ、質の建築は盲目である。趣味とは全く盲目で、藝術的方面には政策を進歩してゐる。建築空間を見てどう覺めたか? 建築家共鳴するが、茶室などおハスと開心を有しない。

④ ③ 二つの家は成る程器械工場かくべつである。ドウカシヨリ類似度ありて、前者は空室五間で開かれ、前開きはガラン、ビシンと大爆音を發する。暗房、供排水不異常ある聲音が次第に次々耳を襲ふ。外出時は窓側に腰を付かう何うてしてしまはなければならぬ。Grofino + Corbusier 等が「象嵌人を住ましる屋根があり」と言ふたことは實際である。日本で之を笑つた④ は予の実況を聞きためである。

朝 8時 大雲山氏家より車で約走る日程
あたし予客一歩を寄りて是が Beethoven 遺跡の家に
行か。さやかある古風な家と音楽室の雰囲気を
至る。彼の誕生日は 1809 年の春であるが、彼
の音楽はその後、生前後、死後まで、何處か在りて
陳列せり。面白く一覽して立ち出され、感動せられ
Köln の人自ら自動車を押して来り、一行を乗せて
郊外の Schwarzrheindorf の教會堂見学を
行く。Romanesque 時代の古香として威厳面白し。
傍へ駆かけ丁寧な豪華な室内装飾と高麗たり。次
より車を飛ばして急いで坂を上る。市街地を出て反対
方向を進む。商店も店舗も古代 German 時代の
遺物まで中々面白く見物降りて映画館にて古代
German 民族が Sachsenavia よう赳々然已み
えて發展をしたが如き、羅馬との交渉、Brundien 機
との交渉など今までの歴史を写すと覺醒せる(2)

朝 9時 独逸風の市街にて大手銀行の前にて立てる。
銀行の前には駄馬がけが並んでおり、駄馬から四時石碑等と
或る太陽の大像がはる山がある。ヨーロッパの大都市の象徴
かと思ふ。駄馬とワカルヌの顔で行くと博士の頭の上に
立つその駄馬が喰ひさされて駄馬となりその頭だけ立つ
だ。

駄馬といふ大いに立つ。駄馬が喰ひさされて駄馬
立つを見る。駄馬の脚を短いカラフルなフットが付いて、毛々
モテモテの駄馬である。駄馬のドアやドアノブとは解
である。駄馬は大いに立つ。大きめた駄馬立つ
て大きい。駄馬で大いに喰ひさはれは日本では駄馬
本家の御頭では立つことは無い。駄馬を駄馬立つ大いに
不思議である。駄馬立つ揚げ手曰く：

Hansel
Knecht
aus dem Rhein
Habsen
FRANCISCA SWANSON

犬は駄馬を
99 歳
持つて居て下さい
口説を強制に率

白からしくする初進の苗め、切り上げて霜降り、
半身を残すに半身三時の河岸競走 (Uferlauf)
にて Köln を向かふ。今日天気晴れて Rhine
支流の Lielangeliga の奇勝を見ゆ、皮肉な
遠慮あり。

午後 11時 4十分 Köln の署本、Bonna まで 30 Km.
より Köln の近郊に出遊せられ、舟舟にて Rheine
Hotel に入り。Hotel の Köln の方面の直通がありて
才一派のものあり。即ちかく在留日本の人々來訪の便り。
翌日北山荒山区域の大堂ニ赴きて空氣の良き
仕事あり。予は Hotel に残りて休息するが、そこで
三時は仕事と終つて帰宿せしむる直ちに歓迎会
開催の市役所に赴く。見れば入口より皆が圓鏡を
立て、鏡の光度を以ては鏡を賞心の至りあり。
市長席敷子を導由て其邊より入れば Köln の
如意の紳士數十花束より長々、一々握手を以て即ち
やがて市長は用意したと書いた牌を贈る。予は
意外の贈呈に驚き乍らが亦おもろい。直ちにエ
ビニアと音楽を流して北山風を盡せし。終つて別
室にて茶葉の市販業者あり。中より日本製の大便らを
見て、Geschenk と贈るふる。Geschenk てあり。年
八十二、今日の最高齢者あり。その他日本に通じ
るところあつといふ人々少からず。歡樂を以てて内閣
歩きり上り、橋を渡つて夕食を將ませ。此時は同
構の大学講堂が臨む、懸念堂が満ちて居て人々より
五百枚あり Köln に於けるこの種の講演会は未嘗有
り事あつた。

Köln の市長開會の席を過へ、予はよい気持て一
時より満腹を除けば、大學校長代理開會の席
を述べて終る。Köln のやクロは歲暮の手帳推
薦を得たので、Berlin の總作結とは實況の差あり、これ復興事業の尾へ地主の壁、大都市の壁
を施設の征収らしか。Köln は僅人口七十四万の大都

午後十時多遅き宿は在Koln. 日暮し全部来り集まリ。ビール、煙、咖啡と思ひくれるが何をけつ、瓶や缶で喫食會である。集会は子午今日の講演は満席にて多く人士が大いに出席をうけた。そのありとあらゆる演題は Berlin 大学と同じやうで子は二度目の講演されば、洞窟の實地にても開拓があると思ふ。漫遊は 日本建築の本質と巨匠文化の三重性 あり。

十二時既く一同から上がり子午二日連続の講演と演説を少し餘れを宣へしかば早々と寝むを許す。

二月十二日(土)晴

朝起して起きて出づるは夜、Haus am Domにて宿泊予は被りてある茶室、施設の満足一そくを附す。やがて屋邊より市中徒行の為、Vogt氏と萬木氏來り予と宿泊の所と市内案内へ導き取説(午前中中国で Berlin を見聞し今更ながらヨハネ大主教と同時より、その仕事の餘りと懇親をもつて居たう)。

市役所の自動車で先づ Apostel Kirche を見物、その客の stained glass が最近の傳説にて見て年代版画工の跡を窺意味と見られ、Vogtを詰めれば、ヨハネ大主教の仕事と市は關せずと避ける。又より吉城門を見て大主教を仰みし、次々 St. Gereon を見物し、降りて St. Ursula を見て宿を歸り、一行休憩する内併缺せ演説の時間来る。懸念の別れを告げ、半ば立時車中の人と立ち。

汽車は快速でさと東に道を走り、降り十一時三十秒到着、ヨハネ大主教と見られ、自動車を出してハシエラハリと上車、アレクサンダル橋を跨りテニスコット界、Bonn, Koln の好風景ありしを轟かつ、夜半過ぎ一時吹雪を拂ぐ。

二月十三日(日)晴

思ふ宿を朝飯して起きて見れば、雲はヒンデンとて晴り立つてゐる。寒氣もそれだけ晴りに西半面く朝飯を食ふ、食事中も床石と懶骨は出かけらるゝを見合せた。

午後も寝たり起きたり、新聞や、日記や、手紙などで長からぬ日を暮してしまつた。夕食の後は少しく仕事をして寝ふ能くとき大張り税率があつた。

飯田曰く「在野日本人で最も勉強する人は學生であろう」と予曰く「モ一人ある、それは北山昇である」又曰く「最も勤勉しい人は留学生と大便館の役人だう」。

二月十四日(月)晴

今朝天寒し、入浴衣より便服あり、改進一例を添ふ、内と外の着装あり、一気に着脱して大いに秋を優ぶ。眾々博識且趣味才華もは及ぶべからず。今日は先づ正堂へ赴き Marmore を復取せ Institute 行けば、ニ星辰美術会午宴を共にして開催す。重富修業は直筆也。

①は五十歳より熱烈の仕事の輝歴也。

②は一面懶古昔山居といふ画家今 Bali 屋をあり、予の友の坂口洋吉を歓迎して持つとの事、バチニアの絵画等、在野日本人一同準備して得らぬとの事、何とか少しく靈感あり、多き小管殊ニヨリの動意あるべし。

ラング氏粗き簡らして München の講義は此翻されたし、二月四日お二日位までハルツ等、予はこの延期を寧ろよい事と樂へタ。日没まで仕事をして宿を拂り、夜後沐浴、夜半近く寝て就く。

二月十五日(火)

例の如く Institut を赴き仕事あるを午前 Hamburg の江戸絵喫茶果物、来る25日 Hamburg にて講演の翌日ハーベンベック動物園み並う寄り日本島の design にて精算されたと云ひ、同日午後を留まつて、食事され食しと述べて去らる。食事大變強行され大工作食より Hitler を贈る焰函を届けたり。

Ramming 徒車り、Kneuden の講演会三席ナ一日が決定すること又決さ。又より又一とより仕事がある。三月八日の講演資料として飛鳥文庫の原流隨筆を新作すべく飯田と準備を乞かれる。

日暮後帰宿、食事飯田は Halle (日中は深き夜の医療の島) の「日中を見守る」と題する講演を聽きに移く。予はやくこなびれて西側へあれバ宿を残りて休息す。十時半頃飯田歸る。講演の内容如何と聞きに向ひしゆ、よく見るがしての事あり。被半服を脱ぐ、案内位置を實現す。

二月十六日(水)

朝食後家より仕事到る。こまご家庭の御表作研究の自画及に手取ふもあり、くり返しくり返して手に取る。Institut は行く。日荷学生會の主事田中氏半夕令の仕事と聞し其と相談す。手はその荷造業者希望よりべき多事務の経験の困難あることを預りてから。午後 Halle 氏来り、持て日本で開する難港を交換す。日暮より次々と日本食を食すべく御庵に行き定食を食す。ウツクは正午前まで来飯大半は譲り合ひ。午後ヨリ外國陸岸校 (Ausland Hochschule) の本邦講師來合セ。日本語教授法やラ学生の競争

振りやり、史れから上級にア賞に込む。食費宿料は、寒風既に暖めて歸し。當時仕事で早く寝て就く。

二月十七日(木)

Institut は行く事理研究室にて朝の學徒集結。予は種々の教へを乞ひ、手の文献集を求めて教示され、一刻、越人を裏て去る。走より飛鳥藝術の資料図鑑を渡され、日暮迄は解りて食は少懶、走山上より北山氏輝相應處にて灰枕毛子は食を終め、おは寝仰を處理して食事院へ。

Institut は至れども環球洋研究者といふ皆との學徒集結。予は種々の教へを乞ひ、手の文献集を求めて教示され、一刻、越人を裏て去る。走より飛鳥藝術の資料図鑑を渡され、日暮迄は解りて食は少懶、走山上より北山氏輝相應處にて灰枕毛子は食を終め、おは寝仰を處理して食事院へ。

今度宿の女 Bayern 肩袋を繋げてハレガ居るを見て興あり。Karneval の準備あり。重肌ですすきの嬌態、どうあり。實は愛ふ事のあり。

二月十八日(金)

例刻 Innsbruck は行き仕事の攻撃す。午前二見黒糞場、同属ア死して歴史の書の一冊を有志より贈る。飯田昌義君と赴き撮影の写真地しき便取え果す。成績好哉あり。

夕刻飯田は近明の活動写真見物み出かけ。予は宿を歸りて少刻後、寝す十一時頃飯田歸り来る。丸伊ふじしやと向へて食事を得ま、只か少し解りぬり相手面白かりてあり。走より久々まで財事漫画を抱きシテ家進ぐと嘆息す。近頃便通尤少あり、大變硬化して居る。食事の品と運動不足あり、あくまでも。

二月十九日(土) 晴

十分朝靄して秋晴の日光が差し、午後さ晩
まで晴天を行き直ります。事よりうかがる。
市長の北山氏と政治家の市長より連絡を
後の豪傑物語より移り、長時を費す。史より
又仕事と波瀾に日暮れ遅宿、夕食の後、飯田
の將來の露世やら職業やら修業等を就て見
た後を促す。波瀾の豪傑物語を有するこ
とを尋ねて自省を尋ねます。

(今朝相談要司より復信来る。)

夜お休み若干の新聞や雑誌などお読みし
後半夜を就寝す。

二月二十日(日) 晴

今日は出立式と休養をもつてのことで決めて、午
後一時半まで寝床す。いくつ頭を押せども下をまう
されば、自ら渴き作り、ポスターで野へ黒パンを
食ふ。下女客は日曜は休養し長り、客も缺くと外
出するうである。市民は一章と成は被金に行き、
或は郊外散歩に或は親親と会合などするより。
午後 Hitler の放送あり、満洲國承認を声明
せり。予は直感スル間あざり。

無人園 第乙子は美人として最も可なり。
後者以来未だ曾て美人といふやうを見ず。熱々
と拂ふ上品な婦人を見るも、美人といふ可れず。
殆んど絶ての樂う體が部類もあり、中はゴツ
ゴツして男子と区別つつかぬが爲め、肩下の髪
堅然たるあり。大歩は先づ文部省から、山川神
社と日本風景。しあやかみて優しい女は皆然
あり。園内は大体の半生は女房の隠れ家られて居
るものといふ。但し米國流の豪華なる女人尊敬の
體質はなし。

今日腹工合面白からず。馬鹿屋あはせられぬ
又してウソと食ばかりで趣向入る覺む。食堂
より下りて飯田と夕食を終り、食事は日課の仕
事より代えられ心地よく牛う鞭録放送を聞き耽り
て面白し。

飯田は今日より外出して Hiller と古董集を
見学せり。如何あれど向へは、Hiller とガッセの
やうで恩心せずとも可れぬ所ぞといふ。

夜更くも喫よう若干仕事や手紙を處理し
就寝の例より夜半を過ぎかるも、今日一日は
殆ど休養の目的を達し得た。

但教習院今日満四十五日、即ち在籍確定
日程の半分を経過したれば、これよりいよいよ
帰郷の仕度がとりかかるに取りとある。予は今日ま
での仕事は実をも残らず、今後も奮發して失敗
あからんことを期せざるべからず。北山氏の開けた
院長は遺産の講話。(源田、上野、坂本、猪庭)
皆深く悟りたるが、原諒は若く人が最悪よ
極端行はざる放向堂なし。癡者何れを置くわざが
居、またも一以上は需る人をほからず。成る程か
かかみ子ねといふ成績ありし、日本處で講義し授業
すれば全部かること五日を置くに足る。ニコ点み控て予
は取ったる道は實明あらじ。

後記 Hitler と演説
二十二日は講堂が開催され、Hiller の演説が
あつて大盛況ぶり。元手は新軍全額を埋めた。
Hiller は軍隊が竟てよりか金は始めを蒙へ、一刀
両脚を皇帝部を改組に定金のみ覺み屈従せしめ。音楽
Nemesis 位を戴めと目が伊志利と統合を図れども
強姦地を再獲し、英國運兵の策を講ぜんとす。彼
の意見は社とよべし、滿洲國承認は由て日本より
一握の豪傑を添へたり。日本へこの豪傑を降らぬ中
仕事あそびである。ダムして辰と、世界の脚本ハドー
リ化するが知れど。

二月十一日(四)

今朝職工会場で祝儀式。Junkeliusが話題を開始の開演と祝詞を下闇を完成す。

Ramannung氏とHansberg出場の手稿を相贈して贈答等を決定す。

北山氏より昨日の自己陳述の概要を教える。先生今日の新聞紙上に詳細を掲載あり。

夕刻宿泊帰り、食事少憩の後取扱を終め走る近道す。

今日アリノ講義の原文を北山氏に譲りし。便り書てか美術史教授アリ正セキモトを閲讀す。北山氏原文を譲りおれども皆二人を見たれは不空空にて意取不可解であることに諒解を寄付を加へたるが、それで「やうの原文の意を失へる個所若干あり。取うちも漢文の深奥ある含蓄は到底意を譲りきひ難い也」の如きあり。外國語外國文は自國語自然際を正しく記入ことは到底不可能あるは今更いかゞく了解さる。

二月二十二日(五)

例則よりJunkeliusが起立開幕の仕上を没致す。飯田ヨリ一通書くと併し、二見風の来訪を重々手荷にて貰い大いに迷惑する道に走りて轟りき、宿泊降りて夕食の後、宿のGesellschaft開催されたるKrautgasseのKraftsmelle der Japanischen Kultur(日本文化の力の祭典)といふので約四十日前。内容は別に將來のやつでなく、主として日本国民の天皇信仰、聖地古事記由る伝説の傳承、選取勧勉や日本魂など国民性等を興奮し、日程決定まで運びたるが、

最後エハイルヒッターの拳手として陣営を以てかげテクニカル冷汗を催みセリ。Nitsche教授は高度文化を奨励し、純正科學や哲學を虐待しつゝ高じてこの方面の学者の怨恨を買へう。今般の対象も伊藤博士在りが、かねて思ひじや。

講演終りて有志一同の会開かれる。併し主合新Borsig近く外苑花園の人々は見へず。大使館より昌谷民一人も来れるは缺じたり。予はSpranger氏と連絡と書き通して難波に附む物に在るが夫人ハ前回の翌日明け結婚の上は物腰し何事となく温湯の形あり。予子ノ和英は昨年卒業してゐたが所定へ伺ひたて「考める、ああたまは是非案へ来て下さい」と言ふ。言ふ事が甚か靈骨である点は日本婦人で非常な違ひである。予も既に瘦せていや向熱沙汰を被して済みまん。講演の準備で忙がしいちやうでそれ、その内伺ひますと申狀けさせられた。

日本と歐米との外交をマーカムがもつて、いつか向ふから先手を打たれて、こちらはいつも申し譲れの方に遇うるのであるまい。

午後十時半、友人はSpranger先生にしきりにルモー博士をしらうと促す。予は「モー博士講演ふくの問題」を勧めると、先生は「でも伊東先生が仰引き取りはあらあれば」と遠慮する。それで仲一郎君と一派引き上げたが、Spranger氏は主張してあがら主食管側ではBorsig氏を頼む誰かSpranger氏は接客する者か無いのか不思議な現象である。

寄居と隣うこ一派を仕事し、夜半遅くも喧嘩は続く。

二月三日(火)

今朝元々正金銀ぎを起きて Münchner に登場し、Friedrichstrasse を漫歩して宿を定められました。Innenaufz. はまだ五時あり、二度此の駅を来られて間隔は約一ヶ月と存ります。午後少し引きつづき仕事を行つて、夜物と繋がるが次第より慣習あり。一家然うの駅で吉田と現地の便りを封入せり。夕食は飯田由、今晚は Johanneseum の催された講演を聴き手守たが、彼の口がけは甚だ経験あれども如何か距離感を離れてして冷靜沈黙の性格を欠き、且つ指揮の無知然感あることは画多々と想ひあつ。

今日が予算の日(三月三日)学費開き武田幸一博士の来訪の事があり、飯田は「急セラ」とは何の事ですかと問ひ。予は二見農業者として言ふ所を力説する所であった。製園の間か、予は飯田の園の植物意味を失って居る事を指摘して、これではいけない」と注意すると、彼は専門として理屈を述べ立てる。予は「強調せり」と説明して居る所見て、嘆讃する北山農は呵々大笑して曰く“伊集先生が飯田君を連れて来られた意味が分らなかつたが、頼めてやつた”

予は苦笑ひを強めながら、飯田がケロリとして感覚を失ひかかる。此の種のことは實は日常経験事である。これ以上上の事は云はば限らぬ事である。

一と仕事して飽半蔵で暮れく。

113

二月二十四日(水)

例朝より早く J. F. Tietz を起きて見農と共に開業の仕上りを竣業す。

出版屋の主人来訪し来り、予の『支那建築概説』を出版の伴つき少額贈し合ひて去る。それは出版社より予の著書を聞いて申込し来れる事由り、その内容を聽きに来れる事。

午後 Forster 大特務附し来る三月十一日予と共に Münchener に行くこと、その度にカルトゥンを行き 3000 本の Zugvogel を完結といふ如くと勧められること。それから Balin 鳥や丸の鳥類までして帰る。彼れは實に氣取らぬ事ある好意者あり。

日没するごろ開業一と先づ完成せり。当然一ヶ月を要すべき仕事、二見農の手仕もありて、僅々十日位で竟たすして完了せるは大努力あり。Johanneseum の連中予算の過半を超過せりとは驚異したれり。

又より監修の意味にて予は二見農と飯田とき支那の理系を讀む博ふ。ゆるくと歓喜の胸なる。御理も中々意味あり一回も大満足せり。十時過ぎ帰宿、飯田が野口洋を聞いて居たて幼稚玉賀向を覺せる事無し、懇意に數へたる彼は愚ニキッカム病院を周遊して見ゆかず、予は文法と文章の相違を反復して教へたるが、容易に解きす。お一時も白涙して済く引手下りた。予は今更ながら彼の頭脳の實際、云々と、理解力の不足と、精神回転の速さと見えて極端として歎息せり。彼は一言云ひて言へば“頭脳の發達は小児の程度あり。般別気質すべき点あれども、到底将来獨立してせし處みこと難いがるべし。如何にして今後彼を教育すべきか、予の實大なる考案を要すべし。夜半寝ふ。

二月二十三日(2)

早起。今日Hamburgの方の仕度を圖る。
午前十一時船を出て、正午 Leder See 駐地。午後二時開港場に上りて駅に持ち来らる。四時三十二分着。Hamburgに向か。途中農村。風景を見る。農家は屋根が傾き、粗朶なる中古れど手堅して堅固からず。但し茅葺木造の家は船と見当らず。看板は△形で、少からず見ゆ。さうぞ松の跡あるす多くは山毛榉、柳樹あり。Hamburgの少ひる若の Friede lichauf? ナビスマルクの廟あり。船内過腹を收め。内蓋の壁の中は白壁で、色あ里と聞きしが、勿論實地を見ることを得らず。午後三時四十二分 Hamburgに着。Gundert が居た。大學文部省並日本學研究部長 Gundert 氏と接觸出迎え來り、一行を駆前の Hotel へ向内す。これを Hamburger 上陸せし際のホテルあり。

少時休息の後諸國の境内されて大學の赴き。彼の研究室を一見。Gundert の室と対にして、ハーフナウの壁に講堂を見出し同在場中の方法等を指揮す。講堂は僅に三百人を容る。小競技場あるをみて、運営よりは監督時は Gundert が導かれて競技場を駆け出。集まる者、大學諸教授、市の方々たる人、教授等は三十人、日本學研究学生等、三重師人。

Hamburg 35 の渡車中同席の一時を。Hamburgへ行く商人あるべし。予一行は高たる方とは商人ですかと問ふ。商人を見られたるはこれが間違つてあり。前件は予が席外に出でて聞く。彼の師田氏が「商人 Professor が誰か」と問ふ。然うと答へて聞きて、彼の手に持つた紙を一見せらる可笑し。彼の Hamburg 有り際、丁寧な手渡りと別れを告げたり。彼が如何にして予の Professor たるを教えたるかは知らぬ。

娘子会長代理の歡迎を設置あり。荷車入り。 Gundert も此より最もしき歓迎を許す。Gundert が居る。社はいつでもドアを開けておらずと忠告あり。一体誰も近所から見てして定説あり。忠告は二年半を経て、忠告は古事記精ことあり。(忠告は二年半を経て、忠告は古事記精ことあり)

詫ひ開港場を尋ね、Gundert を説教したるか、或る子供を錢あり。七時を引き上げて Hotel へ向かは。北山は船を乗じて、開港場を走へテテ夕食を踏め。ハル大学の趣き構造を試む。

施設室と溝り、種子は草花と立てたの少し。温室の籠泥瓦とセ。開けばその香の草花の講演会は、こり講者より更に狭い講堂なると臨賓の定員の手引を立ちさうとしている。Gundert が開港場の講話題由に十一を問。走より湖の如く北山度の通航にて壁と講演室、題は「主婦走筋」あり。走時五十分程。

聽取は皆盛況の如くの問題となるが、その主な人、大學院長、江戸院長、Florence 氏、Jäger 氏(OR は高橋院の主任教授)その他約十名の教授、講師、 Gundert 氏之外大約二三人等、在 Hamburg の日本人十数名、七八名、開港場を審議問題の等で盛況にして熱心に見張り。

走より Gundert 氏の懇へれ。1625 年の連茶とお嘆茶店を起し、この連茶不思議な連茶味をうて極めて面白し。未嘗するやうの日本人十人十人二十餘人ビニキ等で歓迎され至習山午後十二時附近) 喫茶室に引け上り壁を走り。

今日の歓迎会は Florence 氏と之の娘の贈り物と歓喜酒と花とが、何處か。彼は博士講師として在日二十年。日本古事記研究の開拓者。大正五年既に引退する。本来猶太系であるが、遂故なるべき生路を彼の學功を以て寛容されたりと。彼は才質第一。上田市長等の消息を聞き、その批を聞て暗然たり。彼の妻と子孫、不健壯あり。

二月二十六日(土)

朝九時近く起床、朝食を済ませて江戸瓦店へ。2年半予一行きを Hagenbeck 大動物園を覗く。並んで園主の他の施設へと骨肉も、云々見えたるが、よりは園の設備工事に相当の興味を惹かれた。ついでへず園を一巡して施設を見た。

お洒落小暮日和のうらいかある好天氣。手はひび、奥歯がちべからず、鎌山風かエスカル、ゆく斗の動物を見て感動元気あらざる。動物の大半は日本とこれ見られぬ珍種であり、音楽をうなぎすうそ、銅骨の行進曲をきき、お祭りの音楽にして音楽を講じ、その教訓を學ぶ。

- ① 山羊 ② Antelope ③ Llama ④ 鷲鷹
- ⑤ Boar ⑥ 水牛 ⑦ 麋鹿 ⑧ 马鹿
- ⑨ 南亞の小鹿(鹿と鹿子) ⑩ 獅子(王虎)
- ⑪ Jaguar ⑫ Leopard ⑬ Puma
- ⑭ 猫と虎の中間 ⑮ Hyena ⑯ ミンバンガル
- ⑰ 猿群(即ち産れたる猿を抱いて辰子母猿)
- ⑲ 印度象 20t 7ヶ月令 ⑳ 一角牛 22 年春
- ㉑ 猪群 ㉒ 鶴類 ㉓ 鸟水鳥類 ㉔ 鳥類
- ㉕ 丹顶鶴

Hitler 体更確病の爲め。

或人曰く、Hitler は這來英雄病に罹れり。自ら壁山大王、ケーデル、ナポレオン一世等に比し、世界中の英雄として自任し、その事業として自己の田文化などを一掃して新文化を樹立せしむ。その手始めとして一ヶ年猶豫御大演説を企て、半歩学習日本を経し、旧来の大演説を模倣すべく打ちこはし、大道院を貴賓室、鶴谷宮の御茶を建てて並べんとする。その運命たるか。殊々ソクダ振に達趣味ありあるが、我れ何と思ふ所か、一面體の心理の空想、ふらすやう思ふ。

併し神父ハ別ニ禁ふる所あることを思ふ。我れは

② 海馬 ① 海象 ③ 海豹 ④ 海豚
等かその他は時古石されば見ること難ハザラシ。難チ可笑しく半面白させ。この萬千度にもパンギン君の滑稽なる形貌態度こそ其の過半振り。海馬の鳴声と實が食いき。海象が鼻を透かす恰好、アラビアの如き巨艦を無害明る生じる様度に實物を取みて急ぐ取付。荷と車並みの芋味あり。鶴が如き海鷺。成る程アラカセラれる海鷺類。一々言ふべからず。

次回の台からは豪華な浮城あり。土木工事用の巨石(高さ九メートル、厚一メートル)を数艘の上に載せて搬送する。底は横丁の命令をよく聞き別け舟にて巨石を押シヤリと本丸之上に載せる。走中船主に舟くわ取らずして、船足を折りて頭を低くし、骨頭に石を押す者あり。その力臂くばし。走より船主頭もは西と引ひきもきである。在り作業終りと後丁はヒラヒヒラの替り、南の慶和が歌ははしそくして大股み小股をきて解く行く。

一寸のまより日本島の改修の状況を見つ、事務所入りし子は重て既東の神社の交付局の修造をかかへれば時子の手を施ぐ。即ち圓を詳して荷袋の官印を取る宮室を詣だ。

民族の歎心を覺えるとこれが必ず必要あることを知り、大木を記して苦惱者ニ職業をうへんとするるるん。古來の英雄は必ず大木を起したるす皆之がそよおきし。秦の始皇帝の万里の長城、隋の煬帝の大運河、日本では聖廟武天皇の東大寺、ナポレオンの巴黎の建設、比々皆然り。

果たし哉、わざの アーチ 及び アーチ のアーチの崇敬と半神と称し歎れり。Hitler は癌病に食心の微弱を漏し居るふらん。智識階級は眉をひそむる口を擡してアラカセ。愚ふに Hitler は世界の大英雄にして成功するやう不知り、子供の叱責ヲ咎ムは累しこう思ふ所アリ。

長い連絡あり。渠は子
が主張として、大空松長, Planning博士, Jannen
氏, 医師中長, Jaeger氏, 貿易ハーバーの教授,
地理學の教授, その他教授等、計二十二名、
一同で食事を終して寝起きる。江戸戸の主人松井氏は
中々勤めたりとて来客の愛意よく手を握りかけ
て笑はせぶなし。渠は椅子に腰を下す文部省大臣。
此は予み漫画一冊さだて花年童と號を出さう。
予は巴を得ず破綻と筆を以て改改すと傍り黒ふ
しこと云ひて、印トみてあくまじき漫画ニ改
急務して一同を別れを惜が、一旦宿は解クテ
唐津城へ向まセ、三時十八時着ツ跡原、京ニ
着て五時半より帰る。時々五時三十分前
日暮チ波うちの時あり。

Haus of the Hansaヨリ解クテ旅館アリ。休
直スミTaxisを覗して日本人會の机窓ニ止く
舍する寸の三十人喫在伯林。理工学生出身の醫
學生モ他子ニ止く机横にて一席を置き聽か
ル。而アT直ふる日本料理にて相多く美味
なり。多くは初見の人あれども、予の隣席を聞け
リと云ふやう、手を貸されうといふやうであらう。
先端ニシテ、太刀の女房し、官修う、望よる、主に
職務者一席を越べ、次に賢能者等がちる。
歌詞の人よりはくつ實例に附し予は秋上(應
昌)ハ、樂(そら)引(ひ)を失(失)うざうざ、は朝(あさ)歌(うた)れ
て古事(こごと)て歌(うた)れれば十時(じ)未(み)シ。

十人ヒ半ナホくつうさ、渠田昇殿ハ御講
三種院スクリの復星を見て大い喜び、日記を
もつて走りて渠田駅へとて渠田車も通達との時
五時半あり。

二月二十七日(日)

尤命チ酒保にて正午近く起床、午後中懶々
休んでいた。少しも活動せぬとして日を暮す。これより
先づ飯田屋まで出かけしが夕食時百二十歩を走らす。
由て中庭の室をドア付と申茶玉し、獨り食堂へ行きまで
食事セラ所ヘ飯田屋まで入り乗ク「夕御食事の事
豆叩き」を聞かれた。家中くとおん茶山の心配へ
至り。さては外出が止められたり門番に向へて申ゆう。
規定外出されしと相違なし。仰身の上から脚と心配に
たまらう。精神的疲憊して気が怠てなく、若しやエ毒へ
つむと食堂へ来て安心セリといふ。枕の頭枕
蓋セモ固つたりあり。

食後飯田用活動見物を行ひ事など云ふ
ラスチ風景にて許すと震醒して出かけたにもかかず
一時決算うたり。飲食店と向へば、よく
かりざりし面白氣うしと言ふ。

夜空騒みどく

二月二十八日(日)

朝起は10時半行き北山と原稿の打合せ
を終り。西条町金銀の駐車markを脱け取
え駄菓子をくと三見、中尾と居り合ひ、同行して土
産物買ひ出かけたり。先づ Friedlichestrasse
モと親子は文の駄販賣を買ふ。價160マルタ。
翌赤羽カラダモ歩坐づ相あと思ふ。序々飯田の
島根(島根)100市斗を買ひて横並。飯田大
喜ぶ。走り。Potassium Strassse 2を行きて
オカヤマ入ス。御座のオセツを买ふ。第一二電
気自動車は撞擊多く、装置種類にして取扱い
中々面倒である。開口セモも聞く重複して一组を
買ひ、其の外購入形、機械など売却する買ひ込み
店を走り、その隣の多路商店へアヒテ種類次
のアーリングンの小刀、鉛筆、高金刷り替紙、大工道具

おどを買ひたるが、酒石一升は飲めたり
時はまだ早けれども食事せばやうとすぐと農業
館を起き、ゆくと腰を落ちさせて高野料理を
飲み、御宿を移す。

腹痛すれば九時あり。走り一升急呑み
で立派園の満腹の原稿を書き
したが、元来体調はよく西洋流に服の内に中止しま
く行かず、推敲を苦心し後半二時までて
寝よせぐ。

三月一日(火)

立ち遅れ腹痛のせいで、二度歩きつて今日
は三月一日が、モーリーで帰朝かと思ひ
つゝInstituteに出かけ庭園を開ける春の書
をあさるが、庵木堂出版の Japanese Garden
田村剛、難波裕之助の著書その他チヤシレ
あり、早速花園町の虎門で大口得る所あり
一氣呵成に起稿す。

昼飯の際腹因の青蘋果をとて踏薙
して注意し踏力矯正せしめんと努力せしめ、
効果覚束なし。彼は股が自ら己の奇病思
御き覚りたるが如カラ、脚の筋肉矯正せし
とする意気すく又嘗てありても如何とし難
難きからんか。

例刻解宿夕食の時偶然一日本人子を刺
き通す。見れば医学博士宮本玲花云々、官本
淑郎の令息あり。兼て入院より現今就
寝に至るや面会の手紙あわせしあり。予は
大い喜び。食事しあがらいいろの旅を聞は
ま面白し。彼は Kaiser Wilhelm 大学にて
医化學を研究のため留学し居るようだ。
八時より Hamaoka-Haneda にて娛樂的(外人
ためめ)講演を聽くこと、寛年氏と飯田とは

講堂を出かず、予は自室へ帰りて休憩の後、大
馬力をかけて原稿の席子、倒れかねて微塵退き
二時寝る就く。

飯田は晩黄の眼と輝いて「君はよく勉強
なさる。而前にあらまじんか」と口傳のお言葉。
予は「勉強は当然の事である。君が少し子を見
習つて勉強してかがう」と答へば、彼は有り難
い顔を發揮して一種の笑顔(?)をたくと笑ふ
ありける。(笑顔を伝づ)

三月二日(水)

昨日より医師飯田が庭園の見出しが問題となり
嘲笑を外矯正せしむる事とす。ベンガーナー、ナタリ
流の読み方をするのと、一つ表示するのと予の最初の
日課とするといせう。

今日は終日 Institute 在て原稿は既定し、
定期評議會を引き受け仕事のみ、夜は遅く
二時半までを終え成る。思へば我ながらよくも
勉強うつくことよ。よくも健康の立場をきこ
ことよ。(精神の病状の心配とつまづきの原因エカルト)
各部の用具をそろへてあるやうに見えます。

宮和洋五の文。
Kaiser Wilhelm 大学の研究室等の意と脳膜面の動
脈と。彼等の頭脳は一般の優秀と思ひます。又が研究
の方針より明め、研究結果は必ず不成功と成功とを
問はず、盡く整理して承く保存し置く。日本では不成功
のまま放置するの欠點を有す。予成功の反古鏡半時
の偉大な設立こと廢りあり。

自己の医室は極かに相當に進歩し成る。医術
は勝目あり。治療純潔度を極めて規範ありて名
手を高い報酬を得難き故、よい加減として努力
せざるが爲より。

二月三日(木)

例別 *Johannit* と赴けた *Ramming* 氏。数日前の歎の手術後は僅もうとて登りやう聞けば強烈な痛りで、初めて大袈裟ある手術。そのため一時性掌から甚強の痛みたりとぞ。強烈な乱暴のあと、*Ramming* 氏の腰病の有無不詳である。

近頃日本に復帰され不順ありて胸骨腫をたる *Johannit* 氏より次から次へと輸入あり。Tone 氏り癌末子で *Hochschule* 行き中止の如きと云ふれ、飯田中野の頭痛を訴へ、癡瘍を覚ゆといひ、アスピリンを服用しつゝあれどもケロリとして頭痛が止まる死覚あり。子が毫も健康の異常を覺へざるは勿えうきに合せあれど、少しも油断はあらず。

午前 *Brown* 大学の *Kreisler* 医東院、手々大きめにて歎少時、次に駆車の大使館の昌谷が来り、手を擱て大使館移築の敷地擴かみ遣し出す。チハ大使館は市役所より引かれて立地選定を争ひたる爲あり。五院場を行て是モ子政府の役人、通商省等務名、種々併せて敷地の選定をす。

官邸のテラス

皆人の身長の實を出さずビア湖上に浮かぶ小島の間に、同時に五丈の短船を残らにからず、操縦者盡男が少くとも北は日光を望むるに少くとも由る。被覆して日光不自由の懸橋は少くらず。健康の計に足えて豪華施設かう易い傾向を有す。

そり廢帝泰晤寺御寺を好み日光の直覺を厭ひ曉ゆうは曉く、泰晤寺御寺を可笑き現象なり。日本人が御寺より是へて豪華施設より日光私營の強烈な印象を以て、自己人は盛んに引いて日光神社等を歓びば、事務打合等より比較的の日光を注意する事あり。

やがて某所大使官邸よりて一同歎を度め敷地の適否を聞き。予は意見を問へる。既に、適否とは申し難しく述べ、更し已むくんは「該様斯様に建築すべきと欲しき食ひしがれ。何れ又宇ニシテ保福地セキテ敷地すべし」と、一と見つ取堪を引き上げ、一同大使館より起上り、饅食を摺かす。これ移さうの場合、我居處屋ヨリ建築内に豪華式を擇ぢ遂に御會上研究を霧うる所あり。

大使館の建築は十年半を経過するまで實用性を多く豪華その他の要素を含むべきものとし、Plan、少しも堅ハサギ、建築内外のdesign も少く無心せしむに豪華は出離の口コトボウ。併し竟ニ南立派ニシテ當社の意をあり。殊モ豪華調度の中心的點があり。その豪華はオランダセミ丸内とか、屋上等の構造をオランダ風みて一層立派であるとか、庭の草が不適応など、異也。官邸の御室を見るにその豪華諸圖鑑は、日本の中洋以上の人々の豪華と同様正に驚くべし。

大使夫人は極かねどこくは豪華にて承く日和屋りたる *La Grande* の豪華と云ふ。日本酒は實に巧みにその物ごとにあり實に運びしら。日本人民はくの國子あり。しかし中々如才なく相当の苦難もある様あり。角浦よい夫人あり。角浦さんは食事はおから日本六ヶ、おと四ヶと少く伊豆の量の糧あり。

度々アメ大使館を歸し、宿泊、食事、少休息、夫婦より午夜は跑馬を止め、駕籠と日誌とおぼきツーリン、昼は御室連ガニ付けて寝る。

二月四日(金)

例別 *Johannit* を脱ぐ。柏林工業出身の *Muller* といふ青年東京、日本へ財産研究を主とめテオカツキ便りを賜はく食しといひ。何れ後日よく書て再会すべしと食めて帰らしむ。*Ramming* 氏と某モ十八日ニ日暮喫食と日本

学会の席で開催の講演会と席を借りておこなう。大通り直ちにその日アーチガウジの駅を出る。夕刻家を出る。食事は例の如く摩訶不思議で、夜は運転し、夜は運転する。

三月五日(土)

今朝約束の如く十時アーチガウジの宿を Fabrikstrasse と訪ねる。半瓦ふる小住宅ながら小さなアーチガウジの閑静な街である。又此處は積み設めていたと出発へ。湯面の紅色を以て運賃を請求し、何異れどもアーチガウジの山の沿いを行く事じた。予も心から嬉しくあり。打ち立つるまで一時立ち止りたり。予は上巻にして風呂敷と現金と腰巻いたる。アーチガウジは跨りとがうと大変ひどい。ス氏は自ら罵声を浴びやら、日中で上巻を買ひ下りて車両税を支拂ひ、運賃金の額立と手を止めらせる装置やら。並木十畳の面やうを見せて品評を乞ひあどし。予は Hans は辰巳地よさや、子自由は良きや、食事は如何。時おり日午食を食ひかゝ、食後はよく高いから充ち注意して身を大切す……など。いろいろ耳に聞かれて笑ひられた。

紀念チスのアーチガウジと予を背せし飯田が描影し、ス氏と予と飯田と背せし主人が描影し、又仲間のオベレントとヨリキ共がればス元に予の影の見ゆすあるまで見送りうる。ス氏は皆日本人の個性の温厚の紳士より人情の優しさは日本人を取たう。氏は日本車と手摺めて顔ある特選を受けるのみより。自己と予と對して多聞探の特選をあすべきか、左理キラ非ざるを見て心配にうらぎ紅色もありと見えた。

走り正金銀券と赴き Max を役取る。今日は土曜日で時間が加わるるより開けず。特ニ取扱い異められたるあり。大半猶財政より Teidlin Strasse, Potzdamer Str. を通じて土産の交換と手稿交換。その所では、(甲) ハンドバッグ二個、これは一島鹿島と云ふ。木の箱を無かりに、おも程として貰ひ取られた。(乙) オベラグラス三枚、(丙) Wallenstein 階段、東京、温泉を計る儀、(丁) 四色絵葉書(エフ) クリップ五つ(戊) 小刀六本、鉛筆一枝ある。日はまだ遅れどもかく疲れれば、又うなづけ日は遅い。また写真を手取せて御方を注文し、家を帰る。

早速より便電あり(二月十九日)一同熱狂的である。スヤクスケの歌ハマツキラ上手はうたを本業とする。食道少林の歌、御の如く原題を認む。彼半ナタは歌題を記く。

三月六日(日)

朝から物語して午後一時朝食にて。今日半ノビリと暮すばかりとて、先づ時子漫画、次に魚と豆の洋食、久し振りに流浴されば長くぶりし暮の日も暮れまいせり。外出せる食事で帰るを待ちて夕食し、少林の歌又してお原

三月七日(月)

皆さんの一眼吉本屋とは日本の二星の者名とは五十音序並外國語学校にて數ほりに置かあり。日本研究部の小便室でアーチガウジの昇級 18^m(五丈九寸四分) かとて長身の方あるが、私体一時君 14^m(一丈二尺七寸) と歩かといふ。即ち一時君 14^m (一丈二尺七寸) の達力である。蓋し筋肉人の普通の体力あり。日本人の普通歩速每時五キ(一里九町) すれば約束の五ドアリ四丈八才す。彼度々差う大知るべし

福子は既に立派な女性となりて秋よく嫁を
あげる。

二月七日(日)

朝からInstitut に赴き、晩餐室と調理室
とに来る十九日の講演の原稿を定めし。
これで一ヶ月が暮れ、講演關係の仕事を終り、
身軽になつた心地もあり。

既日は講演の持つて行く資料を全部
揃ひこの方を安心の体あり。

午後四時終東の如く大使館の品税表來
リ予を猪口へ大使館の邊れ大木、河井は佐
竹市に建築係の邊中院み来矣。大使先生と
大使館敷地の問題につき抗議申す。今度の
領事館は高田よりは遙かに優れるが
先も第一建設課を見こ集れと高まる。次に
高田氏の案内みに建築係一同、大使夫人
連れ立ちて現状を視察す。正午場所は
撤去の直前立ち並び、伊藤を相手の税務
あるが夫君は一つも破らず取り扱して大
使館の歓迎とするといふ。隨ち手荒い仕
事の様ある。これ即ちヒットラーが勞働者
の職業を詐する政策あり。取扱うの費用ハ
市民の憲より榨取する税金で購入する
が結果局有産者の金を無産者にまわること
である。敷地ハ先づ申御あけれど、こゝを
決定するべしと進言して置いたるが、只た
心配あるは建築係が新築を引き受け
ど高みか如何なるものか迷らんといふよ。や
現在の大使館と同式同程あれと仰き處で
進むべしと貢ふゆ如何よ。予は様式上
如何どう既習已疏でなく何より日本趣味
を漂せりが宜しからんと忠告するやれ。

ふるべきか疑はし。施圖を盛る日本趣味
を加へ然るべく、室のplan や大きさ原石にて
可然ふど思えセラ。若し設計をチー生ちと
あれば振つて引き受けさせ思ふらぬど、今
少非當ふ多く仕事する由と工夫をへずともより
恐らくは見よくナイス流の面白からぬ建築と
云ふと転すやと思ふ。

昌裕君、シテの帰朝の際先駆せしむべき荷物
は勿こ大使館より外務省が送る事のとして、税
關の海關を免れ渡しと積みたまう。昌裕君
走は西側をさり餘分計ることは出来ると思
ふと言ふ。子ハ娘みせて大手心を張れや
大使館が次位の便宜を占へ呉れてのよう
そろふ事と思ふ。

夕刻家を歸り、盒はノンビリとして飯田と
話しながら眠り、信里、漫画、日誌などと遊
んでいつとか寝半はり、寝る事む。

二月八日(月)

例の如くInstitut に赴き、今度の講演の
準備を手伝ふと洞へ、午後四時會議の開
始。オホ古安吉は起立、懇意、明義等の掲示の
会議事項にて討論よく排列をめぐり、一旦議論
の間を経て七時四十五分会場を退く。正八
時より開會するといふ(画)ちよゆうとあり。

吉田出として暮生
地方ではナチの基政の反應を有するもの不少、されど威脅を抱れて言行動に現ひ才す。或る日本人某明
るに官衙を訪ぶヨーロッパの市民倒のハイルヒットラー
を行ひつゝ、書を遞したるを見てその敵に向かふ者
へて曰く。吾人はハムを擰すハイルヒットラーを行ひ
し。誰か心よりヒットラーを礼讃せんや。舌を出
て獨り心中の鬱勃を洩らすものと。

会場はまだ残りの施設人の家とお隣りの
が集まっている。京急でこの辺り立派な
家は見つけられないのである。庭園講演会は
来るが、何より相手の人が多く、講師が人よりも多い。
智己婦人の如きは、妻子より旺盛本
物の誕生日。智己婦人の如きは、妻子より旺盛本
物の誕生日。智己婦人の如きは、妻子より旺盛本
物の誕生日。智己婦人の如きは、妻子より旺盛本
物の誕生日。

然しこそ学会の役員は誰も見ひだす。カンジンの
会長 Klemmell は九時と遅ぎます。十五分と遅
ぎて来ない。二十分とあきらめれば健康を
害して廻らぬと出席され、時事新報社は Borchmann
網に代理して賞を貰いと申します。彼は不動産を手
てある。Klemmell が一度と重ねて居るか無
理はない。然るに Nati が之を重用して居るやう
な如きは、Nati の靈廟開創の事は賄賂徇私
の雄よし、眞の人情者よし、慷慨ある識者よし、
は間違ひの如き實は解る。Nati の靈廟は久しか
らずて破綻を蒙るべしと見入る者あり。

八時三十分 Borchmann は司会より開会す。
子は演説の人と並んで講壇を退き、残る会場は半
千人と入りとみたる點は約二百五十席(定席は約百
四十人位)はよく座敷して坐れた。その会は前回

の如きは、前回は日中といつてあり、大陸ヨリ毎満月の日
は光の日中を残すと假定するが、學と云ふが。

此回は、歐米は物質文化を生命とし、精神文化
は只か手段として適用す。物質文化が精神文化
を無視するに思ふからには、之を擴張するが如きは無理
かも日本は依然として亡くない。

一回の宿を聞き合葉又は猪木士の歌を聽くまで
あるが、いつも三四回の出陣歌であり、洋門歌を
Klemmell の隣座は十数度もたたぶ時は多
い。

午時五十分開場喝采の裡で講演を終り、會場
を知人に渡らぬとして十時迄を会場を有り、北山
中尾、鹿児、内三氏を隣れて Niederndorf Platz
の某店に入りビールを飲む。歓談の餘味がや
宿を帰るに際しては施主十二時から、子の癡れが此地に連
りの腹を痛む。

今日の講演を聞かし、學古堂会の例としては一つ
も動かさず、接種せず、全然服薬の一束も受け
持過ぎましたらは、既にしてハ常套から手を取れ
ぬが皮肉な如き接種することあり。Klemmell の人柄の
反映が現つてゐるかす矣。

三月九日(火)

午前 Jantzen は起き Borchmann がさの
準備をあわし、唐樂樂樂樂の点検を終え、午後
北山坂東、路の花道を走り、花を嗅かして面西
から。彼は又家の十八日の講演内容を載せて
いるく注文を出したるが、中々よく見付かん
夕刻宿を離れば、破壊よりよしと直感あり、被
廻の落の小枝の食と云ふ食の習慣あり、娘と朝飯

子供

實を詰めの書籍一日読みて仙臺の墓地を駆て引
道を稽古し、その邊の櫻の樹木に在りて枝折れたり
ざることを惜り、非常な感激した。日本の新幹線は
引退を限らず、駆け走る車道、何でも同じである。
歐米の Niederring、Berlin などでは全然整営せ
てあるのである。Sparanger の子と黒い食をべ
きて居る。

ルラフの手に筆をとるが、文句をいふ始む。高田鉄作より翻訳の色紙を贈られたるやうだ。五十歳より藝術の方面圓満度が進み、絵画と山水画の鑑賞が益々深まつた。山野の風景画は、その筆の如きで、見る者を惹きつける。

夕食後休憩一番、次に又一十九日講義。原語子音をかいて、この處毎日原語の読み方を教へる。文部省稿の翻訳と異なる。兎角して機序を聞き難い。

三月十九日(木)

朝五時半から Messe を受取り正午 Ludi-
til・金。Messe München の Deutsche
Akademie から演説の Pass を送り来る。添附
の書面概要がある。之を理解せんが、筆記が
まださん (Schwung 大) と未だ見て置くとしている。

第三回の再現

- ① 独立精神文化の陰謀時代 Friedreich A. E.
の演説を次に著者 Kant, Fichte, Hegel
等、大聖人 Goethe, Schiller, 海涅 & Heine
等と並んで時代をさうの後1848年を降りて
より Springer, Springer 令首校士等、Nietz-
sche と並んで而して脚注を追加することを得て
- ② 道徳方面では Secession 以後の諸派やユダヤ
人 Peter Behrens, Gropius 等生存する
Behrens、莞て伯林の流傳し、Gropius は伯
林の藝術家。今 Nazi は藝術を強制させ、ア
ナヒ派、道徳等を出て離れて、Nazi は人種
論ある實業主義と威圧主義にて、妻の建築家
も離婚せず。博大な建築家なし、あらゆる建築
が世に出でられず。

Pass は二箇語みて、いかに機序、正確書かれたか
見備して調べを置けよといふのである。腹が
空氣したと思つたのである。

昨日の準備を完成したので早く切り上げ、理髪
をして日本は高コロ病を除き、あるく休憩して
夕食後既早朝出発の用意を整へ、十時起き
と。

三月十九日(木)

午後六時起床、正午日出の時刻である。朝食
を取り仕度すれば既に出発の時である。七時
二十並み宿を出て向四十三番 Anhaltstr. 既に
到着。北山氏や丁度来会す。一時 Kämmerei にて
の演奏と乗る。左車室 演奏ありしむ。右車室にて
得たり。八時六時半起床。車は快速列車にて南に向
つて太平野を走り、風景別々見えてきり五時
二時半到着。そこで Leipzig に至る。次より一晩して

③ 今や政治文化、技術文化社會より種族文化
は滅ぼの一途を辿る。危機感

④ 日中の野球を聽取る。晩に Wilhelm 黒土藝術館
(Yellow Hall) が鳴り日本を想起せり。その後一晩
して有色玻璃 (Farben-Gefäße) があり、日本が外國
人、日本人とも思ひめり。次日午前半時より

⑤ 他の最も恐いは魔ぶり。日本は魔を靈廟
が故に今自己は日本と見せめりし。Hitler 日々
「日本は強化より中國の強化の方が重大なり」と
⑥ Hitler の魔は便宣上日本と觀かず思はず。
彼は日本の國体を承り、自己は日本と觀かず國
体を進むことをして自ら國体の中心たらしめ
、即ち日本の國体、日本精神、等を研究するのを
魔を廢し日本と觀みつゝあり。彼の魔はハリ

詩あり、何時支那を攻撃するや不可知。日本は
自らこれにふらぬ。元から警戒を擧げべし

山と開けた又南進する。ホッコスロベイの国境を
過ぎ、小丘の斜面それども山岳を見下す。田畠と森、民家、渓流ありてやうに食的構造を施す
山の風景と少時停車、又南部 Regensburg にて少時停車。停車ある Gothic の御堂ある城丘を
車上よりは見へず。又南北向て走る太い砂利、
伊格五時五時半 Münchhausen に着き。學するハ
伯爵 Münchhausen が 673 Km、但せらるる野原と
走る所にして山岳巨渓を見ることあらず。成る程
然り肌感を失く國なり。

歐ニ歴史的 Akademie の Wagner といふ男
出迎へて Hotel を境内す。第二層十二丈高人間高さ 5m
一丁目少佐の彼夕食をしたれ。即ちの車にて今起
り満漢席と起り、定めて Münchhausen 大堂玉らん
と思ひし。さよならして一丁目復系部屋へ。小石
建物あり。室に入れば大學算術(政治地理学)、
天文学、正統教義をカツカツ立つ。黒革中年日学者
二等 研究官等。Tintenfass 大種中間物正装あり。
そつ地多くタキシード窮屈士見え客とス大使院
う作田書元音、ラング瓦ふどんの夫人を東宮、日本
人を數名あり。蓋し今日 Akademie Akademie
の祭典式あり。之を禮学と予と取扱ひ様子と予
は何とか式禮と餘興と呼ばれたまう。然もあり。
用食へばといふ八時半才々會場に入る。主席は
三十斗うちあるが羅底はハシと添めかけて紹介す
る。予は定めて數百人の公卿をもんと置ひし
當時の氣氛とて餘う多少並べば力抜かりの聲も
。いよく用食となりて先づ Hauskofce へアゲ
一の長として是々々々接拶を述べ、次々大講堂
の非常口脱離部屋を述べ、後は Auditorium 位又
接拶を最後に述べて予を取扱す。予の演説は
八時五十分より始まり、二十半小時終る。題題取
掌と感激したる様子あり。演説は「日本の人と施し」。

十時半迄お別れと小窓あり。然るに既晴の日やく
主室の内四重一室と被られ、只一人(留學生、化學科
生)で我かれ、他人は二十軒未だとあり。北山氏大々
豪傑の醉すは強硬と拂門にて、何故か四重の日半人
除れせしと語り、その酒量は才とやうと醉の喧嘩
を喜んでする氣合あり。予北山氏を御用て事なきを得
た。

席の主人たる Hauskofce 老爺ハ好色あり。その他の
室の中ニ少女日本衣姿と醉子のうのうの嬌声多
く。十一時半寝あつて宿泊場は北山氏。日本 Inn にて
の改修問題を提起し、總理請ひ入りて終は予矣。
三時半及び腹はぞく。

午後飛船あり、翌日の早朝漢地村に進入り、落込
は現因 14 万石と備合するより。

三月十二日(二)

朝九時半起床、十時起き輸送、走り北山、駕馬
七時半宿出で。Münchhausen と見物す。是ノ Pius-Kirche
正助記、ノンボリヒの建物也。周囲の廣場等へ野獣の春
のウラカム亮光を浴びて半の花園小院が鮮やか麗たり。
駕中助記が一杯掛け連れりて轡子とて駕車管弦の所
乗じ因に可愛い情態あり。Pius-Kirche の内は殊入らざり。
古ニ König's Platz と號し Glyptothek と號るよき
庭園あり。内容を一遍せんが、陳列品は在まで豊か
りなし。Painting 一方の Prophets あり。他の方に
Hitler の展覽あり。此は勿体無視片付たる尤も然
然體の事か。それで降りて觀者へ見あ久留毛皮

④ナマ陳設するサ Hauskofce は予の手と聖く座りて
感謝の詩を述べるもの休まが、其の後腰痛して立ち難
力障害より政治的問題を及ぼす所から予を離
フカトシ、シテソイバウルカテレギリと甚し。後は腰痛は
Hauskofce にて、而してハスコフセは結構でした。おで
今モニアリ。

直立不動の姿勢で立つ。しかも運動子動物まで同じ形
制御の如くするとは感心せり(3の體と骨髄等)。

更より Haus des deutschen Krieges を見る。施主
の堂アーネ・道岸と云う者は體と筋肉質の如く
あり、然るに内なるを見れば、アーネリとして材料を
覺へられて、形造るて充かあり。外觀は四角い柱、内壁
は重きを置くべしと主張するを知ら。餘り探察
より。體制の如きは建築の定評間、設置五年後、
Hiller 実業家の手にて倒壊する事無き。一向無
感かぬが、只が破壊の思ひ切て大きに引出せ
る體く是も、二等が Hiller 実の體色なり。
土木とは Hiller の機の design との接觸感曉ゆ
あり。橋の長さは 100m、経済の高さ、持続性
がこの地盤上に於ける中で電車の通る所か否り。
米國より來る例の有無、ハタ不如か、既土山唯一本
もべし。

家庭院より一つの種あります。形、色、裝飾等、一
つも調和といふ事を無し。しの壁など全くアーネの想像
された美術は無い。藝術文化の方によく間へて、當時
は駄目なり、餘る反対の一例と西村からう。

館の壁と Hiller の音を読み入り、曰く

Kein Volk lebt länger als die
Sekunden seines Kultus.

午後三時帰宿。北山と飯田へ再び外出。少々疲れ
果て十八日満載の學問(=Armenia)を學習し
歩き練習にて用ひん所)手入手を乞う。

夕刻北山、飯田帰り、實習練習の就き

今日既に演説と講習会の開催あり、内容は體と筋肉
病エナジーと反対病とあり、半調音にて主な電步器にて治療
症じて見たり。Hiller は體と筋肉と骨髄と風呂と反対病を
體と筋肉と主な本機器の備合の而する事事上
は得合えりと見られ、多量の煙草と Dentzel-
Cigarette と書を成れり。

施入入りて導原、青年团と民族と民族大行到止
と申すき便り行き、夜半迄を度す所を成れり。

次に Tannenbaum が子を Germisch と連名移かれて
置かれり事、子へ之を譲りて既に Berlin に歸る事
なり。

二月十二日(日)

先や朝顔にて午前を費し。午後は磨大堂 Nienhagen
を出發。一段の休憩を以て、舞踏は Nienhagen
を過る。漢車中より古風の市街連床を眺め、
平野を費す。一ノ小高き山が甚基を越へて Halle と出
て、そこ此山頂に Leipzig と號くと別れ、ルター
を御殊み焉。

漢車中(中國)の繪葉學校、日カリ海産あうどて
小屋しがある日半腰を操りテ波とたるを興あうか。

第2彈りて食站間中々と體を脱きて遊歩を休

二月十四日(月)

今朝 Chitalab と並き Schule が更に十八日
の漢體にてお處せしに、それは一大事との事で、
即ち文化の路と云ふ事呼ぶ。即ちの結果、體育
會は到底子う能て決し、矢張り先の「體」と文化
と對日本と云し、期日を 25 日の延期する事に決
す。何事も想ひ通りの事のみは既に成る。

二見若来り、食食を斐ミして御去をしらむ。
夕刻帰宿、體工合宿と申らば、Gymnastik の施設
の實合本とぞ葉ふらんか。ハーネス坐き體とらに今日
は廢を盡る教練りしうつて半量の體操と課したが、
大上りにゆきふらんと黒い被は漫遊ふて書きで
川へ氣を附めし、矢張り被本と坐て體と遊んで、

三月十五日(火)

今朝も腹工企画議事。遅く宿を出で、走つて正金へ走り、マネージャーと会談。飯田は小遣ひで少し過ち、夫より Friedliche strasse をプランとして Handing を買ふて、少し過ちお手を止め。次に 5000円を立て寄り、相手がたかが手の内へ一回を買ふて失敗したが手を取る。

昼食は飯田と大飯端上席へ。機器を抜ぬいてエキセントリカル式にして。飯田復命して、機器を英語で説明する。機器は機械工場のものである。機器と大飯端上席者との間の方法は不可勝なりと心ゆき手を失策す。

午後2時まで機器は KDWへ行く。結果、這次、Plastite 製品を買ふる。143kg の袋を運んだら車座で運んでいた。若干の傷と細かい針を突いて鳴る音と、夕食を取つたが、食事の際手の筋肉の疲労を覺ゆ。三十六討厭を手始めかずど苦へ。直ちに體を洗ひ、財政は財布を空らう。

三月十五日(火)

午前 9時半 2時半 廉価改定。今日午後正金。Heller が伯林の縫屋さんと会話を終り、体調不良、午後休業にて Tempelhof の飛行場で駆け立つといふ。飯田は駆け立つて、財政より出資する予は Institut にて繰用を片付。今タニ星君が近々縫屋にて縫箱の運びと、2号区別の意味と奉承院の赴く。飯田は Heller 番號を置かれたもの、数十もの脚本をみて何十題か、只今押さえて走る道の人々体と奉手體を打うち、ゆくべて最終と見えて三人在都料理の手配打うち、ゆくべて最終と見えて十時半宿泊引受けられ、飯屋より食事あり。既正直屋を手取、これにて手帳スキーパレ携帯を封入入り、小袋を入りて荷物を見送りし予想通りに成手宛を出立く。

今日飯田は飯田子舎へ赴き就寝を済す。

三月十七日(木)

Institut は正午現地で再検討して度々完全な規範シニカガラ仕事は終了した。午後飯田は飲食館に起きた賃を定めし、この手を終了した。日本は出席の準備にて、飯田は写真を撮り、スケッチの速写を記述し、ヘアド。午後はヤクルトを購て新聞、通報を演じ観る。夕刻帰宿す。晩日便座をきらめ、下腹つぶくにて食鉢、握はる。次れで夕食は例のヘルビールを飲む。ヨリズギゼンタム、腹を貪る。半時才起き出で、家へ向道後カクテルを漫遊など本長から静寂し、夜半まで寝を落ちく。

三月二十六日(水)

登期 11.12.1. 2. 3. 4. 5月(4月セミナリ二月セミナリ)

休日 4月=4月から一月七日までクリスマス及び日体と夏期 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 1月(4月)

春期休暇 3. 4. 5. 6. 7. 8月

秋期休暇 8. 9. 10. 11. 12. 1月

(Berlin 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 1月
9. 10. 11. 12. 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 1月
一館半三月二十日冬の壁とモリ)

日本橋の所在

- Berlin: Auslandshochschule; Seminar.
- 2. Hochschule für Politik (日本二年後)
- Hamburg: Universität (日本二年後)
- Leipzig: = (Japan Institut (日本二年後))
- Bonn: = Seminar (日本二年後)
- Frankfurt: = 植物園の植物学

○ 正教授 (Ordinari. Prof.)

○ 黒崎教授 (Honori. Prof.)

○ 特聘教授 (außerordentl. Prof.)

○ 講師 (Dozent)

Berlin: 11. 12. 1月=日本国民の植物学 (日本二年後)

三月十八日(土)

ゆちくと朝飯をとて山中へ赴き、飯田屋店
路を走り、1時頃の辻文の写真機を購め来る。
二見君来る。来ら様一時ほど去りて仙葉、来を
経由帰る。曲を張り少時難行して者を
留め、来を指揮する。

午後北山在四回清原を終りて帰る事、
左林氏より「帰朝屋敷へおし」との電報を得た
りて雀躍して帝に告ぐ。予も大いに喜びしが、掛
り下りる御書の時刻、在日未の期は、日本での
仕事、その隠居等の決まり時刻を知り。又より北
山城を作成し、D.W.へ趣き被差詔の大品を
買ひ。これにて土産品は書籍の外一切調合
一安心す。

更より一行都龜を赴き、久に懶みて體にくこ
よしや、脚や手等で日中暖を震ふ。體にくこ
美味な菲ざわらをあくふし、あくわらす日本人のため
かけ集うて瓶やかうり。歓談の時を移し、十時
半宿を降り、例の文化人雜種子、信託を取ら後か
南へ退き一時就寝す。

官民教諭の体格(川添)

大臣(總務不顧)恐らくは 20000 m ²	
次官(半時)	8 - 6000 以上 10000 m ²
大學正教授	800 - 1000 m ²
助教授	300 - 500 -
講師	150 - 300 -

Noteこの覚書今は三百萬人アリ。覚書トシテ毎月
300000を納む。即ち一ヶ月九百萬m²。一个年
一億八百万m²となる。これが如何に使用する
かは總務不明なり。

三月十九日(日)

朝被差詔を告ぐ。Jeschleutを抜けた尼山
谷のGarnischヨリ帰り来る。被差詔の様子
などと質し。その他の用度を尋ねると相違なし。午食を
北山丘陵室、例の文庫で藏書の翻訳本等を
見る。予の著書は出版の件につき就職を望
みる。

今日午後並時半Borsigmannの探勝号由ク
同氏を訪ね北山、飯田周辺を。此の家は屋根等の
三階建が相違の坂場木。探勝號は「原島の森」
といふ。午前御申上候」とありは可笑しいと思ひし
が付て見ゆれば主人の皮膚を我慢して頭上に上りきりて如
く大人の頭の骨盤を馬口御扇風機の骨の如き手と腰
を繋ぎの風呂敷と富士絹の扇風機をよへし矣。而
乙頭乙座ちよ包頭を解いて見て高齢者也。夫人は
非常な姿にて風呂敷を頭に巻いたり肩よりかけたりし
て小児の如くはしゃぐ。亭主は言葉少なくしきりに
鷹狩の意を表す。

Borsigmannの室内壁全く室内して壁面のみかか
た支脚画、卓子や机上の支脚陶器、小さき像など
見るたるが多端頗るかは一つやふく。明治時代江

19世纪の哲学者及王族

Friedrich der Große 1712-1786	
哲学	Kant 1724-1804
文學	Goethe 1749-1832
+	Schiller 1759-1805
+	Fichte 1762-1814
音楽	Beethoven 1770-1827
藝術	Hegel 1770-1831
哲學	Heine 1772-1856
政治	Kierkegaard 1813-1855
哲學	Orwall Spengler 1880-1936
	Edward Spranger 1852-
	Karl P. Marx 1818-1883

潤るゆき一つやかに、穏の書斎、仕事室を見る。彼の多年の努力が成る圓画堅美、参考書相寄る多く、日下絶著ふ尾うる書架があり。その精力は大い見るべき事、悲い號は未だの本質を知らう。立那の歴史を知らず、只だ輕然と支那の建築を慕め、形を從てき難い人とする事のよし、言はば世人の仕事たり。支那建築専門家の仕事とは言ひ難い。予は何んぞ學識を疑ふ。

走り手は彼の取扱を贊同し、多少得も可れぬ午後七時迄を休憩、次より又都龜の塾と、今日は御向うを食ふ。うまくやあけねども思ひらず。会と朝日昇昇出づかぬ事、宮本医官は士家渠り合せ、種子を少時も想ひ、宿ひ歸、れば十時半あり。小休原の後、飯田半蔵の奇跡を二三枚見レで、高正寺を過ぎて、今度は飯田神社を参詣。勤めて之を矯正すべしと哀へり。彼の奇

病の中子の指摘たり。

1. おとと五時ヨ軍艦(彼は自ら高地を登る事を自説)
 2. 物と空腹とと上フタル木様を取材をすること
 3. 読書と研究とヨリ一語一句語ふりよくと笑ふこと。
 4. 同時エチオア手振り、聲を震がせること。
- 等ふと云ふ徳は自ら少しも気が付かぬといふ。但に幼少の時より両親が戒められ、「盡り物と喜べれて」ナ物ニされど而も「盡さざれ」と心配苦訴病され、老人より盡り物と被されたりと述懐せり。

彼の想うくはそつ奇病を全般癮疾とすることは不可解らん。少しは政治をなすことを得るやう御めざと一過の望を有し居るや、それが如何ぞア。

算くて時を費して痴お過ぎ一時。至て體の弱く。

支那大使曰く： Hitlerは常に見ると突兀立派の人物である。筋骨引きより堅臘顔面か盤橋にして威儀備へ。頭脳は相當に洋へ、數次演説されし。彼は煙草も、酒も、女を禁じ、身を替ふること無素あり。政略は、下僕を命じて御意立掌せしの観ら之を戴かず。風を起し、遙く飛て飽かず、精力過剰なり。

翌乙の本吉子孫生者ありて、後世何年から日本一大名書院川の世界に満たるべと言ひし由来と、走り丁度 Hitlerの書るといふので、 Hitlerを聲明し、獨りの大発展を確信して底を重の爲し。實際彼がほほ進歩の日本知の數え。彼は日本を敬ひて、旧文化を棄て、日本の精神文化、日本の國体を立つてヒヒを理想として底を重てある。

日本人曰く、支那不意の折で、日本海軍陸戰隊が野戦製の軍艦、降伏と有する敵艦の支那兵に對して死に之を防止したものは何であるかと尋ねる。

日本が十八の露營機を以て優秀なる支那の五十餘機と賤へよくその三十餘機を擊墜した時は如何あるかと尋ねる。

日本人は、これ精神力の強さゆゑありと答へを解せべからず。元氣精神力では何點か勝手すべからず。

ヨルモクノ語
國勢調査ノ語ノ下院の堂を記載せしもの。

1. Christentum. 國民の信仰を問ふ事ニテ、即ち
2. Gottgläubig. e. Christentum, Kathol.
3. Gotthe. Protestant, Non-fiden.

人の記載。

三月二十日(日)

今日は日曜といふに、天気晴朗、一矢をくじ光
輝々として輝き渡る。室外見れば朝の露は三月
見ぬ間で長く持つて、未だ身は解凍露やかかう、實
春は来たつてある。東京は恐らくは春寒が早めに
肌を剥し、日暮から夜は雪の残りがあるかう知れ
云い、伯林の候はるは東京より暖かい。勿論今
年一二月にて五へれるが。

次六時まで、日光を浴びながら九時まで吹朝風を
取る。金田裏り、今日中尾君と其の妹、日出江義と
五山、笠原錦構ニシテおまち物へ、中尾君(即ひ)と來る。
中尾君は最近の娘が死んで、獨り自ら聞く。十一時には
二人は打合連れて Potel & Cie へと出かけたり。

手仕事より、盆栽の準備として手袋や墨鏡の
整理を爲す。植木、園芸、陶器、漆器、瓶を揃え
て、裏庭に設置を終る。次より久しくより諸浴池うち
れ日は既に(れか)、その御宿の日中ヒムフ戸内は大
時計としておは階から下り、漫遊など極めて夕食を
終る。日没になるとさきに寄り。二時半に金田
帰り。Potel & Cie の光景を眺めし、中尾と笠原錦構
を共にして連絡(中尾一日榮輝、錦構の庭にて)、
其の後、金田これかとれども予は Potel & Cie の時、79-ドレ
大王の夢共を語り聞かせ、夜未達が至りて寝る。

三月二十一日(月)

今日正天気立つ晴朗、气温昇騰してやう暑さを
覺ゆ。薄外套を脱して宿を出て、先づ正金みどりで
駅前を走り、次に錦構の庭の近の始末屋にて
午後より懇親の会を設け、其の後、走り錦構ヒットラー、
エーリングの行進を見立がり Friedhof 徒歩一二キ
小電車をあし、近づく Innsbruck を通り、お約一少々
足跡多めの娘の父は賢明南洋と神戸に在留中博士と
思ふとして彼女を尋ねしが、故あって父は島と別れてゐる。

子歸りにか向むかく先せ、外を散るべく散策かく、今
施設は建へり、西半分を移転して新館を施せ
たり。日本志士が行進して日本が歸りたが、その横糸を
得るる善めとて詠ふ。彼女は才能にて有りが故に今
二十三才といふは才能の見かけゆこと、やう圓滿れて見ゆ。
有り合せり平等一等を占め、體勢で歸しやうかとが、世
ヨウの種々の事の喜びを少からじ。

次よりラジオ、ラーベホル、北山三人を招集し空襲
行動事ヨコセラ、相談の左の如く協定す。

- 三月二十日(日) 外省上級官廳會(Hotel Adlon)
- 二十一日(月) 子の主催 Innsbruck の豪華取締(観音)
- 三月一日(火) Innsbruck と日本學生會(講演)
- 三月四日(金) 子の主催 Kaiser Hof と各國招待客の會
- 三月七日(月) 遊行

この對外會は一切開港することを決定す。

次は元ロンドンエリック・カ森根の青年(ベイラン、外派官員)
四月日曜日日本へ日程課課員出かけるまで Marcellus
カリ森根丸にて行きてて暖氣を止める。予算を算出先丸
にて、内閣より好評作にて空襲警備構造あり。

走より Innsbruck を离り K.D.W.へ赴き又してヨーロッパ
實業会議、(LINTZEN、ベンツー、電気、コロ、鋼鐵、火薬
化粧品)これらといふく實業者あり。

宿泊場所は入念に宮本博士先輩に嘱し、食はANS
博士の確実性を聞く。陸上、ヨーロッパ實驗室へ行か
ずと、熱帶するといふ金田。研究狀態を見せられ
る一方は東洋がやうに見え、英國英國と出かけたり。
子は富士一と体験する内里は才能勝玉難り、覺む
れば飛車半らんとす。日記と燃めて暖氣を停く。

研究室の實驗室は既にかかる測定の度に度を取る所である。

三月二十二日(火)

Innsbruck と子遊く。書肆より波文の書函届け
来る。協定の事から開はる。Adlon が
史記を祀して各方面の書肆を電報にて交渉した。

早く大手に見立つた。Rammingの
優秀子にして女優はアーヴィング事務所を離れて跡
へ立ち。

牛井 領田とN.Y.K.は違ひし者を氏子荷物の
問題客と相談せしむ、領田輝東より復命して曰。

- ① 荷物を渡す便のオレ、ベルランより直々Napoli
支局の輸送を手積みせむは不可解あり。渡す
便よりNapoli駅迄運びは可距えれども、此
より船の運ぶは困難あり。
- ② 在庫玉利は伊太利ヤマトハヤシ荷物の内容を括り
取らるゝにておきて、損害を蒙リテ申候事に

- ③ 荷物はヨルニテ輸送する時、六月内ヨリは未だ
未届くべし。一個の運賃30-35 milleにて算す。

- ④ 荷物はヨルニテ渡支を蒙く、大陸に陸中運送を
免れず、積港空港以外、個人の點へ輸送件は通され
て、日本では一層難度を増ぐらる。

予は慶幸る失望セラ。今日渡支の運送は抱力勞められ候キヌ。ベルランアボリモ荷物の輸送不可解と感
悟得ざるか。即ち運賃不適直、にて斯くの如き難度
を取らるゝ難がヤマト先づる。

今が北山近寺、今夜の舞踏会に出席のこと
を取次承諾タ計一目深宿、Taxid(Smoking)より
直接にて駆逐せんと至り、タ意ち。予七十才
で今日まで、Taxidを雇用せんユリヤ抱めて

Taxid 日記

「税金は野獸あり。そつ物質文化は手の取あ
る所が並び處くれば仕事に困り、終る間で我們の身
を殺すことを恐る」
句といふべし。

某堂と税金の苦悶中で會見、即ち學生の住居
を向ひ、「東京よりと春小町、税日く『税金は』國
税は支拂ふるや」と、既て日本人の保護税金を失

あり。實乃非泰國的也亦泰國ニ云ふべシの半魚類
の頭は脚處より生ず。よき方から、定食御膳、入浴、
そして、汗を出さぬが結構食い手足も。食事
は白いツバの胸の肉を細じた國脚をとる。北山度
は自転車にて荷物を荷そべにてて、自転車運転者もまた
此の箱は開け替わるが中々手廣く、自転車運転の時は
料理場、用意、待合室、一ヶ月の支度 130 m. の下
支りの料金 15 m. は決して高からず。此の生活費は傳
統日率十五百円(即ちの Reichen 150 m. 375 位)よりは
足らず、止むを得ず地主様、僕をめぐらと云ふ。一回の講
演料 100 m. 以上多う、毎月少くとも五百円(約 150 m.)あるといふ。
これで何日か泰國にての仕事は渡支も難を除かう。

物の日々をかけ替へて 19 Hotel Lafalauade で
居く。Hotel は Berlin よりて高價なる故て有名
と聞けば、入りて見ゆは内部は今まで在りぬる如き、
大陸同様日本の帝国ホテルの滋味をもと、東洋会館
の派手さなく、意匠面白からず。只天井が八角柱を高く
して平板あると、面積の廣さことが目立つ。東洋者は
二百名位か。大体以下程は、日本式の土よう下のハ
シで、煙草屋又は Taxid。文部省アリの千葉万葉社、
今日晴れて着御す。然危険の連中は有り矢張り
動車を保つしたものが 500 人財にて往來、其の事ヨリニ
第第の想ひ。その他を下す。既に倒れて Taxid 大體
が號一等モテモテを仰組す。コンナ暮暗き事の數多ヒ

皆人の手は甚だ不器用あり。手が弱かぬ御堂
品御の御需を生ず。露地城以上く精緻はみて手
ひよく不器用とある。精巧露地城は一旦ヨウルルと
修繕の面倒ムク。精緻文化は確実を生ずる
ときは己國には確実す。手の文化はこの点みだ
て安全あり。日本は精神文化と手の文化を以て
立つを要し、物質、馬械文化は當時僅づ輔助
を見るべし。これの確信する所あり。

アラ下で走り去りとは如何の事か。
やがて豪華な笑み Taxicab の運転手、冒頭の由と抱き合ひて轟々として車を走る。隣の人は面白いし、知らぬが見物しては易いのかしきりのよう。子の陽気にはなるべく見物客、高橋流吉支那、その事と人間がいる。Taxis は大體、大人より少し車を走る人のよう。高橋は車を走らせるやうに命じて運転手が走る。隣の人は一とおり立派な体格では人間だが、同じ車内に車を運んで車内、容体は消失して隠れていた。予は車を見守つて運転手が車を走らせる。此山岳は坂道でメートルを登りたる車あそび「開拓」は、翌晩二時まで元気張りて走りたる所。あは三番の二に車を走らしゆ、金御引を上げて通勤四時頃が普通ふうとぞ。今度の車はお尋ねを駆けたるつま黒然ロハヒホンは、入場料一人三枚、高橋は空費との事、かく風呂へ云ふべし。金御引小便とえ Taxi が走る入場料、高橋は五日以内を限り。成る程安くあります。

三月二十二日(水)

虚日付に旅外の暖かさを及ぼす良晴天氣、既に地雷からず晴天を止めざ。波止熱休室と云ふし、御用の人は旅休室又は外室あらかじめ多く見るが、婦女は黒然として襟を毛皮を深め居る。開けた襟を着た上では車を放さぬと云ふ。蓋し是屋への路五百歩前半は、車を放さぬと云ふ。車を放さず車の毛皮を纏ひ来る。運転して之を貰ふことしから、Andrea Handel が既往の車を運んで著して窓を車の壁に置きたり。此山岳は車を走らしに運ぶと、Freud が車を走らす。

今日車を引いて子の隣の車は、Wasmann が車を走らす。車を走らす。車を走らす。

東方園は面白きもの少くあります。車上荷物を高價まで且つ荷扱いであるため多く買はず。僅かに数件を買ひてあります。車両式にて車チケットを貰ひて理屈的口近きものと車と並べ。一切の荷物を店舗に渡して車に載せられれば、自ら宿を離り。タクシードラフト便に寄ります。

十一時半晴天で日没、や難舟が晴天を出ます。十二時頃の晴天。今日入浴より乗船。Kaffee の波文あり。遙かに荷物に足一つ乗へた。

三月二十四日(木)

朝晴天で行く。入浴後又行進を要すべく Soldaten と相談して車を走らし。車は一時で上せず、いやうどいい。直ち Taxi を雇めて Potsdamer Platz と走り Meidell の車を走らし、行進を要する。女仕事と組みして深刻ある御座席となり。

波文の書を續々来る。星は頭ふ。予は理髪を了し、またもう一旦宿を歸りて少体。Taxi が尋ねて Taxi を乗じて大使館の前を走り北山岳を下し、正門を出る。館は大使館二十九号室。一時 Taxi で拘め取る。予は一時握手を交換す。日本人は十名位あり。皆一人、側は何れも御食事の人やあるが、天晴れ川格應應の堂のもの者おじやれて食堂に入る。余は主賓、江戸流儀手は通じ天津屋飲食子は榮達して握らき食らうつきお祝がれて陪宴たり。御歎美は豪華簡素でウマカク。

今年の晴天

柏林のこころは北欧一体の晴天が多め。88年振りといふ。88年は例年より五月の気温より高い。98年は 11X8 月より一年の晴天を現れる。波文が残す八月日高湖の晴天のものか。

十九日 大使館等を抜きまじめ、子の答辭の用意も無駄にならうたり。實際で別室まで上り、Förster、駐日大使等を歓迎し、主賓歡迎禮式を行ふ。十一時まで慶祝式にての人は皆盛り、日中人々も充実盛り、子の席長として懇親會めめきたる一席をつく。次に酒をさげて酒と花を喫かす。大使の時局等、珠玉の如きが、懇親會は終りお顔更白々うし。

以後集会は少しあがれ、十二時まで幹事会と開催され、終了後、一行を自転車にて宿に戻り、宿へ到着する。

宿へ歸りて直ちに寝る。

三月二十五日(金)

暮く。起く、朝食は有吉丘東洋館。氏は有吉丘一氏の令息より、少時現在の追憶談を語る。有吉氏は子の荷物を日中お送り方法を説く。予はその意を一言すとヨリ承り。

午後北山氏と難波と後相連れ立ちて新居へ赴き夜食を喫す。宮和博士等と遙り合ふ。次より一旦北山氏を駆け立て少時休息、時々見牛山にて二町半歩いたる市役所前即ち今日の講演場を覗く。Förster、Hannover の講演既に在り。此町半歩等の駆け立てもすく、階段移行の障子立ち合ひして玄関に待つといふ不体裁が示された。

十八 Hitler 感謝

Hiller が猶太人を追逐し、國際文化を排斥し、純正學問と除外する政策、自己の学者知識階級の大業に十四画を打たれて失敗した結果、米國は勝利せずして多數の友家を得た。この意味でヒト本人は Hitler の感謝し居るとは面白き現象あり。

八時十五分開幕が入る。開幕は席3通れから。元来市会議事堂にて定席は二百席あるが三百人半をへぐるやうだ。Förster、北山も開門手帳持て登場。子の答辭にて「自己文化と新日本」の題の下で、私は簡單的は半ば議論的で、一握り歴史書を試し尤勝手終了後、満場拍手歓声がそれ。

今日の講演はこれが度の開幕前より開子を述べば子は折ちくつとぎたる態度で講演の口調で演じたる爲め聽衆が長くて傾聴せり。豫よ北山氏より聞けば、子が自己文化は即ち百年の「ナショナル文化時代」から、ナショナルは世界一ツ巨頭が輩出した時が最高潮であつたことによつて、アーリー時代の御代は即ち五個動を統じ、それをアトマ何と云ひかて片喉を呑み、若し「基督教」の下に「アーリー時代」から「自己文化」は即ちヘトロモニズムの「自己文化」は今や既に百年の「ナショナル文化」を上へくべき運命を負ひて自己を高進して居る」と言つたって、一同笑ったのである。

又一人の範博士は北山氏をつまめて、「伊東博士はその態度といへば、言ふ間じどいは、よく内熱した人の様だが、あれで牛々の頭脳を廢してしまふ」と言つたので、北山氏は「その通り」と答へたといふ。

講演終りて食堂に入る。Förster 氏は子と壁く振子して「Colonial Voting」(東洋の講演)であったと實演して興味た。

食堂は三十人半をり人が、子と主張してやり合つて笑れた。Förster 氏が子と對して運動の脚を述べ、子は答辭を述べ、一同騒やかす歡喜音が子の脚譯の Klemens 氏と、日本美術界の内幕を宣して面白みが生じた。十一時半頃到着したるが、柳井氏大島小原を指まで送られ、是を四月二日

中止見合ひますと、西蔵おじ子の承認を理め
り。子はやれくこれで便命を失うたりと思へば、
安めて會ひてお満ちて、早速羅を脱いて靈れ
た神身を休めた。



18.	Prof. Dr. Haushofer	München
19.	* * Friede	Märburg
20.	* *	Bonn
21.	* * Gundert	Hamburg
22.	* * Errolong	"
23.	Hagenbeck	"

- 第一回 会いたる人々
- ① Seine Exzellenz Admiral Förster
Deutsch-Japanische Gesellschaft
Kurfürsten Str.
 - ② Prof. Dr. Raming
Japaninstitut
Kurfürsten Straße 20.
 - ③ Dr. Wall
 - ④ Dr. Rumpf
 - ⑤ Fräulein von Schuly *
 - ⑥ Herr Kraft { b. } Gesellschaft
Zahl
 - ⑦ Prof. Dr. Kummel
Generaldirektor, Volkerkunde Museen
Potsdamer Platz
 - ⑧ Prof. Dr. Schatzschmidt
Auslandsschule
 - ⑨ Prof. Dr. Springer
Berlin-Schöneberg Tafelstr. 22/13
 - ⑩ " " Börschmann
Technische Hochschule,
Charlottenburg.
 - ⑪ Herr Gesandter Dr. Stiene
Auswärtiges Amt. Berlin
 - ⑫ Herr Legationsrat Roth
Auswärtiges Amt. Berlin
 - ⑬ Herr Staatsminister Wacker
Kultusministerium. Berlin
 - ⑭ Dr. Eckardt
Auswärtiges Amt. Berlin
 - ⑮ Bätz
Röder

Befestigung 10/19

Strom 37

17日午後3時 = 比較測量
8月27日 = 本日測量
= 本日測量
= 本日測量
= 本日測量

17日午後1時 = 比較測量

17日午後1時 = 比較測量
= 本日測量
= 本日測量
= 本日測量
= 本日測量

Schuppen = 貨物倉庫 (倉庫)
 Säule = 柱 (柱), 支持結構 (構造),
 Flüstern = 頭 (耳)
 Quittung = 離票 (離票)
 Ankleien = 着色 (着色)
 Auspaktchen = 荷道 (荷道)
 Josephine = 約瑟芬 (名子)
 Falls = 甚しう (甚しう), ... に落合 (落合)
 Angabe = 告知, 通知 (通知), 申告 (申告)
 Veranstaltung = 例會 (例會), 例會 (例會)
 Verleihen = 借出 (借出), 借入 (借入)
 Kollege = 同僚, 同僚
 in Verlegenheit sein = 害處 (害處), 困難 (困難)
 überreichen = 手渡す (手渡す)
 Friseur = 理髮 (理髮)
 Auf Zuruf beantworten geben (in Verhandlung) = 聞き受け (答應)
 Zur Aufbewahrung erhalten (in Verwahrung nehmen) = 受取 (受取)
 Recken = 脚 (脚), 腿 (腿), 腿 (腿)
 Neubau, vor Kurzem = 従前
 Abtrapazieren = 通路 (通路), 便道 (便道)
 abfallen = 崩壊 (崩壊), 崩壊 (崩壊)
 ob (上) = 上方 (上方), 上方 (上方), 上方 (上方)
 auffallend = 目立つ, 奇異 (奇異)
 ausführlich = 詳細 (詳細), 詳細 (詳細)
 Vorfall = 不幸 (不幸), 事故 (事故), 事件 (事件) = Accident
 vorstellen = 渡す (手渡す)
 erläutern = 説明 (説明)
 Fortlaufig = 前後 (前後), 連続 (連続)
 Rundfunk = 幾乎 (几乎), 收音機 (收音機)
 Verhältnis = 比率 (比率), 比率 (比率)
 unfaßlich = 極めて (ganz), 极めて (極めて)
 jammern = 嘆く (嘆く), 嘆く (嘆く)
 langweilig, Zeit zu lang = つまらない (つまらない), つまらない (つまらない)

Seite 23

blümlich, Salat für Schrot, nach und nach, falls, -Rd., -Rd.,	花の, ソラレの, なまなましい, たんぽぽの, トマトの, ブロッコリーの, リーフレタスの, リーフレタスの,
blütiglich, -Rd., -Rd.	花びらの, 花びらの, 花びらの,
Kräutig = -Rd. = 薬草の	ハーブの, ハーブの, ハーブの,
Wiesen = -Rd. = 草原 (草原)	牧草地 (牧草地), 牧草地 (牧草地), 牧草地 (牧草地),
Gähnen = -Rd. = 打呵欠 (打呵欠)	うなづく (うなづく), うなづく (うなづく), うなづく (うなづく),
Winddrosseln (Frigg), abfallen = To break wind (fart)	風切 (風切), 風切 (風切), 風切 (風切),
Sturmig = -Rd.	暴風 (暴風), 暴風 (暴風), 暴風 (暴風),
Schlechtedweg = -Rd.	悪路 (悪路), 悪路 (悪路), 悪路 (悪路),
Überhaupt = -Rd., -Rd.	全く (全く), 全く (全く), 全く (全く),
Geschweige = -Rd.	無論 (無論), 無論 (無論), 無論 (無論),
Joh bestätigte den Empfang Ihres Schreibens =	宣佈 (宣佈), 既受 (既受),
In Akte verfallt = が経年 (経年)	アーカイブ (アーカイブ), アーカイブ (アーカイブ),
Vorfüglas = 購り手 (購り手)	購入者 (購入者), 購入者 (購入者), 購入者 (購入者),
Zollzolle = 關稅 (關稅), 關稅 (關稅), 關稅 (關稅)	税關 (税關), 稽查 (稽查), 稽查 (稽查),
geselliges Beisammensein = 会話 (会話)	社交 (社交), 社交 (社交), 社交 (社交),
schwungiger Karl = -Rd. (Rd.)	躍動 (躍動), 跳躍 (跳躍), 跳躍 (跳躍),
bonvivant = 上品 (上品), 豪華 (豪華), 豪華 (豪華)	豪華 (豪華), 豪華 (豪華), 豪華 (豪華),
Zeitungeredaktion = 新聞社 (新聞社)	新聞社 (新聞社), 新聞社 (新聞社), 新聞社 (新聞社),
Jahrsüdgete = 通年 (通年)	全年 (全年), 全年 (全年), 全年 (全年),
fordern = -Rd. (Rd.)	要求 (要求), 要求 (要求), 要求 (要求),
ausgeschwafte = 夸張 (誇張), 夸張 (誇張)	誇張 (誇張), 誇張 (誇張), 誇張 (誇張),
so heißt nichts = 何でもない (何でもない)	何でもない (何でもない), 何でもない (何でもない), 何でもない (何でもない),
Firma = -Rd.	会社 (会社), 会社 (会社), 会社 (会社),
Es wird mir schmäler machen von Ihnen trennen zu müssen = お別れはつらいよ	お別れ (お別れ), お別れ (お別れ), お別れ (お別れ),
gemüthlich = 佳心地 (佳心地), 適快 (適快)	心地好 (心地好), 心地好 (心地好), 心地好 (心地好),
Normsgem. = 正規 (正規), 準則 (準則)	標準 (標準), 標準 (標準), 標準 (標準),

Washington D.C., meilen für keine
dritte sehr V-Blatt. Umstände V-Blatt (V-Blatt)
Was mich betrifft Partien
A hat nur gebaut, will gern den Bau
ausarbeiten. Eine gute Gelegenheit

Vorlesung über weiter -> Tücher
Was mich angeht da geht es mir
Sonne im Kindes spießgezackt ist
unstetig hätte

now want in Germany / 10

Vermissen 10/12/2

Wissenschaft 文學 10/12/2 + 12/12/2

Altägypten Leben 10/12/2

East Vorlesung 11/12/2

Mit dem Schiff parallel offene.

Wenn es am + von Kommt 11/12/2

Schlangen 10/12/2 Schlangentor 11/12/2

Welt 約 10/12/2

Erwartung 10/12/2

Vorlesung 10/12/2

Der Fall ist bevorstehend 10/12/2 + 11/12/2

Konfessionszugriff 10/12/2

verglichen 10/12/2, 11/12/2 (economia)

Jewische 10/12/2 (Mus.)

Bank, Bankett = Banquet 10/12/2, 11/12/2

Großartige Begegnung 10/12/2

Lotto = Pilot 10/12/2

Kasse Kasse = Cash

Bertheiligung = 正義, 治世等

Fahrer = 駕駕者, 駕駕者!

Schmuck = 装飾品, 装飾品!

Stimme = 声音, 声音 (福地の声, 声音等).

Stimme = 1. 100% = check

Medizol über 100 Meilen = 100-70% 株主等

RICOH ソニー etc ..., おおきな
ボーナス haben ベーコン ...
Turbo haben ボート ...
100% おおきな おおきな
Einfall - B.B.(Clark) (10/12/2)

ein Einfall schlägt mir durch den Kopf (10/12/2)
der Name fällt mir nicht gleich ein 10/12/2 + 11/12/2

auflaufen, 10/12/2, 11/12/2,

Gamme 順序, 順序, 10/12/2, Gammeprinzip (10/12/2)

Gebärde (Gestus) (10/12/2)

Gefährte = 10/12/2

Kräuseln 4/20. 10/12/2, 11/12/2

Gedulde 10/12/2

Gesindel = Rasse, mob. = Rasse

Mitgliederliste - 10/12/2

Bearbeit = 聞葉

Es handelt sich darum, dass ... 10/12/2

Prokletui, Sohn, = Rasse, Rasse = Osteraktion

Tugend = 道徳 = 善。

Nied = Bangtan = 亂

Ganz zusammen 10/12/2, 11/12/2

Ein zusammenführen = 10/12/2

Pl. = 1. 12/12/2

Pl. = 1. 12/12/2

大正 = 10/12/2 + 11/12/2

10/12/2 + 11/12/2

10/12/2 + 11/12/2

10/12/2 + 11/12/2

10/12/2 + 11/12/2

10/12/2 + 11/12/2

10/12/2 + 11/12/2

10/12/2 + 11/12/2

10/12/2 + 11/12/2

10/12/2 + 11/12/2

10/12/2 + 11/12/2

10/12/2 + 11/12/2

委員会幹事長 生野 完
事務長 堀江洋一
~~事務員~~ 小林恒治 (氏)

汽團長 下野鳳二

団地界世近最

新潟県三
信越時限年四和解
年二十八四一

小林大審 56.
タライラマの私達者(田才)青海一端見付
二月十二日

Copyright 日本建築学会

渡獨記

上

自明治二十二年十一月二十日
至二十三年正月二十日